

ISSN 1883-132

沖縄県立博物館・美術館年報

No. 1

2008

沖縄県立博物館・美術館

序

沖縄県立博物館・美術館は、多くの関係者のご支援により旧博物館を新築移転するとともに、新設した美術館との複合施設として、2007年11月1日を開館いたしました。発展めざましい那覇新都心に出現した、グスクをイメージした白亜のモニュメントは、本県の特色ある自然、歴史、文化、芸術等を国内外に発信するとともに、沖縄の教育、学術、文化、生活福祉等の向上に資する新たな拠点として、大きな期待が寄せられています。

当館では、開館に当たって、一人の館長の下に博物館班と美術館班を置き、それぞれに副館長と学芸員を配する新しい組織体制となりました。また、今回から館の運営に当たって、指定管理者制度が導入されました。指定管理者は、施設管理や教育普及事業の実施、広報、ミュージアムショップやカフェの運営、企画展開催の一部等を担っています。

昨年度は、開館に合わせた開館記念展や各関連イベントを実施いたしました。開館記念展は、博物館で「人類の旅－港川人の来た道－」、美術館では「沖縄文化の軌跡1872－2007」を開催し、好評を得ました。会期中の12月24日には、博物館・美術館全体の利用者が10万人に達し、今後ともより多くの方に博物館・美術館をご利用いただけるよう、一層の充実に努めているところです。また、開館に向けて、博物館では約9万件にわたる資料を旧博物館から移転・搬入し、収蔵庫等に配して収蔵環境整備をいたしました。常設展は「海と島に生きる」をメインテーマに、沖縄の海洋性気候と島嶼性の中で育まれてきた個性豊かな自然や歴史、文化などを体系的に展示しております。一方、美術館では、これまでに収集された沖縄及び沖縄県にゆかりのある作家の近現代美術作品を中心にして、日本及びアジア諸国、アメリカの現代美術作品の常設展示が行われています。さらに、指定管理者による企画展の開催や、各種団体の受入、学校団体への教育普及事業も実施されました。

博物館・美術館の役割として、資料の収集や保管、展示、教育普及および調査研究がありますが、それらを集約した沖縄県立博物館・美術館は「県民の知的共有財産」であります。県民が楽しみつつ学習することによって自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の拠点になりうるとの認識のもと、県民が一体となって育てていく態勢づくりに職員一同微力を投入していく決意を新たにしているところです。

今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2009年（平成21）2月

沖縄県立博物館・美術館

館長 牧野 浩隆

目 次

序

概要	1
-----------------	---

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

利用統計	17
-------------------	----

- I 入館者統計
 - 1. 月別総入館者集計
 - 2. 曜日別総入館者集計
 - 3. 団体別入館者月別集計
 - 4. 減免申請集計
 - 5. 団体入館内訳
- II 施設利用者統計
 - 1. 月別施設利用集計
 - 2. 施設貸出内訳

博物館	25
------------------	----

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 博物館総合調査－与那国島総合調査－
 - 3. 博物館共同研究事業－人類学調査－
 - 4. 調査・研究等
 - 5. 講演等
 - 6. 著作論文等
 - 7. 職員研修
- II 展示活動
 - 1. 展示活動概要
 - 2. 常設展
 - 3. 特別展－博物館新館開館記念展「人類の旅－港川人の来た道－」－
 - 4. 企画展－新収蔵品展－
 - 5. 企画展－「国宝から見る琉球王国の歴史と文化」－
 - 6. 企画展－大嶺薰コレクション展－
- III 教育普及活動
 - 1. 博物館教育普及活動の概要
 - 2. 学校連携事業
 - 3. 博物館体験学習教室
 - 4. 博物館文化講座
 - 5. 展示解説会・館内見学会
 - 6. 博物館ボランティア活動
 - 7. フリーパス
 - 8. 普及資料の貸出
 - 10. その他
- IV 資料収集・保存管理
 - 1. 収蔵資料現在高
 - 2. 2007年度（平成19）新収蔵資料高
 - 3. 2007年度（平成19）収蔵資料目録
 - 4. 所蔵指定文化財
 - 5. 修理事業
 - 6. 化石資料受入事業
 - 7. 資料収集事業－資料収集－
 - 8. 資料収集事業－基金－
 - 9. 資料貸出

美術館	61
------------------	----

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 調査・研究等
 - 3. 講演等
 - 4. 著作論文等
- II 展示活動
 - 1. 展示活動概要
 - 2. コレクション展（常設展）
 - 3. 特別展－美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡 1872-2007」－
 - 4. 企画展－「素朴の大砲～アートキャンプ2008展+マリオ・デル・クルト写真展」－
- III 教育普及活動
 - 1. 美術館教育普及活動の概要
 - 2. 鑑賞活動支援
 - 3. 実技体験支援
 - 4. 見学会
 - 5. 上映会&講演会
 - 6. 美術館講座－教員向け研修会－
 - 7. 講演会
- IV 収蔵資料現在高

文化の杜共同企業体（指定管理者）……………81

I 文化の杜共同企業体概要	
II 組織	
III 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザーハイ	会議
IV 「世界の現代アーティスト50人展—ガルシア・ロルカを顕彰して—」（展示自主活動）	
V 教育・イベント活動（自主活動）	
1. 博物館・美術館開館プレイベント	2. 美術館開館記念展関連イベント
3. ワークショップ	4. 上映会
6. エントランスコンサート	
VI 広報・交流事業	
1. 広報事業	2. 地域イベントへの参加
VII 調査研究等の活動	
1. 調査・研究等	2. 著作論文等

開館に向けた活動……………93

I 博物館新館開館に向けた活動	
1. 概要	2. 収蔵品移転事業
4. 展示準備活動—部門展示—	3. 展示準備活動—総合展示—
II 美術館開館に向けた活動	5. 展示準備活動—ふれあい体験室—
1. 開館までの美術品の収集	2. 展示アドバイザーハイ会議について
3. 倉庫移転業務	4. プレイベント
III 開館記念式典	
IV 博物館・美術館の開館準備について	
1. 博物館新館建設事業の経緯	2. 事業推進体制
4. 建設工事	3. 展示実施設計
	5. 展示工事
	6. 各種委員会

その他の活動……………115

I 沖縄県博物館協会	
II 県外との関わり（日本博物館協会、九州博物館協議会）	
III 沖縄県博物館友の会	
1. 事業	2. 会員への情報提供事業
4. その他	3. サークル活動
IV happ（美術館支援会）	
V 燻蒸・消毒処理	
VI 刊行物	

関係法規抄録……………123

○博物館法	○博物館法施行令
○博物館法施行規則	○沖縄県立教育機関組織規則
○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例	
○沖縄県立博物館・美術館管理規則	○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程	○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
○美術品調査嘱託員設置規程	○美術品保存修復嘱託員設置規程
○博物館の登録に関する規則	○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取り扱い要領

概要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

I. 沿革

【前史】

1936年（昭和11）沖縄県教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の1945年（昭和20）8月、米国海軍軍政府は石川市（現うるま市）東恩納の地に「沖縄陳列館」を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）3月頃、首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

【発展】

1953年（昭和28）東恩納博物館と首里の博物館が合併、1955年（昭和30）には「琉球政府立博物館」に改称した。また、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。1972年（昭和47）の日本への復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、1973年（昭和48）に2階部を増築し展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。2004年（平成16）に那覇市新都心に新館の建設を着工。首里在の博物館は、新館への移転準備のため2006年4月1日に休館。2007年（平成19）11月1日に那覇新都心（おもろまち）に美術館を併設した「沖縄県立博物館・美術館」として開館した。

【あゆみ】

- 1946（昭和21） 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。
1947（昭和22） 12月、前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。
1953（昭和28） 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併する。
5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館を附設して落成、贈呈される。
1955（昭和30） 9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。
1965（昭和40） 大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。
1966（昭和41） 10月、米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。
11月、開館する。
1972（昭和47） 2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展開催
5月、日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称する。
1973（昭和48） 2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設する。
1976（昭和51） 4月、創立30周年記念式典を行う。
12月、「博物館30年の歩み展」開催
1979（昭和54） 6月、特別展「沖縄の洞穴と洞穴生物」開催
1980（昭和55） 1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展—」および「沖縄県立博物館名品展」開催
2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する。
8月、特別展「琉球のシダ植物」開催
11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展—」開催
1981（昭和56） 3月30日付け、博物館法に基づき「登録博物館」として登録される。
10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵—」および「戦前の沖縄写真展」開催
1982（昭和57） 5月、新たに常設展として自然部門を設置。
7月、企画展「沖縄の昆虫」開催
10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化—」開催
1983（昭和58） 5月、企画展「琉球の漆工芸」開催
11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展—沖縄の美 風土と美術工芸—」を熊本県立美術館にて開催
1984（昭和59） 6月、企画展「玉城朝薰生誕三百年記念展—琉球芸能の世纪—」開催
7月、企画展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」開催

- 10月、企画展「今帰仁グスク展」開催
- 1985(昭和60) 2月、企画展「紅型衣装と型紙展」開催
11月、特別展「グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマンー」開催
- 1986(昭和61) 2月、特別展「大嶺薰コレクション—美術工芸の美を求めて—」開催
- 1987(昭和62) 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家一」開催
12月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の400年—」開催
12月、企画展「現代沖縄の陶芸一天野鉄夫コレクション」開催
- 1988(昭和63) 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催
11月、特別展「三線名器100挺展」開催
- 1989(平成元) 11月、特別展「インドネシア更紗展」開催
12月、企画展「真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」開催
- 1990(平成2) 1月、特別展「大アンデス文明展」開催
8月、企画展「沖縄の野鳥展」開催
11月、企画展「沖縄の祭り」開催
- 1991(平成3) 2月、企画展「技と美—大城志津子の世界—」開催
8月、企画展「沖縄のチョウ展」開催
9月、企画展「壺屋陶工遺作展」開催
10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催
- 1992(平成4) 2月、企画展「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」開催
6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催
8月、特別展「沖縄の貝類展」開催
10月、復帰20周年記念特別展「琉球王国展」開催
- 1993(平成5) 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催
2月、企画展「謝花雲石展」開催
7月、企画展「芭蕉布と平良敏子」開催
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催
11月、企画展「刻まれた歴史—沖縄の石碑と拓本—」開催
- 1994(平成6) 7月、特別展「子どもの世界」開催
- 1995(平成7) 6月、戦後50周年記念特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催
- 1996(平成8) 7月、特別展「大久米島展」開催
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催、創立50周年式典を行う。
- 1997(平成9) 4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催
- 1998(平成10) 7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催
11月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催
- 1999(平成11) 8月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催
10月、企画展「日本の技—伝統のかたち—」開催 (第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展)
- 2000(平成12) 2月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から—」開催
7月、特別展サミット開催記念「大琉球展」開催
11月、特別展ハワイ移民100周年記念「日系移民1世紀展」開催
- 2001(平成13) 2月、企画展「沖縄の纖維・染料植物展」開催
3月、企画展「工芸王国一人・技・心—」開催
11月、特別展「かぎりとかたち展」開催
- 2002(平成14) 9月、特別展「港川人展」開催
10月、企画展「沖縄の文化財展」開催
- 2003(平成15) 2月、企画展「おきなわナースものがたり」開催
7月、企画展「旅する種子—運ばれるための巧妙なしあげー」開催
10月、特別企画展「沖縄織物へのメッセージ—田中俊雄の研究—」開催
- 2004(平成16) 2月、企画展「戦前・戦後の文化財保護—仲座久雄の活動をとおして—」開催
8月、企画展「沖縄歴史を絶る秘宝展」開催
11月、企画展「自然界のエイリアン—海をこえて持ちこまれた動物たち—」開催
- 2005(平成17) 2月、特別展「いま・むかし、おもちゃ大博覧会—入江正彦 児童文化史コレクション」開催
- 2006(平成18) 2月、閉館記念特別展「柳宗悦の心と眼—柳宗悦の民藝と巨匠たち展—」開催
3月、「ありがとう・さよなら」キャンペーン (3月22日～3月31日 無料入館)

- 3月、企画展「わたしの宝もの展」(博物館友の会主催) 開催
 3月31日、閉館の集い実施
 4月1日から博物館新館移転準備のため2007年(平成19)10月末まで休館する。
- 2007(平成19) 3月、新館へ事務所移転(29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30日)を行い、沖縄県立博物館の全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31日)。
 4月、新館での事務を開始する。
 7月、沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として文化の杜共同企業体が指定を受ける。
 8月、指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめる。
 11月1日、那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。同時に、博物館新館開館記念展「人類の旅－港川人の来た道－」と美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡 1872-2007」を開催する。
- 2008(平成20) 2月、博物館企画展「新収蔵品展」開催(～3月9日)
 3月、美術館企画展「世界の現代アーティスト50人展～ガルシア・ロルカを顕彰して～」開催(～5月11日)
 美術館「常設展」開会式

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺 薫 (1946年4月～1953年3月)

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (1953年3月～1955年5月)

琉球政府立博物館

山里 永吉 (1955年5月～1958年8月)
 大城 知善 (1962年2月～1969年11月)

沖縄県立博物館

外間 正幸 (1972年5月～1981年3月)
 大城 立裕 (1983年4月～1986年3月)
 宜保榮治郎 (1992年4月～1994年3月)
 當間 一郎 (1996年4月～1999年3月)
 平田 輿進 (2000年4月～2002年3月)
 名嘉 政修 (2005年4月～2006年3月)
 新垣 隆雄 (2007年4月～2007年10月)

沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆 (2007年11月～)

首里博物館

豊平 良頤 (1947年12月～1948年3月)
 原田 貞吉 (1948年8月～1953年3月)

金城増太郎 (1958年9月～1961年12月)
 外間 正幸 (1969年12月～1972年4月)

大城徳次郎 (1981年4月～1983年3月)

大城 宗清 (1986年4月～1992年3月)

糸数 兼治 (1994年4月～1996年3月)

大城 将保 (1999年4月～2000年3月)

當眞 嗣一 (2002年4月～2005年3月)

宮城 清志 (2006年4月～2007年3月)

Ⅱ. 日誌抄（2007年4月1日～2008年3月31日）

2007年（平成19）

- 4月 19日 新垣隆雄室長（博物館館長）他関係職員、港川人骨分担管理に関し東京大学総合研究博物館及び国立科学博物館表敬
韓国済州島の建築家グループ博物館・美術館視察
- 5月 8日 沖縄県立博物館友の会総会（講堂）
11日 「美術家連盟」美術館施設案内
16日 中国北京故宮博物院長施設視察
18日 「写真協会ほか」美術館施設案内
24日 沖縄県博物館協会総会・春季研修会「おきなわワールド」
25日 「美術館を語る会」美術館施設案内
- 6月 1日 「女流美術家連盟」美術館施設案内
7日 本田光子九州国立博物館博物館科学課長、赤司善彦九州国立博物館展示課長、志賀智史九州国立博物館博物館科学課研究員来館
9日 「トリン・T・シンハ」講演会（講堂）
14日 教育庁各課長・副参事（約16名）視察
18日 博物館新館移転作業開始（梱包資料輸送作業、～8月31日）
27日 美術館支援会総会（博物館講座室）
- 7月 10日 博物館ボランティア養成講座開講式
31日 香港大学来日研修プログラム（博物館講座室）視察研修
- 8月 7日 沖縄県立南部工業高等学校IT環境科職員の施設見学
8日 三重県議会議長他施設視察
15日 米国スミソニアン協会自然史博物館学芸員（知念淳子）招聘講演会 於：講堂
- 9月 7日 九州・沖縄ブロック営繕主務者会議メンバー施設視察
島尻地区教頭会の施設見学
12日 中小企業同友会建設関連部会（約60名）施設視察
21日 館内一斉消毒作業（～25日）
25日 ライオンズクラブ（約40名）施設視察
27日 美術館支援会happ総会 於：博物館講座室
28日 秋本金沢21世紀美術館館長視察
- 10月 2日 ハワイ沖縄県人会リーダーシップツアー施設視察
美術館ボランティア育成講座始まる（全10回）
6日 博物館ボランティア養成講座閉講式
18日 博物館ボランティア登録認証式
19日 九州知事会（約70名）の視察
沖縄県立博物館新館展示監修委員会
23日 企業協賛6社による港川人復元模型等4体の贈呈式及び港川人骨の里帰り公開（博物館企画・特別展示室前）
29日 開館前の全館事前プレス・プレビュー
- 11月 1日 沖縄県立博物館・美術館 開館（式典及びレセプション）
博物館新館開館記念展「人類の旅—港川人の来た道—」開催（～2008年1月20日）
美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡1872-2007」開催（～2008年2月24日）
牧野浩隆博物館・美術館長就任
美術館開館レセプション
2日 出前美術館 於：那覇市立神原中学校
5日 港川人骨分担管理調印、ハナンダガマ・武芸洞発掘調査（南城市玉城～17日）、
14日 牧野浩隆館長、平川信幸学芸員全国博物館大会参加（新潟県、～17日）
15日 首里地区行政連絡協議会（25名）博物館・美術館視察
湊信幸東京国立博物館副館長博物館絵画資料調査
24日 琉球中国関係国際学術会議関係者博物館・美術館視察
27日 沖縄セルラー協賛DVD2作品贈呈式（知事室）
28日 国立国会図書館総務部管理課施設係職員3名博物館・美術館施設視察
30日 第12回中国教育関係者代表団の博物館視察
- 12月 1日 開館特別展絵画募集「私が考える港川人」图画作品入賞者表彰式

- 10日 宋中国日本友好協会会長の視察
 11日 三輪嘉六九州国立博物館館長、本田光子九州国立博物館博物館科学課長、森田稔京都国立博物館学芸課長来館
 15日 岸田文雄沖縄担当大臣の視察
 21日 国連大学グローバル・セミナー一行の視察（博物館常設展示室）
 24日 開館後の入館者数10万人達成
 27日 「菊池契月」記者会見 於：美術館講座室

2008年（平成20年）

- 1月 17日 美術館「常設展」ドーセント講座始まる
 18日 横内内閣府沖縄振興局補佐他3名博物館・美術館視察
 20日 博物館新館開館記念展「人類の旅-港川人の来た道-」終了（11月1日～）
 23日 横谷内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付参事官他2名博物館・美術館視察
 24日 ソマーズ・ピアーズ駐日米国大使館情報資料官他3名博物館視察
 25日 紺綬褒章授与式（美術館大口寄贈関係：稻嶺成祚、大浜英治、下地寛清、西村貞雄）
 26日 小川国土交通省大臣官房審議官、川嶋学習院大学教授他博物館・美術館視察
 2月 5日 神戸市議会、長崎県議会博物館・美術館視察
 県民ギャラリー運営委員会 於：美術館講座室
 8日 高野 登支社長（ザ・リッツカールトン ホテルカンパニー日本支社）博物館視察
 10日 ケビン・メア米国総領事館総領事博物館・美術館視察
 13日 博物館企画展「新収蔵品展（平成17・18年度収蔵）」開催（～4月20日）
 14日 平成19年度沖縄県立博物館・美術館協議会
 24日 美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡1872-2007」終了（11月1日～）
 27日 「大嶺コレクション展」開催（～4月20日）
 29日 横山幹生内閣府沖縄振興局総務課課長補佐他5名博物館視察
 3月 4日 アートキャンプ展オープン 於：県民ギャラリー（～3月29日）
 松下孝幸土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長他2名館長表敬及び博物館視察
 7日 安田常雄国立歴史民俗博物館・歴史研究系教授他計7名博物館視察
 10日 円覚寺仏殿等模型製作に係る勉強会（沖縄職業能力開発大学校生の卒業制作による模型とCG制作披露）
 11日 「博物館学習ノート」モニタリング
 12日 中国・瀋陽故宮博物院院長の館長表敬ならびに博物館・美術館視察
 14日 仲程内閣府沖縄振興局第一担当参事官他3名博物館・美術館視察
 15日 美術館企画展1「世界の現代アーティスト50展～ガルシア・ロルカを顕彰して～」開催（～5月11日）
 19日 尾山眞之助文化庁文化部長他2名博物館・美術館視察
 23日 平成20年度開館一周年記念展故宮展調整及び調査（中国・北京市：副館長、萩尾、平川、與那嶺、上原）（～27日）
 25日 美術館コレクション展（常設展）開会式 於：エントランスホール
 28日 美術作品寄贈者表彰式 於：博物館講座室

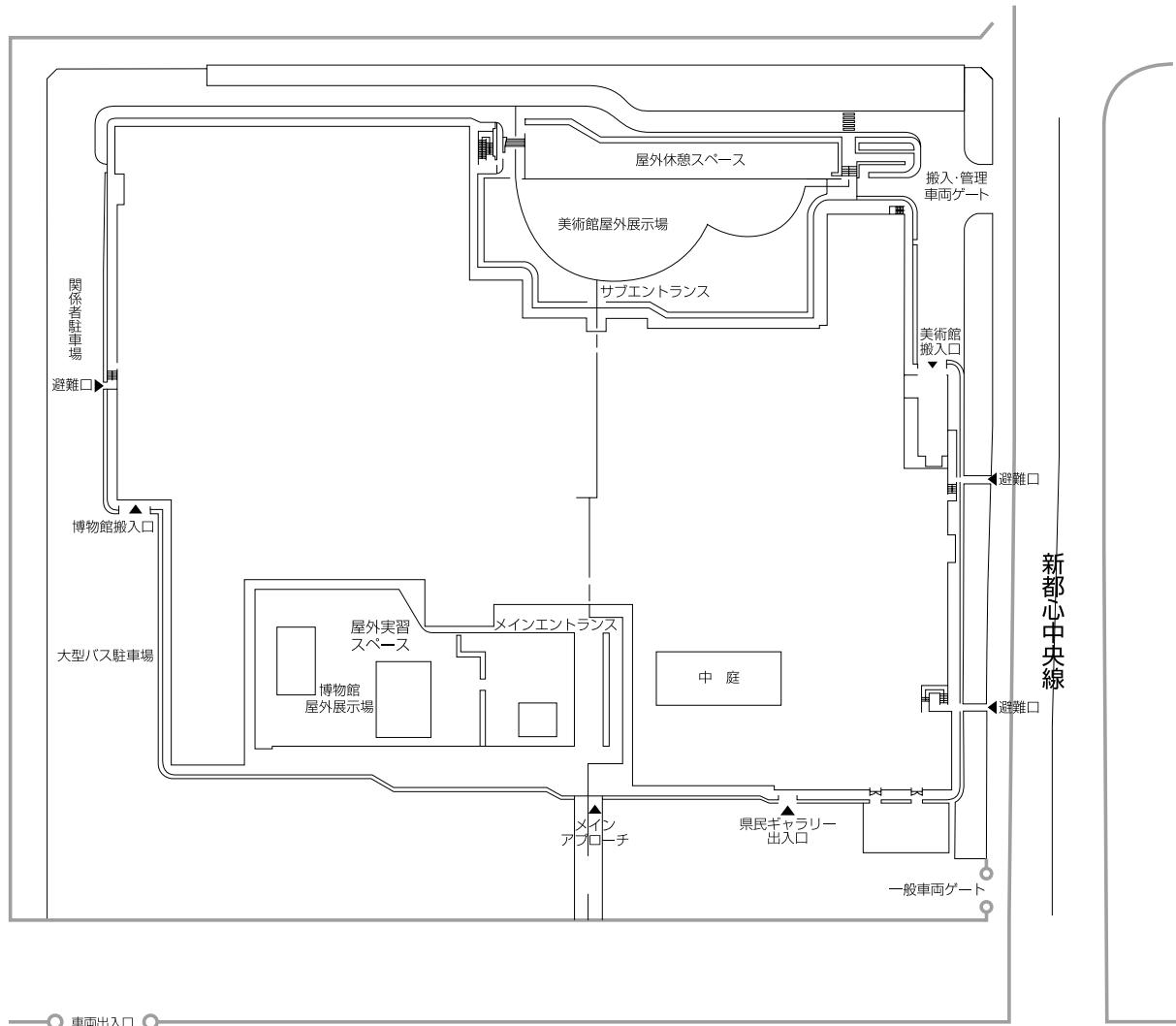


沖縄県立博物館・美術館開館記念式典のようす



沖縄県立博物館・美術館開館テープカットのようす

III. 施設・設備



建築概要

- 敷地面積 31,287 m²
- 建築面積 13,484 m²
- 延床面積 23,602 m²
 - 博物館専有面積 10,473 m²
 - 美術館専有面積 7,516 m²
 - 共有面積 5,613 m²
- 高さ 最高高さ G L + 21.8 m
- 駐車場
 - 一般駐車場 140台 (うち身障者用4台)
 - 大型バス駐車場 10台
 - 駐輪場 25台
 - 関係者駐車場 14台

博物館の主たる施設

- 展示施設
 - 常設展示室 2,596 m²
 - 総合展示室 1,252 m²
 - 部門展示室 1,344 m²
 - 自然史部門 360 m²
 - 考古部門 262 m²
 - 美術工芸部門 180 m²
 - 歴史部門 120 m²
 - 民俗部門 421 m²
 - 屋外展示場 1,425 m²
 - 企画展示室 351 m²
 - 特別展示室 459 m²
- 教育普及施設
 - ふれあい体験室 110 m²
 - 博物館講座室 191 m²
 - 実習室 108 m²

● 収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

- | | |
|----------|--------------------|
| 自然史収蔵庫 | 417 m ² |
| 化石収蔵庫 | 245 m ² |
| 考古陶磁器収蔵庫 | 613 m ² |
| 特別収蔵庫 | 439 m ² |
| 民俗収蔵庫 | 668 m ² |
| 大型収蔵庫 | 358 m ² |

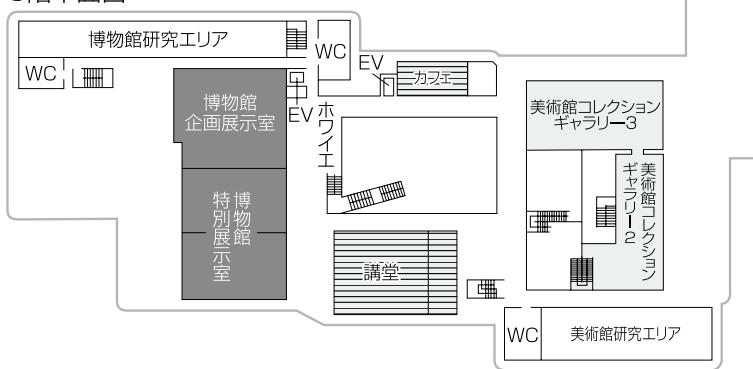
● 調査研究施設

- | | |
|-------|--------------------|
| 研究室 | 176 m ² |
| 研究資料室 | 111 m ² |
| 会議室 | 72 m ² |

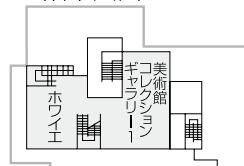
供用施設

- エントランスホール 725 m²
- 情報センター 217 m²
- 講堂 (212席) 327 m²

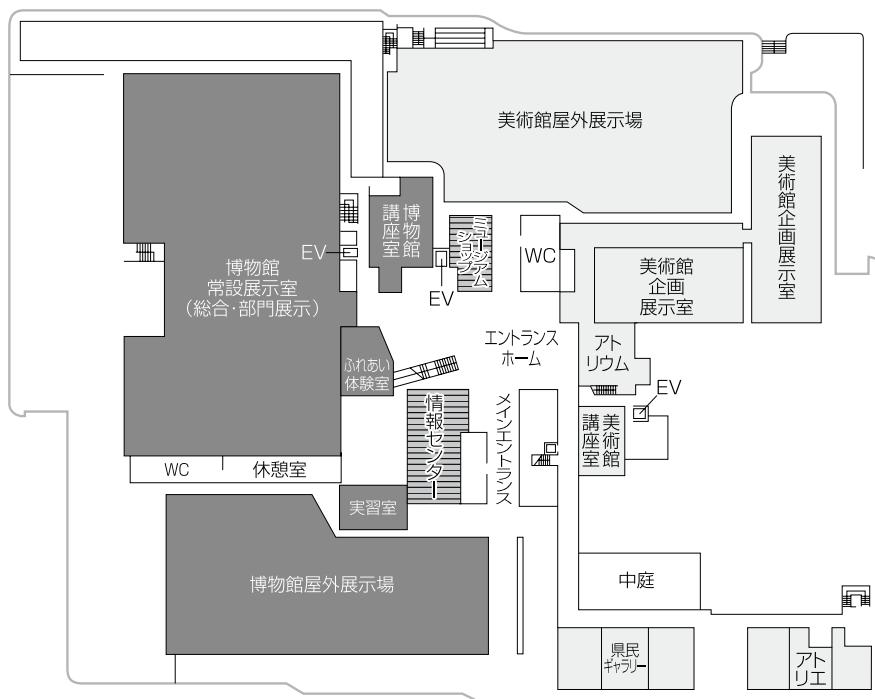
3階平面図



2階平面図



美術館屋外展示場



1階平面図

3階

博物館特別展示室・企画展示室
博物館学芸員研究室
博物館研究資料室
博物館展示準備室
博物館保存科学室・フィルム保管室
講堂
喫茶室

1階

1 博物館野外展示
2 エントランスホール

情報センター

券売
博物館ふれあい体験室
博物館講座室
博物館実習室
博物館常設展示室
収蔵庫1
収蔵庫2
一時保管庫
トラックヤード
収蔵庫3
ミュージアムショップ

友の会事務室

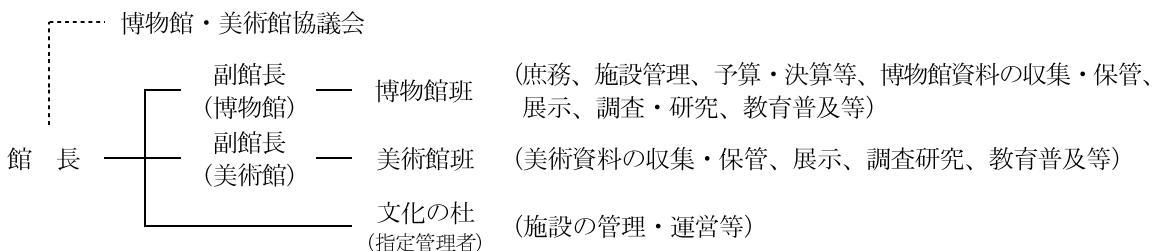
地下

収蔵庫1
収蔵庫2
収蔵庫3
収蔵庫4
収蔵庫5
収蔵庫6
機械室／電気室ほか

IV. 組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館は首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、那覇市新都心地区に2007年（平成19）11月1日に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入しているため、組織は以下のように「博物館班」「美術館班」「文化の杜（指定管理者）」の3つにより構成されている。なお、文化の杜に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】

2008年4月1日 現在

職名	氏名	担当業務
館長	牧野 浩隆	◎博物館・美術館業務の総理に関する事。
参事兼博物館副館長	山根 義治	◎博物館業務の統括に関する事。
美術館副館長兼班長	與那原 慧	◎美術館業務の統括に関する事。

（博物館班）

博物館班長	萩尾 俊章	◎博物館班の総括に関する事。 ◎博物館予算に関する事。 ◎議会対応の総括に関する事。 ◎視察対応の総括に関する事。 ◎出納員に関する事。 ◎博物館・美術館協議会に関する事。 ◎博物館資料の収集方針に関する事。 ◎博物館活動の計画に関する事。 ◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関する事。 ◎学芸員実習の受け入れに関する事。 ◎博物館の鍵の管理に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ○H20年度企画展「厨子甕の世界」に関する事。 ○H21年度特別展「江戸上り（仮称）」に関する事。 ○博物館友の会に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。
主幹（庶務）	前田 直昭	◎博物館・美術館の事務の総括に関する事。 ◎予算・執行の総括に関する事。 ◎文書管理の総括に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎経営調整会議に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ○議会対応に関する事。 ○視察対応に関する事。 ○広報宣伝に関する事。 ○その他庶務事務に関する事。
主査（庶務）	大城 洋子	◎博物館・美術館の庶務業務に関する事。 ◎出納業務に関する事。 ◎予算・決算の資料作成に関する事。 ◎会計業務（負担行為、支出）に関する事。 ◎文書、公印、公用車の管理業務に関する事。 ◎職員の給与、福利、服務及び研修業務に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ○その他庶務事務に関する事。

主 任 (庶 務)	松竹 学	<ul style="list-style-type: none"> ◎施設・財産関連業務に関すること。 ◎備品の登録業務に関すること。 ◎県債、建物及び使用料等歳入に関すること。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関すること。 ◎視察対応に関すること。 ◎情報管理（ホームページ等）に関すること。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関すること。 ◎博物館・美術館協会及び経営調整会議に関すること。 ◎その他庶務事務に関すること。
主任 学芸員 (自然史・生物)	田中 聰	<ul style="list-style-type: none"> ◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎生物分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（植生）に関すること。 ◎H21年度企画展「造礁サンゴ（仮称）」に関すること。 ◎博物館総合調査に関すること。 ◎剥製製作に関すること。 ◎沖縄県博物館協会に関すること。 ◎H21年企画展「八重山展I（仮称）」に関すること。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○博物館紀要の編集・発行に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。
主任 学芸員 (教育普及)	赤嶺 敏	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育事業（ふれあい体験室、実習室、講座等）に関すること。 ◎教育資料の収集・購入・受入・保管・整理に関すること。 ◎博物館学習等の調査研究に関すること。 ◎視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ◎博物館友の会に関すること。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。 ◎ボランティア活動事業に関すること。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関すること。 ◎学校連携事業に関すること。 ◎ワークシート等の企画編集に関すること。 ○文化講座の企画等に関すること。 ○移動展に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。
主任 学芸員 (自然史・地学)	知念 幸子	<ul style="list-style-type: none"> ◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎地質・化石分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎化石資料整理事業に関すること。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○「恐竜ミュージアム2008」に関すること。 ○H21年度企画展「造礁サンゴ（仮称）」に関すること。 ○共同研究事業に関すること。
主任 学芸員 (民 俗)	岸本 敬	<ul style="list-style-type: none"> ◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎民俗分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（民家・高倉）に関すること。 ◎H20年度企画展「厨子甕の世界」に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○新収蔵品展に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。
主 任 (考 古)	羽方 誠	<ul style="list-style-type: none"> ◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎考古分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（湧田窯）に関すること。 ◎H20年度企画展「発掘された日本列島2008」に関すること。 ○資料（土器等）修復に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ○移動展に関すること。 ○常設総合展示室に関すること。 ○情報センターの図書・データに関すること。

学芸員 (歴史)	稻福 恒子	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ○歴史分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ○H21年度特別展「江戸上り（仮称）」に関すること。 ○資料収集事業に関すること。 ○常設総合展示室に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ○『博物館・美術館年報』に関すること。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○博物館広報に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。
学芸員 (美術工芸)	平川 信幸	<ul style="list-style-type: none"> ○美術工芸資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ○美術工芸分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ○H20年度特別展「甦る琉球王国の輝き」に関すること。 ○博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ○博物館資料修理事業等に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○写真資料の整理・貸出、博物館資料の撮影等に関すること。
専門員 (人類類)	藤田 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ○人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ○人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ○新収蔵品展に関すること。 ○博物館紀要の編集・発行に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○博物館総合調査に関すること。 ○博物館ホームページに関すること。
専門員 (人類類)	山崎 真治	<ul style="list-style-type: none"> ○人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ○人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ○H21年度企画展「八重山展I（仮称）」に関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○情報センターの図書・データに関すること。 ○博物館ホームページに関すること。 ○H20年度企画展「発掘された日本列島2008」に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ○移動展に関すること。
嘱託員 (教育普及)	宮平真由美	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関すること。 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関すること。 ○博物館学習等の調査研究に関すること。 ○視聴覚機器の整理・保管に関すること。 ○文化講座の企画等に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。 ○ボランティア活動の連絡調整に関すること。 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること。 ○博物館学習への各種照会事項対応の補助に関すること。 ○ワークシート等に関すること。
嘱託員 (学芸)	上原 久	<ul style="list-style-type: none"> ○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ○写真資料の整理に関すること。 ○写真撮影の受付、写真資料の貸出に関すること。 ○博物館広報に関すること。 ○博物館だよりに関すること。 ○発送業務集約に関すること。 ○H20年度特別展「甦る琉球王国の輝き」に関すること。 ○博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ○歴史・美術工芸担当の補佐に関すること。
事務補助員 (庶務)	山内めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> ○文書受付に関すること。 ○業務補助に関すること。

(美術館班)

美術館副館長 兼美術館班長	與那原 慧	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館予算に関すること。 ○議会対応の総括に関すること。 ○観察対応の総括に関すること。 ○博物館・美術館協議会に関すること。 ○美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ○美術館活動の計画に関すること。 ○美術館の鍵及びカードの管理に関すること。 ○指定管理者との調整に関すること。 ○文化課との調整に関すること。 ○展示企画アドバーザー会議に関すること。 ○県芸術祭に関すること。 ○経営者調整会議に関すること。 ○常設展示室2に関すること。 ○県民ギャラリーに関すること。
主 幹	翁長 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館学芸員の総括に関すること。 ○調査研究に関すること。 ○沖縄美術アーカイブに関すること。 ○企画展示の総括に関すること。 ○美術館年報・紀要に関すること。 ○県企画展2に関すること。 ○学芸員実習の受け入れに関すること。 ○美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ○アメリカ美術に関する調査研究・保存に関すること。 ○常設展示室1に関すること。 ○展示企画アドバイザーハイ会議に関すること。 ○経営者調整会議に関すること。
主任 学芸員	前田比呂也	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の教育普及総括に関すること。 ○東アジア、東南アジア、亜大陸美術に関する調査研究・保存に関すること。 ○常設展示室2に関すること。 ○常設展示室ボランティア育成に関すること。 ○美術館支援団体h a p pに関すること。 ○県企画展1（「南洋群島展」）に関すること。
主任 学芸員	豊見山 愛	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の展示総括に関すること。 ○常設展示室3に関すること。 ○県企画展1（「南洋群島展」）に関すること。 ○沖縄美術第1期（戦前期）、沖縄デザイン、沖縄工芸に関する調査研究・保存に関すること。
主任 学芸員	大城 仁美	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の保存総括に関すること。 ○沖縄美術第2期（戦後～復帰）の調査研究・保存に関すること。 ○沖縄写真の調査・保存に関すること。 ○作品貸出業務に関すること。 ○企画展示室の環境管理に関すること。 ○県民スタジオの運営に関すること。 ○常設展示室1に関すること。 ○県企画展2に関すること。 ○収集委員会資料作成に関すること。
主任 学芸員	國吉 亮子	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館広報に関すること。 ○美術館ホームページに関すること。 ○学校見学に関すること。 ○寄贈者表彰式に関すること。 ○沖縄美術第3期（復帰後）の調査研究・保存に関すること。 ○日本美術の調査研究・保存に関すること。 ○常設展示室の環境管理に関すること。 ○県民アトリエ及びこどもアトリエの運営に関すること。 ○作品画像貸出事務に関すること。 ○常設展示室2の運営に関すること。 ○常設展示室3の運営に関すること。 ○講座室の運営に関すること。 ○講座室の運営に関すること。 ○ボランティアの指導育成に関すること。 ○移動展に関すること。 ○収集委員会事務に関すること。

嘱託員	比嘉 明子	◎収蔵品のデータベースに関すること。 ◎収蔵品の写真（ポジ）管理に関する事。 ○作品画像貸出事務に関する事。
嘱託員	仲村美奈子	◎室内環境の管理に関する事。 ◎保存管理に関する事。 ◎燻蒸・消毒に関する事。 ◎収蔵庫の管理に関する事。 ○作品貸出事務に関する事。
事務補助員	仲井眞 彩	◎文書の収受、発送に関する事。 ◎図書の受付、整理に関する事。 ○業務補助に関する事

※◎は主担当として行う業務、○は副担当として行う業務である。

(沖縄県博物館友の会)

2008年4月1日 現在

職名	氏名	担当業務
書記・会計	宮城 隆	博物館友の会の庶務会計に関する事

【人事異動】

2008年4月1日 現在

職名	氏名	摘要
転出		
参事兼博物館副館長 (庶務)	新垣 隆雄	参事兼沖縄県立糸満少年自然の家所長
副参事	長堂 嘉一郎	義務教育課副参事
主幹	新里 勝	定年退職
主幹	岡山 稔	監査委員事務局
主査	當間 正子	福利課主査
主査	佐和田 勇人	文化振興課
主任	原 裕昭	文化振興課
(学芸 博物館班)		
主任学芸員	久場 政彦	沖縄県立普天間高等学校教頭（昇任）
主任学芸員	與那嶺 一子	糸満市立兼城中学校教諭
主任学芸員	園原 謙	沖縄県平和祈念資料館主幹（昇任）
(学芸 美術館班)		
主任学芸員	新名 悟	西原町立西原中学校教諭
転入		
参事兼博物館副館長 (庶務)	山根 義治	福利課課長（昇任）
主幹	前田 直昭	県立学校教育課主査（昇任）
主査	大城 洋子	森林緑地課主査
主査	新里 勝	※再任用制度により採用
事務補助員	山内 めぐみ	採用
(学芸 博物館班)		
主任学芸員	岸本 敬	沖縄県立那覇高等学校教諭
(学芸 美術館班)		
主任学芸員	國吉 亮子	文化振興課
嘱託員	仲村 美奈子	採用（5/26）
事務補助員	仲井眞 彩	採用（5/1）

V. 沖縄県立博物館・美術館協議会

日 時：2008年2月14日（木） 14:00 ~ 16:00

場 所：沖縄県立博物館会・美術館 博物館講座室

【委嘱状交付式】

委嘱状交付（仲村守和教育長）

教育長あいさつ（仲村守和教育長）

【会議】

館長あいさつ（牧野浩隆館長）

協議会設置要綱等説明（新垣隆雄博物館副館長）

報告事項

・博物館 平成19年度事業説明 博物館班

・美術館 平成19年度事業説明 美術館班

・指定管理者 平成19年度事業説明 文化の杜

協議事項

・博物館 平成20年度事業計画 博物館班

・美術館 平成20年度事業計画 美術館班

・指定管理者 平成20年度事業説明 文化の杜

その他

施設・展示室等案内

【沖縄県立博物館・美術館協議会委員会名簿】

(任期：2008年2月14日～2010年2月13日)

分 野	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	自然史	新城 和治	元琉球大学教授
	歴史	高良 倉吉	琉球大学法文学部
	考古	當眞 嗣一	元沖縄県立博物館長
	民俗	◎比嘉 政夫	沖縄大学地域研究所
	人類	土肥 直美	琉球大学医学部
	美術(画)	○宮城 篤正	県立芸術大学
	美術(立体)	西村 貞雄	琉球大学教育学部
学校教育関係者	美術(写真)	前原 基男	沖縄県写真連盟
	沖縄県小学校長会	仲村 善郎	沖縄県小学校長会
	沖縄県中学校長会	比嘉 秀勝	沖縄県中学校長会
社会教育関係者	沖縄県高等学校長会	仲眞 正伸	沖縄県高等学校長会
	沖縄県社会教育委員連絡協議会	藏根 芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会
	沖縄県高等学校PTA連合会	西銘 生弘	沖縄県高等学校PTA連合会

(◎=会長、○=副会長)

V. 予算

2007年度博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館・美術館 一般管理運営費	博物館・美術館 指定管理費	博物館費	美術館費	博物館新館・美術館 建設事業費	博物館新館移転・ 資料整備事業費	開館準備事業費	合計
報酬	2,617,140	0	3,734,880	3,650,840	0	0	0	10,002,860
賃金	881,000	0	1,990,000	1,508,460	0	5,535,000	0	9,914,460
報償費	0	0	45,600	297,600	327,600	0	33,600	704,400
旅費	11,380	0	3,613,115	2,465,380	226,940	0	3,728,430	10,045,245
需用費	74,001,898	0	7,448,884	3,768,757	18,824,561	0	3,128,000	107,172,100
役務費	2,554,914	0	3,027,945	2,519,148	252,000	0	0	8,354,007
委託料	69,650,449	42,039,928	601,000	57,229,268	6,450,143	38,801,220	94,810,730	309,582,738
使用料及び賃借料	627,400	0	119,630	4,560,045	0	0	0	5,307,075
工事請負費	0	0	0	0	500,000,000	0	0	500,000,000
備品購入費	1,134,830	0	9,999,675	20,000,000	177,718,116	0	0	208,852,621
負担金補助及び交付金	0	0	75,000	12,000	0	0	0	87,000
公課費	81,900	0	0	0	0	0	0	81,900
合計	151,560,911	42,039,928	30,655,729	96,011,498	703,799,360	44,336,220	101,700,760	1,170,104,406

2007年度歳入状況

(単位：円)

	収入額	説明
土地使用料	10,892	自動販売機土地使用料
建物使用料	2,987,534	喫茶室、ミュージアムショップ建物使用料
宝くじ助成金	61,615,000	宝くじ助成金
文化財修復助成金	3,520,000	文化財維持・修復事業助成金
雑入	541,489	電気料金等
合計	68,674,915	

VII. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2008年3月31日現在

	分類	件数	小計
博物館	自然史	54,982	88,529
	人類	65	
	美術工芸	9,901	
	歴史	10,859	
	考古	6,665	
	民俗	6,057	
美術館	平面	2,102	2,180
	立体	30	
	映像	19	
	その他	29	
総計			90,709

利用統計

- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

1. 入館者統計

1. 月別総入館者集計

単位：人

年	月	博物館						美術館						
		企画展			特別展			企画展			特別展			
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	17,090	12,351	29,441	0	0	17,608	340	17,948	34,598	12,691	47,389	0	0	
12	12,014	7,898	19,912	0	0	8,107	267	8,374	20,121	8,165	28,286	0	0	
2	1	13,723	7,343	21,066	0	0	12,330	942	13,272	26,053	8,285	34,338	0	0
0	2	10,428	5,292	15,720	45	1,987	0	0	12,370	5,337	17,707	0	0	0
8	3	11,959	6,719	18,678	4,244	58	4,302	0	0	16,203	6,777	22,980	894	566
合計	65,214	39,603	104,817	6,186	103	6,289	38,045	1,549	39,594	109,445	41,255	150,700	894	566
目標	63,386	17,420	80,806	1,368	69	1,437	47,095	905	48,000	111,349	18,394	130,243	0	0
達成率	102.9%	227.3%	129.7%	452.2%	149.3%	437.0%	80.8%	171.2%	82.5%	97.9%	224.3%	115.7%	-	-

*文化の日は特別対応として博物館常設展を無料とした。その人數は常設展にはカウントされていない。

2. 曜日別総入館者集計

単位：人

曜日	博物館						美術館							
	企画展			特別展			企画展			特別展				
	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計		
月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
火	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計	65,214	39,603	104,817	6,186	103	6,289	38,045	1,549	39,594	109,445	41,255	150,700	894	566
目標	63,386	17,420	80,806	1,368	69	1,437	47,095	905	48,000	111,349	18,394	130,243	0	0
達成率	102.9%	227.3%	129.7%	452.2%	149.3%	437.0%	80.8%	171.2%	82.5%	97.9%	224.3%	115.7%	-	-

3. 団体別入館者月別集計

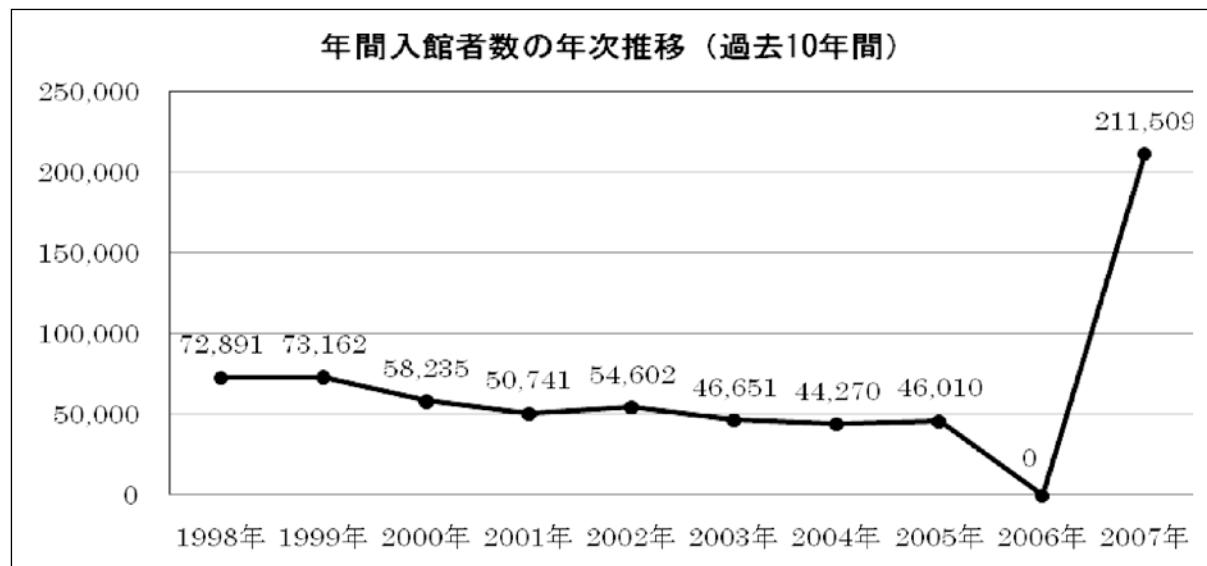
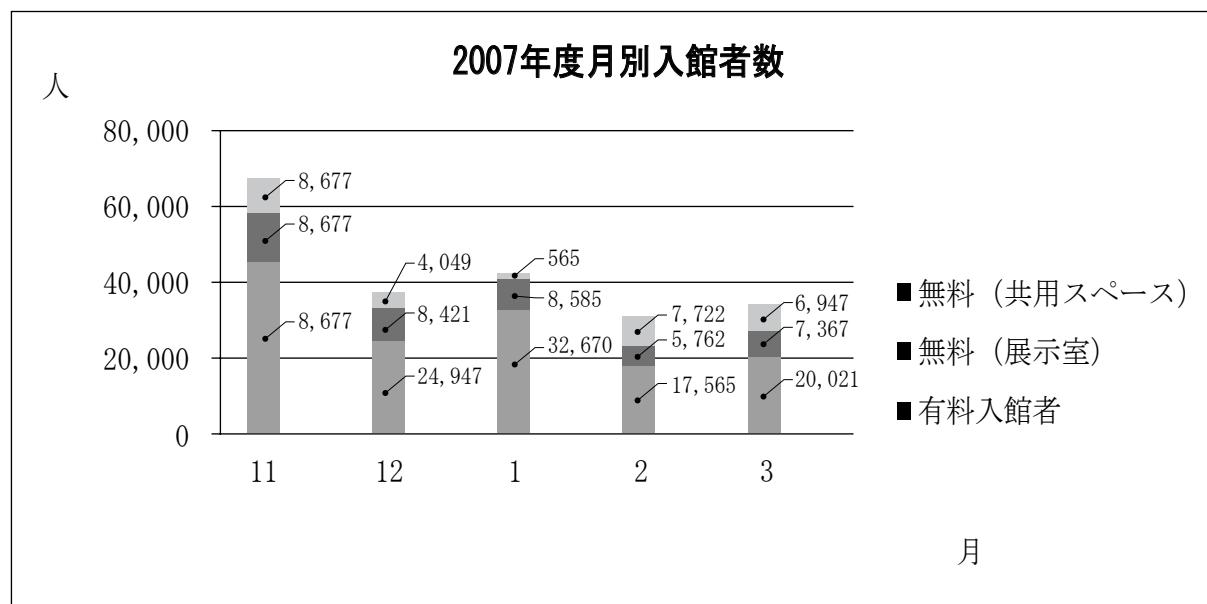
年	月	県内						県外						合計						
		小中生	高大生	人	団体数	人	団体数	人	団体数	人	団体数	人	団体数	人	団体数	人	団体数	人	団体数	
	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
07	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11	50	3,669	1	32	3	56	0	0	54	3,757	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12	22	1,496	4	213	6	127	1	36	33	1,872	1	94	7	1,289	0	0	8	1,383	
20	1	7	531	8	407	1	11	1	49	17	998	0	0	3	379	1	14	0	4	393
08	2	14	1,631	8	370	2	18	2	74	26	2,093	1	108	1	30	0	0	2	138	0
	3	13	1,400	2	105	0	0	11	452	26	1,957	1	62	4	583	0	0	5	645	0
	合計	106	8,727	23	1,127	12	212	15	611	156	10,677	3	264	15	2,281	1	14	0	19	2,559

※その他に含まれる団体は幼稚園・保育園などの教育機関である。
※数値は団体見学者を事前予約し観覧した学校である。

4. 減免申請集計

	学校関係	旅行社	マスコミ	福祉施設	博物館・美術館	その他	合計
4月	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-	-
7月	-	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-	-	-
10月	-	-	-	-	-	-	-
11月	*	*	*	*	*	*	436
12月	124	70	4	2	0	1	201
1月	43	69	10	105	30	3	260
2月	145	78	0	72	0	27	322
3月	30	3	0	1	1	5	40
合計	342	220	14	180	31	36	1,259

*11月は分類の数値がなく合計のみ



5. 団体入館内訳

【県内 小学校】

のべ83校 5,761名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11		兼次小学校	19	29	11		沖縄カトリック小学校	90	57	12		与儀小学校	93
2			馬天小学校	75	30			越來小学校	56	58			琉大付属小学校	14
3			東江小学校	94	31			伊豆味小学校	16	59			北玉小学校	87
4			久高小学校	8	32			銘苅小学校	173	60			宇栄原小学校	91
5			大岳小学校	36	33			垣花小学校	8	61			宮城小学校	124
6			古見小学校	5	34			伊良波小学校	105	62	1	10	泊小学校	147
7			西崎小学校	121	35			松川小学校	91	63		18	天妃小学校	94
8			美里小学校	119	36			津堅小学校	24	64		23	金城小学校	117
9			下地小学校	36	37			比嘉小学校	31	65		24	伊平屋小・野甫小	23
10			浦添小学校	102	38			嘉芸小学校	33	66		24	金城小学校	80
11			真地小学校	96	39			与儀小学校	100	67	2	8	壺屋小学校	65
12			神原小学校	109	40			松田小学校	21	68		13	慶留間小学校	9
13			鳩間小学校	7	41			三原小学校	19	69		13	真壁小学校	30
14			与那国小学校	21	42			松原小学校	9	70		15	安謝小学校 なかよし学級	7
15			白保小学校	22	43			嘉陽小学校	6	71		20	新城小学校	31
16			小禄南小学校	139	44	12		与儀小学校	102	72		23	あけぼの小学校	17
17			真喜良小学校	62	45			仲里小学校	31	73		24	真嘉比小学校	41
18			漠那小学校	16	46			安富祖小学校	23	74		26	高良小学校	147
19			安和小学校	17	47			嘉芸小学校	31	75		29	上田小学校	163
20			北美小学校	119	48			山内小学校	144	76	3	7	泊小学校	158
21			坂田小学校	155	49			壺屋小学校	39	77		12	伊波小学校	134
22			若狭小学校	72	50			城北小学校	140	78		12	馬天小学校	80
23			仲井真小学校	203	51			垣花小学校	47	79		13	嘉芸小学校	33
24			小禄小学校	61	52			曙小学校	46	80		13	伊良波小学校	101
25			曙小学校	135	53			中川小学校	16	81		13	天妃小学校 なかよし学級	8
26			大里北小学校	13	54			小禄南小学校	142	82		14	嘉芸小学校	26
27			渡嘉敷小学校	14	55			今帰仁小学校	63	83		18	城西小学校	156
28			前島小学校	54	56			石嶺小学校	149					

【県内 中学校】

のべ21校 2,683名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11		西崎中学校	217	8	12		池間中学校	26	15	2	1	具志頭中学校	139
2			南風原中学校	70	9			平安座中学校	34	16		2	興南中学校	434
3			北中城中学校	184	10			瀬底中学校	22	17		15	宮里中学校	242
4			潮平中学校	36	11			狩俣中学校	32	18		20	港川中学校	34
5			高嶺中学校	92	12	1	17	佐敷中学校	33	19	3	7	城北中学校 若夏分校	18
6			上本部中学校	49	13		25	安岡中学校	37	20		11	安岡中学校	184
7			あげな中学校	309	14	2	1	美里中学校	272	21		12	昭和薬科大学付属中学校	219

【県内 高校】

のべ20校 1,021名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11		昭和薬科大学付属高校	32	8	1	25	陽明高校	29	15	2	15	南部工業高校	38
2	12		沖縄工業高校	21	9		29	那覇国際高校	28	16		19	陽明高校	24
3			興南高校	36	10		29	沖縄工業高校	22	17		20	昭和薬科大付属高校	45
4			西原高校	115	11	2	1	沖縄工業高校	40	18		26	美里高校	84
5	1	17	泊高校(夜間部)	10	12		5	那覇国際高校	26	19	3	12	沖縄工業高校	59
6		18	沖縄水産高校	212	13		5	浦添工業高校	72	20		19	糸満高校	46
7		23	那覇国際高校	41	14		6	沖縄工業高校	41					

【県内 専門学校・大学】

3校 106名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	12		沖縄大学	41	2	1	22	専修学校インターナショナル	49	3	1	29	沖縄県消防学校	16

【県内 養護学校】

のべ18校 212名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	11		島尻養護学校	46	8	12		沖縄盲学校(高等部)	22	15	12		西崎養護学校	37
2			沖縄ろう学校	4	9			鏡が丘養護学校	29	16	1	29	鏡が丘養護学校	11
3			城北中学校(若夏分校)	6	10			大平養護学校(小学部)	13	17	2	19	沖縄盲学校	8
4	12		沖縄盲学校(小学部)	4	11			那霸養護学校	22	18		29	沖縄県立島尻養護学校	10

【県内 その他】

のべ15団体 611名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	12		島尻地区特別支援教育研究会	36	6	3	11	那霸市立泊幼稚園	104	11	3	22	内間児童センター	22
2	1	12	具志頭児童館	49	7		13	礼邦学園	20	12		26	小禄学童クラブ	23
3	2	19	那霸市立安謝幼稚園	65	8		14	はとぼっぽ保育園	19	13		27	パークアット児童学園	55
4		27	報恩幼稚園	9	9		18	童夢幼稚園・保育園	51	14		28	しんざと学童	53
5	3	8	宮城ヶ原児童センター	31	10		20	サンライズ英語幼稚園	53	15		28	みどり町児童センター	21

【県外 中学校】

のべ5校 547名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	12		矢部中学校(熊本県)	94	3	3	7	成城中学校(東京都)	141	5	3	13	山北中学校(神奈川県)	62
2	2	28	荒尾第四中学校(熊本県)	108	4		8	成城中学校(東京都)	142					

【県外 高校】

のべ13校 2,146名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	12		烏山高校(栃木)	171	6	12		小浜高校(長崎)	95	11	3	11	城東高校(東京都)	333
2			明成高校(仙台)	41	7			与野高校(埼玉)	168	12		12	長野俊英高校(長野県)	96
3			静岡西高校(静岡)	253	8	1	10	府中西高校(東京都)	325	13		14	長野俊英高校(長野県)	49
4			宇都宮短期大学付属高校(栃木県)	540	9		23	古知野高校(愛知県)	21					
5			開智高校(埼玉)	21	10		27	中条高校(長野県)	33					

【県外 専門学校・大学】

2校 106名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	2	27	愛知教育大学	30	2	3	15	愛知造形デザイン専門学校	105					

【県外 その他】

1団体 14名

No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数	No.	月	日	学 校 名	人 数
1	1	31	筑波大学付属視覚特別支援学校	14										

II. 施設利用者統計

1. 月別施設利用集計

単位：件

	博物館				美術館					共有	その他			合計	
	特別展示室	企画展示室	講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	講座室	県民アトリエ	子供アトリエ		講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示	
2007年	11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12月	0	0	5	2	0	0	1	0	0	2	1	0	0	11
2008年	1月	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	2月	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
	3月	0	0	2	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	9
合 計		0	0	10	3	0	0	3	0	0	8	1	0	1	26

2. 施設貸出内訳

日 時		施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者名）
2007	12/ 8（土）14:45～16:30	博物館講座室	講演会「伝統と伝承-職人の生き様-」
	12/11（火）14:00～16:00	講堂	「不都合な真実」上映会&セミナー(第1回)
	12/11（火）18:00～20:00	講堂	「不都合な真実」上映会&セミナー（第2回）
	12/15（土）09:30～16:00	博物館講座室・実習室	キッズフロンティアワークショップ
	12/16（日）09:30～16:00	博物館講座室・実習室	キッズフロンティアワークショップ
	12/16（日）15:00～18:00	美術館講座室	沖縄県美術家連盟理事会
	12/19（水）18:00～20:00	博物館講座室	中国と沖縄を結ぶシンポジウム
	12/21（金）17:00～21:00	博物館講座室	「蔡温と国土経営」連載終了記念公開座談会
2008	1/19（土）12:00～17:00	博物館講座室	沖縄県高等学校野球連盟指導者講習会（県高等学校野球連盟）
	1/26（土）09:00～13:00	美術館講座室	日韓文化交流基金會議（日韓文化交流基金）
	2/17（日）13:00～17:00	博物館講座室	税務講習会（沖創建設）
	2/27（水）13:30～17:30	美術館講座室	セミナー（OKINAWA 産業振興プロジェクト）
	2/29（金）13:00～18:00	博物館講座室	沖縄デザインコンテスト（OKINAWA 産業振興プロジェクト）
	3/ 7（金）13:30～19:30	講堂	講演会：電子情報通信の研究が面白い（フロム沖縄推進機構）
	3/ 7（金）18:00～21:00	博物館講座室	講演会：盛和塾 沖縄
	3/11（火）13:00～17:00	博物館講座室	法改正に関する研修会（行政書士法人なか）
	3/11（火）14:00～17:00	博物館実習室	博物館友の会（家譜サークル勉強会）
	3/14（金）13:00～22:00	講堂	セミナー&報告会 デジオキ×ジブリ（フロム沖縄推進機構）
	3/19（水）11:00～18:00	講堂	沖縄デジタルアーカイブ推進協議会講演会
	3/23（日）08:30～18:00	講堂	日本映像民俗学の会 沖縄大会
	3/28（金）13:00～22:00	講堂	憲法講演会とお笑い米軍基地：生活協同組合コープおきなわ
	3/30（日）10:30～12:30	講堂	当蔵町子供会学事奨励会

博物館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補性をもつて存在するものであるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む総合調査事業、他機関との共同研究事業、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究がある。

総合調査としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各分野の基礎資料の掘り起こしと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（1993、94年度に実施）を皮切りに、波照間島（1996、97年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～03年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。2004年度（平成16）からは与那国島について調査を実施し、2008年度（平成20）に報告書を刊行する予定である。なお、通常総合調査は3年間で実施しているが、2007年度（平成19）は新館移転のため、報告書の刊行を1年延長した。また2011年度（平成23）にこれまで実施した調査成果を生かした展示会を検討している。

他機関との共同研究事業は国立科学博物館や東京大学との共同で、人類学調査を実施している。2006年度（平成18）から本格的な発掘調査をおこなっており、2006年度（平成18）は南城市玉城のハナンダガマ遺跡で、また2007年度（平成19年）は引き続きハナンダガマ遺跡を発掘するとともに、おきなわワールド内の武芸洞の試掘調査を実施した。

各学芸員については、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもと進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様なあり方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、2007年度（平成19）に刊行した『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、2007年度（平成19）に当館及び学芸員が実施した調査・研究活動の状況を報告する。

（萩尾 俊章）

2. 博物館総合調査 一与那国島総合調査一

【趣旨】

沖縄県は多くの島々から成り立ち、島ごとに独自の自然やそれを背景としたくらしがある。これまで、県内の個々の島について、生物相、遺跡の分布、民族・集落や伝統行事等については報告が散見されるものの、島々の自然・歴史・文化をより深く理解するためには、まだまだ基礎的資料は十分とはいえない。

近年、県内においても森林伐採・道路建設・干潟の埋め立てなどの乱開発のため、自然環境は大きく変貌してきている。さらに、住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も変わりつつある。このままでは、島々の自然・歴史・文化などに関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで本事業は、県内離島の自然・歴史・文化についての調査研究を通してそれらの価値を見いだし、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等により島々の実態を多くの県民に伝えることを目的としている。島々の自然の現状や伝統文化を深く理解することによって、撹乱に対して脆弱な島々の自然環境の保全や貴重な文化的資料の保存に対する意識が高められ、より良い形での地域の発展につながることと考えられる。

与那国島総合調査は、2004年度から2008年度までの5年計画で実施する。

【予算額】

559,000円

【与那国島の選定理由】

与那国島は国内で最西端に位置し、台湾までの距離もきわめて近い。与那国島だけに固有の生物も多く、八重山諸島のなかでも独特の生物相を形成している。また、方言をはじめとしたくらしや文化も八重山諸島のなかでも特異であり、詳細な調査が必要である。

【組織】

本調査組織は2004年度から2008年度に沖縄県立博物館に在籍した各分野の学芸員により構成される。

【調査方法】

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸、教育普及の6分野で実施する。各分野で調査対象、調査地域、方法論等が異なるため、分野ごとに検討した調査計画に基づき、現地調査は各調査員が個別に実施した。

2006・2007年度は一部の職員で補足調査を実施し、2008年度に報告書を作成する。

【調査成果】

2008年度に報告書を刊行し、2009年度ないし2010年度に、これまでに総合調査を実施した八重山諸島西側の4島嶼（波照間島・西表島・小浜島・与那国島）を中心とした展示会を実施する。また、調査をとおして収集した資料は県立博物館・美術館資料として収蔵し、今後の展示活動等に活用する。

(田中 智)

3. 博物館共同研究事業 一人類学調査一

【趣旨】

東アジア地域や日本列島へ新人が到達したのは、5万～3万年前ごろと考えられている。この時代の人類化石の探求は、日本列島への人類到達の歴史を解明するのに不可欠であるが、東アジア全体を見ても、この時代の人類化石はきわめて少ない。ところが、沖縄県からは、3万2,000～1万年前と推測される人類化石がいくつも発見されており、とりわけ、沖縄県八重瀬町の港川フィッシャー遺跡からは、1万8,000年前と推定される4体の人類化石（港川人）が発見されている。しかし、港川フィッシャー遺跡からは同時代の明らかな生活の痕跡が発見されておらず、当時の人々の生活については、多くの謎が残されている。

そこで、沖縄県立博物館・美術館では、国立科学博物館、東京大学と共同で、港川人をはじめとした沖縄出土の更新世人類化石の研究を推進するとともに、新たな人類化石発見を目指した発掘調査に取り組んでいる。

【予算額】

1,263,000円

【組織】

本事業に関わる研究組織は、沖縄県立博物館・美術館の専門員、東京大学および国立科学博物館の研究者、沖縄県の地元の研究者により構成される。

【調査成果】

沖縄県南城市のハナンダガマ遺跡と武芸洞において発掘調査を行った。ハナンダガマ遺跡においては、シカ類の化石とともに数点の人骨を発見した。人骨については、現在、化学分析等により年代測定を試みているが、出土状況や形態的特徴などからは、これらが更新世に由来すると期待すべき根拠はない。シカ類化石については、整理作業を進めており、一部については年代測定を試みている。一連の発掘成果については、2006年度の発掘成果とあわせて、日本人類学会2008年度大会ならびに日本人類学会が刊行する学術雑誌である Anthropological Science 誌上にて発表予定である。

武芸洞においては、洞穴の測量と試掘を行った。表層近くからイノシシ骨と数点の人骨、土器片等を発見した。人骨については、形態や保存状態からは古いと期待すべき根拠はないが、現在も調査は継続しており、追加調査を行ったうえで最終的に判断をしていく予定である。また、武芸洞調査期間中、地元の小中学生を対象とした現地見学会を開催し、120名の参加者があった。

(山崎 真治、藤田 祐樹)



発掘風景



水洗作業

4. 調査・研究等

萩尾 俊章（博物館班長）

- 名 称：国指定重要文化財「伊江御殿墓」調査（那覇市首里石嶺町）
期 日：2007年7月29日
依頼機関：沖縄県教育庁文化課
- 名 称：2009年度特別展「江戸上り展（仮）」に関する事前調整及び調査（栃木県・愛知県）
期 間：2008年3月4日～6日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

久場 政彦（主任学芸員 民俗）

- 名 称：那覇市首里石嶺町厨子甕調査
期 間：2007年5月16日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：戦後生活資料（沖縄市）調査
期 間：2007年5月19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：百按司墓板厨子（今帰仁村歴史文化センター蔵）調査
期 間：2007年5月31日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：新館展示模型調整（東京都多摩市・静岡県松崎町）
期 間：2007年6月11日～2007年6月13日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
- 名 称：新館展示資料調査（那覇市牧志）
期 間：2007年7月24日
依頼機関：トータルメディア開発研究所

田中 聰（主任学芸員 自然史・生物）

- 名 称：平成19年度県指定天然記念物イボイモリ生息実態調査
期 間：2007年6月21日～2008年3月31日
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 名 称：与那国島総合調査（与那国町）
期 間：2008年3月26日～28日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

知念 幸子（主任学芸員 自然史・地学）

- 名 称：新館展示資料調査（東京都・神奈川県）
期 間：2007年4月24日～25日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
- 名 称：開館記念展に係る資料調整（東京都）
期 間：2007年5月17日～18日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：新館展示資料調査（神奈川県）
期 間：2007年6月1日～3日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
- 名 称：新館展示資料調査（東京都）
期 間：2007年6月10日～11日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
- 名 称：化石受入事業に関する調整（群馬県・香川県）
期 間：2007年6月18日～21日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：新館展示資料調査（東京都・神奈川県・群馬県）
期 間：2007年7月2日～4日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
- 名 称：新館展示資料調査（東京都）
期 間：2007年8月24日～25日

- 依頼機関：トータルメディア開発研究所
○名 称：開館記念展に係る資料調整（東京都）
期 間：2007年9月15日～18日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念展に係る資料借用（北海道）
期 間：2007年10月4日～6日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念展に係る資料借用（東京都・群馬県）
期 間：2007年10月9日～11日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念展に係る資料借用（山口県・福岡県・熊本県・佐賀県・東京都）
期 間：2007年10月15日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念展に係る調整（山口県・福岡県・熊本県・佐賀県・東京都・群馬県）
期 間：2007年11月29日～12月5日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念展に係る資料返却（山口県・福岡県・熊本県・佐賀県・東京都・群馬県・北海道）
期 間：2008年1月22日～29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：恐竜ミュージアム2008に係る現地調査（東京都・群馬県・茨城県）
期 間：2008年3月6日～9日
依頼機関：沖縄タイムス社
○名 称：展示調査（福井県）
期 間：2008年3月22日～24日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：与那国島総合調査（与那国町）
期 間：2008年3月25日～27日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

羽方 誠（主任 考古）

- 名 称：与那国島総合調査（与那国町）
期 間：2008年3月4～6日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

稻福 恭子（学芸員 歴史）

- 名 称：2009年度特別展「江戸上り展（仮）」に関わる事前調整及び調査（広島県）
期 間：2008年2月26日～29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：2009年度特別展「江戸上り展（仮）」に関わる事前調整及び調査（栃木県・愛知県）
期 間：2008年3月4日～8日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

平川 信幸（学芸員 美術工芸）

- 名 称：美術資料調査（東京都）
期 間：2008年2月17日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館一周年記念展調査（中国、北京故宮博物院）
期 間：2008年3月23日～27日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

藤田 祐樹（専門員 人類）

- 名 称：共同研究事業に関する調整（東京都）
期 間：2007年4月19日～20日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：開館記念展示資料調査（東京都・神奈川県）
期 間：2007年5月8日～9日

依頼機関：トータルメディア開発研究所
○名 称：開館記念展にかかる資料調整（東京都）
期 間：2007年5月17日～18日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：開館記念展示資料調査（東京都・神奈川県）
期 間：2007年6月4日～6日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
○名 称：開館記念展示資料調査（東京都・神奈川県・群馬県）
期 間：2007年6月18日～19日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
○名 称：共同研究事業に関する調査（東京都）
期 間：2007年7月30日～8月2日
依頼機関：東京大学総合研究博物館
○名 称：開館記念展示資料調査（東京都・神奈川県）
期 間：2007年8月29日～30日
依頼機関：トータルメディア開発研究所
○名 称：開館記念展示資料借用（東京都）
期 間：2007年10月3日～5日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：開館記念展示資料借用（福岡県）
期 間：2007年10月17日～18日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：共同研究事業に関する調査（ベトナム）
期 間：2008年1月15日～20日
依頼機関：国立科学博物館
○名 称：開館記念借用資料返却（福岡県）
期 間：2008年1月22日～23日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
○名 称：開館記念借用資料返却（東京都）
期 間：2008年1月28日～29日
依頼機関：国立科学博物館
○名 称：共同研究事業に関する調査（フランス・オランダ）
期 間：2008年2月16日～3月2日
依頼機関：国立科学博物館
○名 称：共同研究事業に関する調査（東京都）
期 間：2008年3月26日～28日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

山崎 真治（専門員 人類）

○名 称：共同研究事業に関する調整（東京）
期 間：2007年4月19日～20日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：開館記念展に係る資料借用（東京）
期 間：2007年10月2日～4日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：開館記念展に係る資料借用（伊是名村、読谷村）
期 間：2007年10月15日～16日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
○名 称：共同研究事業に関する調査（伊仙町）
期 間：2007年12月18日～20日
依頼機関：国立科学博物館
○名 称：開館記念展に係る資料返却（伊是名村、読谷村）
期 間：2008年1月28日～29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

與那嶺 一子（主任学芸員）

- 名 称：無形文化財（工芸技術）「首里の織物」調査
期 間：2008年2月6日
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課
- 名 称：国立民族学博物館所蔵の琉球資料調査
期 間：2008年2月7日～9日
依頼機関：国立民族学博物館
- 名 称：無形文化財（工芸技術）「首里の織物」調査
期 間：2008年2月27日
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課
- 名 称：無形文化財工芸技術資料買取協議会
期 間：2008年3月10日～11日
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課
- 名 称：開館一周年記念展調査（中国、北京故宮博物院）
期 間：2008年3月23日～27日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

宮平 真由美（嘱託員・教育普及）

- 名 称：開館記念展に係る資料借用（伊是名村、読谷村）
期 間：2007年10月15日～16日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：開館記念展に係る資料返却（伊是名村、読谷村）
期 間：2008年1月28日～29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

上原 久（嘱託員・学芸）

- 名 称：開館記念展に係る資料借用（伊是名村、読谷村）
期 間：2007年10月15日～16日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：開館記念展に係る資料返却（伊是名村、読谷村）
期 間：2008年1月28日～29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：美術資料調査（東京都）
期 間：2008年2月17日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：2009年度特別展「江戸上り展（仮）」に関わる事前調整及び調査（愛知県）
期 間：2008年3月5日～8日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念展調査（中国、北京故宮博物院）
期 間：2008年3月23日～27日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

5. 講演等

萩尾 俊章（博物館班長）

- 名 称：「沖縄の歴史と文化について」
期 日：2007年7月31日
依頼機関：香港大学沖縄視察研修プログラム
- 名 称：バスガイド対象泡盛研修会「泡盛の歴史について」
期 日：2007年8月9日
依頼機関：沖縄県酒造組合連合会
- 名 称：文化講演会「泡盛について」
期 日：2007年11月22日
依頼機関：西原町翁長自治会

- 名 称：第29回南島文化市民講座「地域と博物館の関わりを考える—県立博物館・美術館の新たな展開をめざして—」（パネリスト）
 期 日：2007年12月1日
 依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所
- 名 称：文化講演会「泡盛の文化」
 期 日：2007年12月12日
 依頼機関：(社)沖縄県情報産業協会
- 名 称：泡盛楽寄附講座「泡盛の歴史と文化」
 期 日：2007年12月15日
 依頼機関：沖縄大学

田中 聰（主任学芸員 自然史・生物）

- 名 称：指定希少野生動植物生息地等保護区指定基準（案）検討委員会
 期 間：2007年9月1日～2008年3月25日
 依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課
- 名 称：沖縄生物教育研究会宿泊研修会
 演題「琉球列島の自然をどう伝えるか—沖縄県立博物館自然史展示で目指したこと—」
 期 日：2007年11月17日
 依頼機関：沖縄生物教育研究会
- 名 称：沖縄県青少年科学作品展審査（おきでんふれあいホール）
 期 日：2008年1月16日
 依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力株式会社

知念 幸子（主任学芸員 自然史・地学）

- 名 称：沖縄県青少年科学作品展審査（おきでんふれあいホール）
 期 日：2008年1月16日
 依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力株式会社

藤田 祐樹（専門員 人類）

- 名 称：Morphology of the Late Pleistocene human remains from Yamashita-cho 1 Cave, Okinawa
 期 日：2007年6月14日
 学会名：21st Pacific Science Congress (PSC21)
- 名 称：人類化石と沖縄～山下町洞人の語るもの～
 期 日：2007年7月21日
 依頼機関：YMC A沖縄講演会
- 名 称：コアハウドリの歩き方と首の振り方
 期 日：2007年9月24日
 学会名：日本鳥学会2007年度大会
- 名 称：山下町第一洞穴人と縄文人の形態比較
 期 日：2007年10月7日
 学会名：日本人類学会2007年度大会
- 名 称：沖縄県南城市ハナンダガマ遺跡から出土したリュウキュウジカの齢推定と、ニホンジカ集団との齢構成の比較
 期 日：2007年10月7日
 学会名：日本人類学会2007年度大会

山崎 真治（専門員 人類）

- 名 称：Problems Concerning the Dawn of Jomon Pottery
 期 日：2007年6月14日
 学会名：21st Pacific Science Congress
- 名 称：2月定例会「東名遺跡群と佐賀平野の縄文遺跡」
 期 日：2008年2月15日
 依頼機関：沖縄考古学会

與那嶺 一子（主任学芸員）

- 名 称：第369回博物館文化講座「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」
期 日：2008年2月16日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

6. 著作論文等

萩尾 俊章（博物館班長）

- 「博物館を中心としたネットワークづくり」『第29回南島文化市民講座 地域と博物館の関わりを考える
—県立博物館・美術館の新たな展開をめざして—』沖縄国際大学南島文化研究所 2007年12月1日
○書評「上江洲均著『沖縄の民具と生活 沖縄民俗誌I』」「『沖縄タイムス』沖縄タイムス社 2007年1月28日
○「沖縄のワラザン(藁算)〔1〕」「『むすび』31号 日本結び文化学会2008年2月11日
○「東アジアの十字路 琉球(沖縄)と中国-39-中国の冊封使と琉球の泡盛」『日中友好新聞』第2122号
日本中国友好協会 2008年3月5日
○「東アジアの十字路 琉球(沖縄)と中国-40-泡盛の起源と中国」『日中友好新聞』第2123号
日本中国友好協会 2008年3月15日

田中 聰（主任専門員 生物）

- 「瀬底島および今帰仁村崎山海岸におけるオカヤドカリ類の生態調査」
『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号 2008年3月31日

知念 幸子（主任学芸員 地学）

- 「【短報】イノシシ化石の骨格復元について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号
2008年3月31日

平川 信幸（学芸員 美術工芸）

- 「【資料紹介】近代琉球の肖像画」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号 2008年3月31日

藤田 祐樹（専門員 人類）

- 「Hopping and climbing gait of Japanese Pygmy Woodpeckers (*Picoides kizuki*)」
『Comparative Biochemistry and Physiology A. 148』 2007年12月
○「とりのあしあと」『おおきなポケット4月号』 2008年3月
○「鳥の飛行と歩行」『鳥学大全（東京大学創立百三十周年記念特別展示「鳥のビオソフィア」）』
2008年3月
○「傾斜面におけるキセキレイの運動変化」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号
2008年3月31日

山崎 真治（専門員 人類）

- 「曾畠式土器の終焉」『古文化談叢』第57集 九州古文化研究会 2007年8月
○「福田K2式をめぐる諸問題」『貝塚』63 物質文化研究会 2007年12月
○「先史時代における腰岳系黒曜石の流通と画期」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号
2008年3月31日

園原 謙（主任学芸員）

- 「博物館づくりー沖縄県立博物館新館常設展示の場合ー」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号
2008年3月31日

與那嶺 一子（主任学芸員）

- 「体験キットをつくるー沖縄県立芸術大学の学生達との教育普及プログラムの試みー」
『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第1号 2008年3月31日

7. 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法第4条4）こととしており、学問的専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために、職員は適宜研修を受講している。

2007年度（平成19）は文化庁文化財部伝統文化課民俗文化財部門が主催する歴史民俗資料館等専門職員研修会に職員が参加した。2カ年にまたがる研修会の初年度で、11月26日～30日の期間、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）で開催された。

- 2007年度（平成19） 歴史民俗資料館等専門職員研修会（研修者：稻福 恭子）
- 2007年度（平成19） 沖縄県博物館協会総会・春期研修会（5月24日 於：文化王国・玉泉洞おきなわワールド）

※当館からは萩尾俊章、田中聰、久場政彦、赤嶺敏、知念幸子、藤田祐樹、山崎真治、稻福恭子の8名が参加した。

（萩尾 俊章）

【2007年度歴史民俗資料館等専門職員研修会】

期間：2007年11月25日～30日

研修地：国立歴史民俗博物館（千葉県）

当研修は、文化庁と国立歴史民俗博物館（以下「歴博」）が主催し、歴史・考古・民俗資料等の保存活用を担当する者に対し、これら文化財の調査、収集、保存及び公開等に関する必要な専門的知識と技能の研修を行い、歴史民俗資料館等の活動の充実を図る目的として、年1週間の研修を2年間継続で行う研修会である。初年度に当たる今回の研修では、青森県から沖縄県まで合計35名の参加があった。

研修の内容は、初年度ということもあり、文化庁の調査官による各文化財の基礎講義を中心として、歴博の職員による展示室やバックヤード（収蔵庫以外）の施設見学、分野やテーマ別で行う選択講義（1年で入替）の演習、全体での討論が行われた。文化財保護の基本的な考え方や文化財を取り巻く現状を認識するとともに、歴博で行っている来館者に合わせた展示のリニューアル、資料の受入から情報開示までの流れや考え方などをうかがうことができた。必ずしも歴博がすべての博物館活動を網羅しているわけではないが、博物館職員として来館者や資料に対する考え方の基本を再確認できた。また、研修中に全国各地の文化財・博物館関係の職員と交流を持てたことも大きな収穫であった。

（稻福 恭子）



国立歴史民俗博物館 研究棟



研修の様子

II. 展示活動

1. 展示活動概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱がある。当館の展示活動は常設展示を基本としつつ、大枠としては企画展2本と特別展1本、それに新収蔵品展を開催することとしている。また、新館は美術館との複合施設となったことから、従来は博物館単独で実施してきた移動博は、2008年度から美術館との協同で「移動展」として開催する予定である。

海洋性、島嶼性の地理的要因により豊かな自然環境を持つ沖縄県は、歴史的に日本本土や中国をはじめアジア諸国と盛んに交易を行い、日本の中でも独自の個性豊かな歴史、文化を創りあげてきた。常設展示では、「海と島に生きる—豊かさ、美しさ、平和を求めて」のテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化の総合的かつ体系的な展示を行なっている。

2007年度（平成19）は11月1日開館であったことから、特別展1本と新収蔵品展を開催した。特別展は開館記念展として「人類の旅—港川人の来た道—」を開催した。また、新収蔵品展は平成17・18年度収蔵資料を展示・紹介した。

（萩尾 俊章）

2. 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と専門分野ごとの部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を、「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によってたがいに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を作っている。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、ト一（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中、戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる—豊かさ、美しさ、平和を求めて—」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がるサンゴ礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫・沖縄」から発見された、さまざまな化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツと目される1万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石が、ステージ上に展開する。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代になり、それぞれの地域に有力者が登場するようになると、防御などを目的とした、さまざまなグスクがつくられていく。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富が築かれていった。各地の勢力は、やがて北山、中山、南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り広げる。これらの3つの勢力は、15世紀はじめまでに尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史がはじまる。

王国の繁栄

琉球王国は独自の国家として成立したが、国内権力基盤の不安定さによって、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起こった。この時代、中国との冊封・朝貢貿易を確立していた琉球は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を行った。東アジアの大海上の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。ここでは、東アジア有数の貿易国家として繁栄したあと、より強固な国家体制がつくられた琉球王国の時代を紹介する。

薩摩の琉球支配と王国

1609年、薩摩島津氏の侵攻によって琉球は江戸幕府の影響下に置かれたが、中国との関係は引き続き維持された。羽地朝秀、蔡温など政治家の強力なリーダーシップによって、王国の経営が行われ、近世文化が創造されていく。またこの時代、貝摺奉行所などによって優秀な工芸品が多くつくられるとともに、「中山世鑑」、「球陽」などの歴史資料が数多く著された。

王国の衰亡

中国・日本という両大国との関係を維持しながら、王国を維持してきた琉球だが、19世紀に入ると矛盾が深まる。農村の疲弊や首里王府の財政難などが原因で、王国の経営は行き詰まりが顕著となった。さらに、アジア進出を目指す欧米諸国の外圧が琉球に押し寄せ、王国は危機的な状況に陥った。

沖縄の近代

1879年、明治政府による琉球処分が行われ、最終的に王国は消滅し、近代国家の一部として沖縄県が誕生した。しかし、しばらく旧慣温存の措置がなされ、社会の安定が図られる。その結果、土地整理による土地所有権の確立や国勢参加は大きく遅れ、資本主義の経済体制や教育制度も大正時代に入ってようやく整った。一方、日本による太平洋戦争の進捗とともに、沖縄も戦争体制に組み込まれていく。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が行われ、23万余りの尊い人命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移り、27年間のアメリカ統治に入る。米国民政府は東アジアの戦略基地として沖縄を重要視する一方、沖縄の産業や福祉、教育文化の振興に努めた。基地の機能強化が進められるなか、住民への被害も続出したため、日本への復帰運動が起こった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本へ返還されたが、多くの基地が残されるなど、未解決の問題が山積したままである。こういった状況を抱えながらも、現在の沖縄では平和を求め、「沖縄らしさ」を活かした活動が行われている。

沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄の自然はさまざまな開発によって大きく姿を変えた。めざましい社会の変化によって沖縄が大きく変貌をとげる中、2000年には各国首脳がこの地に集い、九州・沖縄サミットが開催された。同じ年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、今日では沖縄文化の優位性は世界に認知されるようになっている。これに伴って、沖縄を訪れる観光客や沖縄への移住者は大幅に増加し、沖縄は新たな時代をむかえようとしている。

エピローグ「沖縄の現代生活」は、県民に応募いただいた作品で構成された、まさに「現代沖縄の生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、収蔵資料を活用しながら、総合展示やそれぞれのテーマをより深め、特化した形での展示と位置づけている。部門展示では、取り扱うテーマに可変性を持たせ、展示替えの頻度を高める工夫を行っている。

自然史部門展示 「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

考古部門展示 「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしづくりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

歴史部門展示 「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを体験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介している。

美術工芸部門展示 「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすいかたちで、1年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

民俗部門展示 「沖縄の伝統とくらし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

(萩尾 俊章)

3. 特別展 一博物館新館開館記念展「人類の旅 - 港川人の来た道 - 」一

2007年11月1日(木)から2008年1月20日(日)までの66日間の会期中、39,040人(表1参照)の入場者数があった。また、同展への理解を深めてもらう目的で、週末を活用して講演会や体験学習、展示解説などの関連催事を展開し、合計およそ1,200人が参加するなど盛況だった。本展に合わせ、県内の6企業から「古代人復元模型」4体をご寄贈頂き、開館記念展がより一層華やいだものとなった。本展の開催によって、沖縄県立博物館・美術館の存在を、広く県民にアピールできたと考えられる。

名 称：博物館新館開館記念展 「人類の旅-港川人の来た道-」
会 期：2007年11月1日(木)～2008年1月20日(日) (66日間)
会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館施設 特別展示室Ⅰ・Ⅱおよび企画展示室
入館料金：表2参照
予 算 額：35,000,000円

表1 総入館者内訳

(単位：人)

	当日券	団体券	前売券	招待券	博物館 1日利用券	全館 1日利用券	年間パス	総計
一般	19,825	3,560	1,764	1,549	3,169	1,876	458	39,594
高・大学生	1,023	374	50		230	136		
小・中学生	3,742	1,117	451		70	200		
合 計	24,590	5,051	2,265	1,549	3,469	2,212	458	

表2 入館料金

種別	当日券	団体券	前売券
一般	1,000円	800円	800円
高校生・大学生	800円	640円	640円
小学生・中学生	500円	400円	400円

【開催趣旨】

長年の沖縄県民の悲願であった、県立博物館新館が那覇市おもろまちにて開館し新たなスタートを切る。これにあたり、国立科学博物館と東京大学総合研究博物館の全面的な協力を得、世界的にも重要で、身体的特徴を知ることができる最古の日本人「港川人」の3号および4号標本が沖縄県で分担管理されることになった。また本県は地理的特異性から人骨をはじめ様々な化石が多数発見されており、特に日本及び東アジアの人類研究に於いて極めて重要かつ世界的にも注目されている地域である。

そこで今回は県民に対して、港川人の化石標本4体と県内の他の地域から発掘された化石人骨を中心に、国内有数の化石の宝庫としての沖縄の重要さをアピールする展示会とする。さらに、日本の主要な遺跡からの出土品を加えて、アフリカでの人類の誕生からアジアへの進出、そして日本人の祖先の生活について化石や遺物の実物を展示公開し、これまでの研究成果と共に、人類の歴史についてわかりやすく学ぶことが出来るように構成する。そのことにより、人類の歴史と日本人、さらにはウチナーンチュのルーツについて学び・考える機会とする。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、沖縄県教育委員会
共 催：独立行政法人国立科学博物館／国立大学法人東京大学総合研究博物館
協 力：群馬県立自然史博物館／土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム／芦屋町歴史民俗資料館「歴史の里」／国立大学法人九州大学総合研究博物館／城南町歴史民俗資料館／佐賀県立博物館／七田房子／伊是名村ふれあい民俗館／読谷村歴史民俗資料館／宜野湾市立博物館／礼文町教育委員会／伊是名村教育委員会／読谷村教育委員会／宜野湾市教育委員会／八重瀬町教育委員会／OK運輸合資会社
特別協賛：沖縄セルラー電話株式会社／沖縄電力株式会社／琉球銀行／沖縄銀行／金秀グループ／沖縄特定免税店株式会社／財団法人海洋博覧会記念公園管理財團
後 援：日本人類学会／日本顔学会／沖縄考古学会／沖縄地学会／財団法人沖縄観光コンベンションビューロー／財団法人沖縄県文化振興会／沖縄県高等学校理科教育研究協議会／沖縄県高等学校地学教育研究会／沖縄県高等学校生物教育研究会／沖縄県理科教育協会／小学校社会科教育研究会／中学校社会科教育研究会／高校地歴公民研究会／沖縄県私立中学校高等学校協会／沖縄県小学校校長会／沖縄県中学校校長会／沖縄県立高等学校校長会／沖縄県PTA連合会／沖縄県高等学校PTA連合会／NHK沖縄放送局／沖縄ケーブルネットワーク／沖縄テレビ／琉球朝日放送／琉球放送／ラジオ沖縄／エフエム沖縄／沖縄タイムス社／琉球新報社

【展示内容】

展示は下記のテーマに沿った内容で構成される。

第1章 人類の進化：人類の誕生から現在に至る進化の過程を追い求めた内容

第2章 化石の宝庫「沖縄」：沖縄県は日本有数の化石の産地である。特に「人類学」の素材がまだまだ眠っていると考えられる。その「沖縄」の特異性を集めた内容

第3章 日本列島人類史：アジアから日本列島に渡った人類の足跡を追い、縄文・弥生文化を見つめ「日本人」の誕生までの内容

第4章 わたしたちの未来：現在人類を取り巻く環境を考えてゆく。あわせて、人類の「顔」の変遷から、未来の人類の顔について考える内容

【展示検討委員】

馬場 悠男（国立科学博物館人類研究部長：委員長）

長谷川善和（群馬県立自然史博物館長）

石田 肇（琉球大学医学部教授）

池田 榮史（琉球大学法文学部教授）

知念 勇（恩納村立博物館館長）

大城 逸朗（おきなわ石の会会長）

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「III. 教育普及」を参照いただきたい。

○特別講演会

○体験教室

○展示解説会

○「私が考える港川人」図画作品展

○P Cソフト「未来の顔体験～もし百年後に生まれていたら～」

(知念 幸子)



展示室のようす1



展示室のようす2



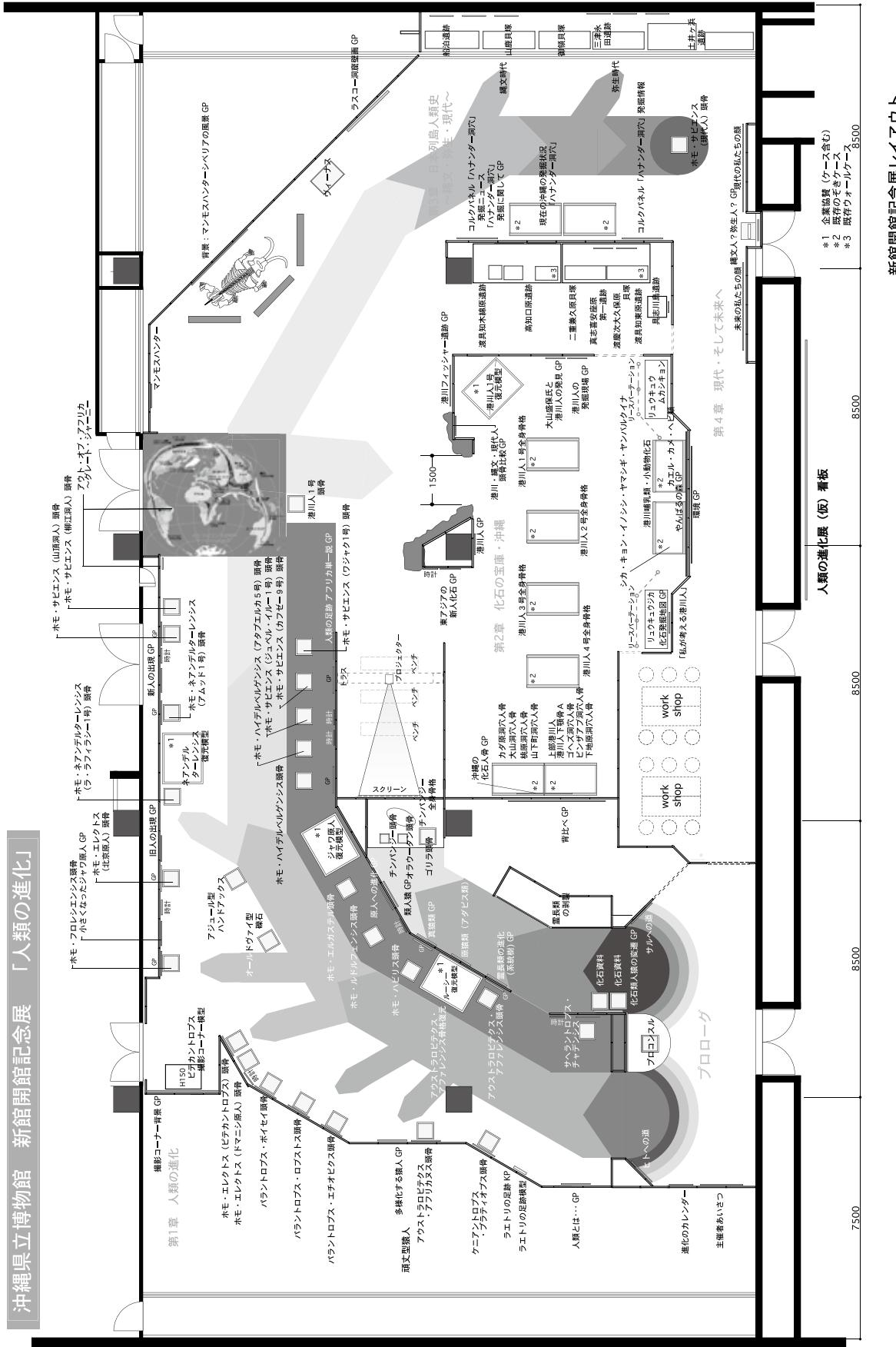
港川人1号&復元



世界の顔パネル前

【展示平面図】

沖縄県立博物館 新館開館記念展 「人類の進化」



新館開館記念展レイアウト

4. 企画展 一新収蔵品展一

名 称：「新収蔵品展 一平成17・18年度収蔵資料一」

会 期：2008年2月13日（水）～4月20日（日）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館施設 特別展示室I・IIおよび企画展示室

予 算 額：623,385円

【開催趣旨】

企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管された諸資料を一堂に集め、広く一般公開するとともに、今後の展示や研究等に活用することを目的として実施するものである。特に今回は、2006年度が新館移転に伴い閉館となっていたため、2年分（2005・2006年度）の新収蔵品の展示となった。

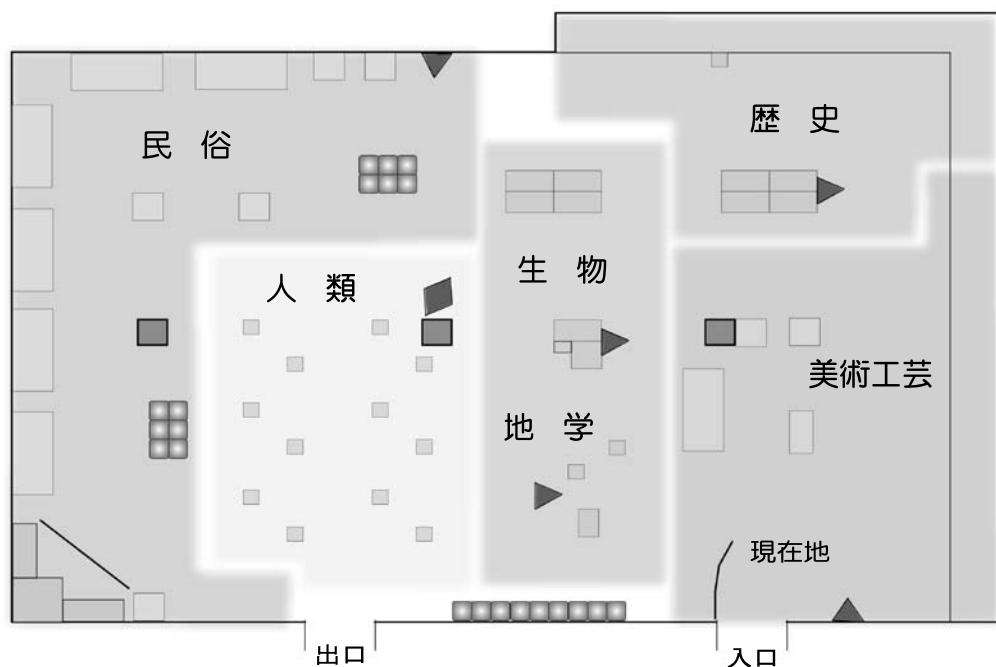
【事業内容】

2005・2006年度に寄贈・収集・購入された諸資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野に分類し、博物館3階の企画展示室で展示・公開する。初日は、開会式が終了した後、寄贈者への感謝状を贈呈し、テープカットを行った。

【展示内容】

2005・2006年度は、寄贈・収集・購入により4,366件が収蔵された。分野別で主だったものを見ると、自然史分野では、仲嶺俊子氏より寄贈された貝類コレクションや、知念秀樹氏より寄贈されたセンニンガイ化石、読谷村より寄贈された琉球石灰岩塊が挙げられる。歴史分野では、坂口總之輔氏より寄贈された『沖縄写真帖』の著者・坂口總一郎氏が写真撮影に使用した戦前の木製組立暗箱（ガラス乾板ホルダー用写真機）一式の他、家譜、移民関係資料、復帰前の沖縄に関わる資料等がある。民俗分野では、森川弘治氏より寄贈された戦前の沖縄民謡を収録した貴重なLP盤や、宮城宏友氏より寄贈された戦前の名工の手による沖縄の伝統的な鳥籠が挙げられる。美術工芸分野では、沖縄の戦後の美術工芸の復興を担った作家たちの貴重な作品43点が稻嶺惠一氏より、また、沖縄戦で焼失したと思われていた「孔子及び四聖配像」が尚弘子氏より寄贈されている。

【展示平面図】





開会式のようす



観覧のようす

(久場政彦・藤田祐樹)

5. 企画展 －「国宝から見る琉球王国の歴史と文化」－

名 称：沖縄県立博物館・美術館開館記念企画展「国宝から見る琉球王国の歴史と文化」
会 期：2008年2月18日（火）～3月10日（日）
会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館歴史部門展示室（第1回、第2回）
沖縄県立博物館・美術館 博物館美術工芸部門展示室（第3回）

【開催趣旨】

沖縄県立博物館・美術館の博物館では開館記念企画として、那覇市歴史博物館が所蔵する県内唯一の国宝「琉球国王尚家関係資料」を展覧し、これら貴重な資料から見る琉球王国の歴史と文化の世界について、3つの主題を各回1週間の開催で3週に渡って紹介した。

【展示内容】

第1回「国宝『琉球国王尚家関係資料』にみる首里王府の仕事」

首里王府の多岐にわたる史料が多く含まれる尚家資料は、近世琉球期における王府の公務などを伝えている。第1回は、それらを実務的に記した文書を展示した。

第2回「国宝『琉球国王尚家関係資料』にみる琉球の交易・交流」

尚家資料は、近世琉球期における中国や薩摩・江戸との交易や交際関係を具体的に伝えている。第2回は、その関係を記した中国に渡った進貢・接貢船、薩摩や江戸への使節や献上品の目録などの文書を展示了。

第3回「国宝『琉球国王尚家関係資料』にみる琉球王家、至宝の色」

尚家資料には、琉球王国内でも最も質の高い美術工芸品が含まれている。第3回は、の中でも“色”に焦点を当て、王家の着物の見本帳として作られた『御絵図帳』を展示了。

【展示作品リスト】

『尚育様御元服日記』、『尚育様御即位日記』、『僉議』、『百浦添御普請日記』、『百浦添御普請絵図帳』、『量地法式集』、『安政三年仏船来覇ノトキ 異国日記』、『大湾より滞留仏人江私物差遣一件（符箋朱書） 異国日記』、『法條』（以上、第1回）

『慶応三年 卯秋走王舅迎船仕出日記』、『大清（朱書） 同治七年 戊辰 卯秋走接貢船王舅迎船帰帆日記』、『唐御代替二付慶賀御献上物帳 共二冊』、『天保十三年六月 副使座喜味親方日記』、『副使座喜味親方日記』、『江戸立付献上物進上物万総帳扣』（以上、第2回）

『御絵図帳』（以上、第3回）

（稻福 恭子・平川 信幸）



第1回の展示風景（歴史）

6. 企画展 一大嶺薰コレクション展－

名 称：「大嶺薰コレクション展」
会 期：2008年2月27日（水）～4月20日（日）
会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館施設 企画展示室

【開催趣旨】

「大嶺薰コレクション」は、沖縄県立博物館の母体となった東恩納博物館（現うるま市）初代館長の大嶺薰氏（1905～70年：1941～53年在任）により戦前・戦後を通して収集された、美術工芸資料を中心としたコレクションである。大嶺氏は1970年に亡くなつたが、コレクションを引き継いだ遺族は1971年に大嶺薰美術館を設立し、沖縄の美術工芸文化に貢献した。残念ながら1985年3月に美術館は閉館したが、そのコレクション3,550点は沖縄県立博物館へ寄贈され、「大嶺薰コレクション」室として常設公開されることとなつた。新館（2007年11月移転・開館）では、諸事情により常設公開が叶わなくなつたが、企画展示室の開室状況を考慮し不定期ではあるが開室することとなつた。

【展示内容】

「大嶺薰コレクション」は美術工芸、歴史、考古、民俗の各分野にわたり、その収集範囲も沖縄を中心に、日本や中国、南方諸国はもとより、ヨーロッパやアメリカにまで及んでいる。戦後、沖縄の多くの遺産が焼失あるいは海外へ散逸したが、それを憂慮した大嶺氏が私財を投じ貴重な資料を収集したことは、高く評価されるものである。今回の展示では、大嶺氏の業績を顕彰するとともに、大嶺氏が求めた美の概要を分野別（絵画、書跡、陶器など）に紹介した。

【展示作品リスト】

絵画

沖縄：長嶺華国「農神之図」
作者不詳「手籠盛花図」
日本：藤原氏信「恵比寿・寿老人・大黒之図」
高橋草坪「草花之図」（巻物）
竹富清嘯「秋景山水図」
直庵「蘆に鷺之図」
中国：沈南蘋「美女の図」
胡公寿「古梅老藤図」
薰其昌「山水図」

陶器

白釉に家紋入嘉瓶
緑釉流角瓶
緑釉流抱瓶
灰釉からから
灰釉瓶子
飴釉飛鉢渡名喜瓶
灰釉徳利
シャム南蛮甕
支那南蛮甕
素焼徳利

書跡

尚育「朝美老翁静観亭錄贈」
鄭嘉訓（古波蔵爾方）「海不揚波」
鄭其昌「七言聯句」
宜湾朝保「和歌二行詩」
毛維翰「二行詩」

漆器

朱漆沈金山水温庫
堆朱龍山水食籠
黒漆内朱蓬萊模様箔絵角東道盆
螺鈿唐人模様花台

金工品

鏡：枝桜文角鏡
丹頂耳瑞雲双鶴文柄鏡
高砂耳蓬萊山柄鏡
装身具：櫛（6点）、笄（3点）、簪（8点）

民俗資料

台湾高砂族資料（頭飾り）
台湾高砂族資料（飾り帶）
台湾高砂族資料（飾り玉）（4点）

（與那嶺 一子・上原 久）

III. 教育普及活動

1. 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させ、地域の中軸施設であることが求められている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では2007年度も多くの教育普及事業を実施してきた。

これまで首里の博物館で行われてきた活動を、継承発展させることが求められる中、2007年度は、より教育的支援の必要な分野となる、学校の受入れに関連する取組みに力を入れた。学校連携事業では、新館に適合させ、博物館ボランティアによる展示ガイドや誘導・体験サポート等の学校団体に対する支援体制の強化を推進し、中学生向けの『博物館学習ノート』を作成した。また、博物館文化講座では、新館開館記念展関連講座や新館展示に関連した文化講座を実施した。さらに、体験学習教室では、「化石のレプリカをつくろう」、「しつくいシーサーをつくろう」、「木のおもちゃをつくろう」など、モノづくりを通して、沖縄の自然や先人の知恵を学ぶ機会を設定した。その他にも、新館開館記念展の「人類の旅－港川人の来た道－」関連の絵画募集、関連ワークショップを実施した。

運営面では、指定管理者制度導入にともない、旧館における博物館の教育普及活動の県単独実施形態が大きく転化することとなった。事業の計画を博物館職員（教育普及学芸員）が立案し、事業の実施を指定管理者が行うことになり、博物館が行う事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つとなった。博物館活動運営の実績のない指定管理者と、定期的に連絡会議を開催しながら、運営の方法を協議し、事業を推進してきた。

予 算：2007年度の教育普及事業予算総額 1,678,000円

参加者：総数は9,847名（学校団体は、学習プログラムに基づく受入れ人数）

（赤嶺 敏）

2. 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。一つは、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行い、博物館を通した学習を実施した。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

また、児童生徒が展示資料を通して調べ学習を行う際に興味を引き出す素材として『博物館学習ノート－中学生版－』というワークブックを作成した。資料の観察を通して、見えないとろまで興味関心を広げられるノートとなっている。この学習ノートは各中学校へ配布し、博物館のホームページにも掲載することで、多くの方が利用できるようにしている。

【学校団体受入れ】

博物館を利用した学校団体

	小学校	中学校	高 校	大学・専門学校	その他の	合 計
県 内	92	25	28	3	16	164
県 外	0	3	9	0	11	23
合 計	92	28	37	3	27	187

博物館の学習プログラムを作成した学校団体（総数：7,056名）

	小学校	中学校	高 校	特別支援	合 計
社会見学	17	4	3	1	25
教科	0	2	1	0	3
民具体験	18	0	0	0	18
総合的な学習の時間	7	5	0	3	15
施設見学	0	0	2	0	2
旅行的行事	5	1	0	2	8
合 計	47	12	6	6	71



展示観覧のようす



民具体験のようす

【『博物館学習ノート』作成】

方針

- ・3年計画で、小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』（以下「ワークシート」という。）を作成する。
- ・ワークシートは、2007年度（中学生）、2008年度（小学生）、2009年度（高校生）の計画で作成を進める。
- ・これまで博物館で作成されてきた、『学習ノート』の課題を考慮し、モノ（博物館資料）から出発してモノの観察をとおして、見えないところまで興味関心を広げられるようなワークシートを作成する。
- ・博物館において1989年から3年にかけて作成されたワークシートと1993年の『博物館においてよ』を参考に新版として作成する。
- ・新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が、観察・体感することによって、自ら学ぶように導くワークシートを作成する。
- ・県内の学校より、総括1名、分野別に1名（5分野）の合計6名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

作成委員

	氏 名	所 属 名	教 科
1	前 田 真 之	西原町立西原小学校	校 長
2	兼 松 力	与那原町立与那原中学校	社会科
3	木 山 淳 一	浦添市立港川中学校	理 科
4	漢 那 広 美	那霸市立寄宮中学校	家庭科
5	松 田 庄一郎	宜野湾市立嘉数中学校	社会科
6	古 堅 彰 子	那霸市立寄宮中学校	美術科

役割分担

	博物館	作成委員
テーマの選定	○	○
資料情報の提供	○	
設問作成	○	○
試案の検討		○
モニタリング	○	○
最終原稿	○	

会議およびモニタリング

○第1回会議 委嘱状交付及び全体会議

目的：委員へ委嘱状を交付し今後の会議の運営や作成に係る方針・連携のあり方について確認する。

日 時：2007年12月13日 午後4時～6時

場 所：博物館講座室

○第2回会議 『博物館学習ノート』作成委員全体会議

目的：モニタリングにおいて収集した資料をもとに作成委員会全体で検討・確認をして必要のある事項を協議する。

日 時：2008年2月1日（金） 午前9時30分～午後3時30分

場 所：博物館講座室

モニタリング校：沖縄市立美里中学校・八重瀬町立具志頭中学校

○第3回会議 『博物館学習ノート』作成委員全体会議

目的：モニタリングにおいて収集した資料をもとに、作成委員会全体で検討・確認をして必要のある事項を協議し、内容の進化を図る。

日 時：2008年3月11日（火）午後5時～

場 所：博物館講座室

モニタリング校：那覇市立安岡中学校

(赤嶺 敏)



作成委員全体会議



モニタリングのようす

3. 博物館体験学習教室

博物館体験学習教室は、沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供する。

○第1回「化石のレプリカをつくろう」（新館開館記念展関連ワークショップ）

講 師：知念幸子（主任学芸員）

日 時：2007年11月25日（日）9時～12時

場 所：博物館実習室

内 容：アンモナイトの化石から石膏の型をとり、楽しく化石のレプリカを作った。

参加者：26名（うち親子12組）

○第2回「勾玉をつくろう」（新館開館記念展関連ワークショップ）

講 師：知念幸子（主任学芸員）、山崎真治（専門員）

日 時：2007年11月1日～2008年1月20日

（同記念展開催期間中の毎土曜日・日曜日14時～16時）

場 所：博物館実習室

内 容：滑石を材料に勾玉を作成した。参加者は幼稚園児から高校生とその保護者らが主だったが、年配の人も参加するなど年齢層も幅広く、他府県からの参加者もいた。

参加者：約60名（全6回）

○第3回「木のおもちゃをつくろう」

講 師：上運天賢盛（オモチャの会ピノキオ会長）

日 時：2008年1月20日（日）9時～12時30分

場 所：博物館実習室

内 容：木や木の実などで、今年の干支のネズミの動くおもちゃを作成した。

参加者：17名（うち親子5組）

○第4回「しつくいシーサーをつくろう」

講 師：奥原宗典（奥原製陶）

日 時：2008年2月17日（日）9時～15時30分

場 所：博物館実習室

内 容：瓦の破片としつくいを組み合わせてオリジナルのシーサーを作成した。

参加者：40名（うち親子9組）

○第5回「博物館探検」

講 師：赤嶺 敏（主任学芸員）

日 時：2008年3月16日（日）9時～12時

場 所：博物館会議室

内 容：学芸員の資料受入に際しての写真撮影・法量測定の体験を、教育普及資料に触れながら行い、博物館学芸員の仕事を体験した。

参加者：10名（うち親子2組）

（赤嶺 敏）



しっくいシーサー作り



博物館探検のようす

4. 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。今年度は、当館が2007年11月に那覇新都心地区に移転開館し開館記念展「人類の旅」を開催したが、その特別講演会を4回行い、毎回大勢の県民らが詰めかけ、ロマンあふれる人類史や琉球列島の歴史・文化・自然史にふれた。

○第365回「港川人の来た道」

講 師：馬場悠男（国立科学博物館人類研究部 部長）

日 時：2007年11月10日（土）14時～16時

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：約2万年前の港川人が数千年の間に形態的特徴を変えて縄文人に進化したとは考えにくく、「ウチナーンチュ（琉球人）は港川人の直接の子孫である可能性は低い」と話した。本年度最初の講座で、開館記念展関連講座となった。

受講者：210名

○第366回「動物化石から見た港川人のいたころの沖縄」

講 師：長谷川善和（群馬県立自然史博物館 館長）

日 時：2007年11月24日（土）14時～16時

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：港川フィッシャー遺跡や伊江島ゴヘズ洞穴など、スライド画像を基に沖縄の遺跡出土の人骨・動物化石等の解説から、港川人のいたころの沖縄に迫った。

受講者：140名

○第367回「沖縄人のルーツを探る」（対談1）

講 師：安里 進（沖縄県立芸術大学 教授）

土肥直美（琉球大学医学部 准教授）

日 時：2007年12月15日（土）14時～16時

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：安里氏からは考古学から、土肥氏からは形質人類学から講演のあと、対談形式で沖縄人のルーツに迫った。安里教授は「港川人と次に沖縄で確認される貝塚人までには1万年の考古学的な空白がある」、土肥准教授は「科学的なデータはまだないが、港川人は現在のウチナーンチュにつな

がっていると信じたい」と語った。
受講者：200名

- 第368回「化石の宝庫・沖縄の可能性」（対談2）
講 師：諏訪 元（東京大学総合研究博物館 教授）
大城逸朗（おきなわ石の会 会長）
日 時：2008年1月12日（土）14時～16時
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：諏訪氏によるアフリカ人類化石からみた進化や港川人の位置づけ、大城氏による化石の宝庫沖縄の地質的特徴等の講話後、対談形式で港川人の来た道に迫った。
受講者：150名

- 第369回「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」
講 師：與那嶺一子（主任専門員）
日 時：2008年2月16日（土）14時～16時
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：博物館新館の模型製作に関する中、古裂から衣裳を復元する際に多くの関係者と資料を繋げて製作した事例から、人・モノを繋ぐ博物館の意義に迫った。
受講者：約70名

- 第370回「『首里・那覇港図屏風』から見た近世の琉球社会～港町・交易・紛争～」
講 師：豊見山和行（琉球大学 教授）
日 時：2008年3月15日（土）14時～16時
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：OHC（実物投影機）を使用し、屏風を拡大した映像を見ながら那覇港図に描かれた絵の解説から、近世の琉球社会の実像に迫った。
受講者：206名

（赤嶺 敏）



講座のようす1



講座のようす2

5. 展示解説会・館内見学会（展示解説会：毎月第2日曜日、館内見学会：隔月第4土曜日実施）

当館では今年度、5回の学芸員による常設展示解説会と、1回の特別展展示解説会、2回の館内見学会を行った。いずれも、展示室でのスムーズな流れ等を考慮して定員を15名とした。

展示解説会では、各学芸員からは熱のこもった丁寧な解説があり、参加者にも興味深げに説明資料を見ながらメモを取っている方も見られた。また、展示解説会をしている最中、解説会に興味を持った来館者の方も加わって、終わる頃には、人数が増えている場合もあった。実際に展示に携わった学芸員だからこそ話す事の出来る裏話などもあり、大変有意義な解説会を行う事ができた。

館内見学会は、新館ということもあり来館者への案内も兼ねて行った。1回目は、3階の特別展示室や企画展示室の展示会の際に作業場として使用する展示準備室や高性能な顕微鏡が配置されている保存科学室を中心に見学した。2回目は1階の常設展示室裏の撮影室、ホルマリン漬けの資料が保存されている液浸標本室、資料の修復を行う修理修復室を中心に見学した。どの部屋も普段の博物館見学では行くことの出来ない部屋となっており、参加者は、この見学会で博物館の裏の仕事や、博物館の機能を垣間見ることが出来た様であった。

展示解説会、施設見学会は、開催を増やして欲しいとの要望もあり、次年度は回数を増やして開催していく。また、館内見学会に関しては、次年度からは、バックヤードツアーとして行う。

(赤嶺 敏)



展示解説会



館内見学会

6. 博物館ボランティア活動

博物館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となっている。

今年度の博物館ボランティアは、1993年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア実施要項」にもとづき進めてきた。博物館ボランティアは、新館移転の際に博物館友の会と合同会議を開催する中、合意を得てきた両組織の一元化の方針に合わせて、博物館の規約も見直しながら活動を推進してきた。

また、博物館ボランティア養成講座では、新館移転にともない展示内容が大きく刷新された事から、継続ボランティアの方々にも、一律に養成講座を受講してもらった。新館の展示工事の関係で、開館間際まで映像資料や画像、イラストを中心とした講座となつたため、一つ一つの資料や、施設・設備の理解は、開館してからボランティア活動中に確認する状況が多く見られた。

さらに、博物館友の会のボランティア部や指定管理者（文化の杜共同企業体）との関係など、旧館とは大きく違う体制のもと、ボランティア活動をどのように計画・実施するか試行錯誤を繰り返している状況となっている。

本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約970人であった。

(赤嶺 敏)



博物館ボランティア活動のようす

7. ふれあい体験室

ふれあい体験室は、新館建設の柱の1つとして設置された施設である。博物館の入り口に位置するこの展示室では、感覚を働かせた「ふれあう」体験を通して、総合展示室や部門展示室の資料に興味・関心をもってもらう窓口となる。このような体験学習を、常設展示の1つとして設置したのは、県内では初めてである。

この展示室には、体験キットと呼ばれる道具が27種類準備されている。体験キットとは、この部屋のテーマである「自然のしくみ」や「先人の知恵」を知る目的を達成するために、組み立てや、作業を行うための道具のことである。体験キットは、博物館のそれぞれの分野の展示資料と、補完関係になるように意図されたものとなっている。来館者は、資料とのふれあいや、親子、スタッフの交流といった「ふれあい」や「体験」をすることで、この部屋のテーマとなっている「自然のしくみ」「先人の知恵」にふれることができる。

(赤嶺 敏)



ふれあい体験室のようす

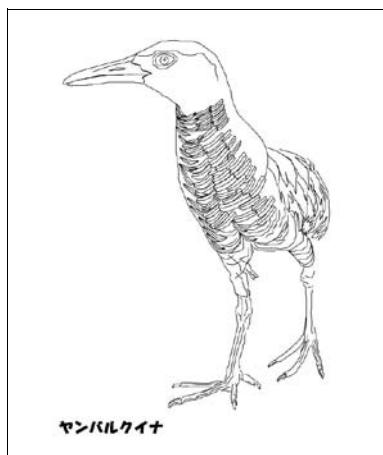
8. フリークレア

博物館新館の開館に合わせて、県内の各小中学校に、①博物館・美術館を知つてもらう②施設を身近に感じてもらう③常設展は無料で入館、ということを確認してもらうために、フリークレアを作成した。フリークレアの印刷・作成は各学校へ依頼した。

「沖縄県立博物館・美術館フリークレア」は、片面に沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄が基本になるが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目を作り、来館の度にスタンプを押していく様になっている。利用の対象は、県内の小中学生で、学校での授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用できる。

開館後、さまざまな場で紹介をしているが、学校関係や県民の方々への周知がまだ徹底されていないので、今後もアピールしていく必要があると思われる。

(赤嶺 敏)



パスカード1 (表)



パスカード2 (表)



パスカード3 (裏)

9. 普及資料の貸出

2007年度の、教育普及資料の貸出しは、豆腐づくり道具や、民具など6件あった。

(赤嶺 敏)

貸出一覧

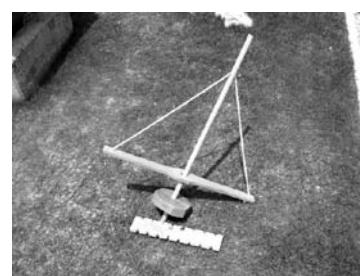
	団体名	事業名	貸出期間	貸出資料
1	糸満市立兼城小学校	宿泊学習	2007年5月23日～25日	火起こし器
2	糸満市立兼城小学校	親子集会	2007年9月14日～10月1日	豆腐づくり用具 (石臼・アジマー・タライ)
3	トータルメディア	新館展示グラフィック作成	2007年9月19日～25日	豆腐づくり用具 (石臼・アジマー・タライ)
4	那覇市立古蔵小学校	昔の道具を体験しよう	2007年10月12日～19日	クバガサ・オーダー・はがま 他
5	沖縄市立高原小学校	とうふを作ろう	2007年12月12日～19日	豆腐づくり用具 (石臼・アジマー・タライ)
6	沖縄県立糸満青年の家	親子黒糖づくり	2008年1月26日～30日	砂糖きび絞り機・シンメー鍋・攪拌棒 他



石臼・アジマー・桶



砂糖きび絞り機



火起こし器

10. その他

博物館では、教育普及事業の他にも、博物館新館開館記念展「人類の旅－港川人の来た道－」の関連事業、博物館新館開館記念ワークショップを開催した。

博物館新館開館記念展「人類の旅－港川人の来た道－」関連事業は、沖縄県博物館友の会との共催で「私が考える港川人」図画作品募集を行った。この事業は、県内の児童、生徒に「港川人」に関わる図画作品を募集・展示することで、新館開館記念展について、児童生徒に興味・関心を持たせ、一般県民への啓蒙・宣伝を図ることを目的とした。総応募数は178点で、内訳は、高校生部門18人、中学生部門14人、小学生部門146人である。応募作品の中から、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、佳作、入選者を審査選考した。また、12月1日に当館講堂にて表彰式を行い、それに併せて展示室のエピローグ部分で応募作品の展示を3期に分けて展示した。

博物館新館開館記念ワークショップは、11月3日にワラザンとマーニ細工の実演と制作を行った。ふれあい体験室にキットの寄贈もされている、栗田文子氏（ワラザン）と金城珍章氏（マーニ細工）を招いて、実習室で行った。当日は、多くの親子が参加し、琉球王国時代の庶民の数の記録法であるワラザンや、身近な素材を利用した馬グアやバッタなどのおもちゃについて楽しく学べた様であった。

○展示解説会（特別展関連催事）

日 時：2007年11月17日 午前10時～

内 容：企画特別展示室内で定員15人の事前公募に応じた市民らを前に、知念学芸員が「人類の進化の過程」と「化石の宝庫沖縄」の重要性や、展示の趣旨を丁寧に解説。会場に居合わせた参観者も加わり約20人が熱心に耳を傾けた。

日 時：2007年12月2日 午前10時～

内 容：企画特別展示室内で博物館友の会会員対象に山崎真治専門員が「人類の進化の過程」について丁寧に解説。会場に居合わせた参観者も加わり約30人が熱心に耳を傾けた。

○「私が考える港川人」図画作品展（特別展関連催事）

開館記念展に先立って県内の小・中・高校に、八重瀬町（旧・具志頭村）で発見された1万8000年前の港川人への関心を高めてもらおうと、港川人の暮らしを想像した図画作品を募集。小学生から146点、中学生から14点、高校生から18点の応募があった。10月に審査し、60点の入賞作品を決めた。表彰式は12月1日に講堂で行い、文化の杜共同企業体も副賞を提供。会期中は会場で全作品を展示紹介した。

○P C ソフト「未来の顔体験～もし百年後に生まれていたら～」（特別展関連催事）

現在の顔写真を基に百年後の未来の顔を予測作成して「人類の進化」を身近に体験してもらう企画。開館記念展の会場一角で、希望者各人の顔を写真に撮り、コンピューターソフトを利用して各人それぞれの未来の顔を写真化し、理解を深めてもらった。11月から土・日の午前中を利用して19回実施。386人の「未来の顔」を作成した。

（赤嶺 敏）



「私が考える港川人」作品展示のようす



「私が考える港川人」表彰式

IV. 資料収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

2008年3月31日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	611	25,662	3,048	1	29,322	54,982
	動物	1,505	18,582	511	141	20,739	
	植物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類		40	19	6	0	65	65
美術工芸	絵画	93	548	2	4	647	9,901
	書跡	180	429	49	6	664	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,339	465	538	4,773	
	漆器	231	229	195	19	674	
	染織	1,097	1,690	51	27	2,865	
	その他	13	1	0	0	14	
歴史		2,826	7,569	338	126	10,859	10,859
考古		296	3,548	2,821	0	6,665	6,665
民俗		614	4,234	1,072	137	6,057	6,057
総計		8,148	70,681	8,694	1,006	88,529	88,529

2. 2007年度(平成19)新収蔵資料高

2007年4月1日～2008年3月31日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	21	0	1	0	22	697
	動物	343	1	0	141	485	
	植物	187	0	0	0	187	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類		16	14	0	0	30	30
美術工芸	絵画	14	0	0	0	14	35
	書跡	0	1	0	0	1	
	彫刻	1	0	0	0	1	
	陶磁器	0	0	0	0	0	
	漆器	0	2	0	0	2	
	染織	4	0	0	0	4	
	その他	13	0	0	0	13	
歴史		106	0	2	0	108	108
考古		264	0	1	0	265	265
民俗		62	10	0	0	72	72
総計		1,034	28	4	141	1,207	1,207

3. 2007年度(平成19)新収蔵資料目録

【購入】 2007年4月1日～2008年3月31日

分類		品名	数量	資料提供・購入先
自然史	地質	ダイヤモンド&金	1	プラジル
		琉球石灰岩地形(模型)	1	琉球列島
		ムカシマンモス(臼歯)	1	東京大学 宮古島
		クジラ化石(頭骨)	1	〃
		ヤンバルクイナ化石(骨格復元標本)	1	沖縄島
		イノシシ化石(骨格復元標本)	1	OK給油所 〃
		リュウキュウジカ(骨格復元標本)	1	伊江島・沖縄島
		リュウキュウムカシキヨン(骨格復元標本)	1	〃
		マーレラ	1	カナダ

自然史	地 質	ナラオイア	1		〃
		セルキルキア	1		〃
		ピカイア	1		〃
		オパビニア	1		〃
		カルカラドン	1		アメリカ
		デスマスチルス	1		〃
		ウェルネル石	1		カナダ
		フランクリン石	1		アメリカ
		石こう	1		カナダ
		マンガンカルサイト	1		ペルー
	動 物	蛍石	1		イギリス
		ソーダライト	1		カナダ
		哺乳類（本剥製）	3		
		鳥類骨格（標本）	1		
		鳥類（レプリカ）	1		
	菌 類	両生爬虫類（本剥製）	1		
		両生爬虫類（レプリカ）	79		
		魚類（レプリカ）	71		
		無脊椎動物（乾燥標本）	47		
		無脊椎動物（本剥製）	5		
	植 物	無脊椎動物（レプリカ・模型）	135		
		菌類（レプリカ）	3		
		植物（レプリカ・模型）	187		
人 類	人 類	縄文人頭骨模型	1		
		現代日本人頭骨模型	1		
		山頂洞人 101 号頭骨模型	1		
		大山洞人模型	1	東京大学	東京都
		桃原洞穴人模型	1	〃	〃
		山下町第一洞穴人模型	1	〃	〃
		上部港川人模型	1		
		カダ原洞穴人模型	1	東京大学	東京都
		ゴヘズ洞穴人模型	1	伊江村教育委員会	伊江村
		チンパンジー雄頭骨模型	1		
	美術工芸	チンパンジー雌頭骨模型	1		
		サヘラントロプス・チャデンシス頭骨模型	1		
		ホモ・ハイデルベルゲンシス(ブロークンヒル)頭骨模型	1		
		ホモ・ルドルフェンシス頭骨模型	1		
		ドマニシ頭骨模型	1		
		ホモ・エルガスター頭骨模型	1		
		伊平屋阿母加那志の正装（金簪付き、模型）	1		
		勾玉（複製）	1		
歴 史	彫 刻	放生池石橋勾欄石獅子（複製）	1	旧円覚寺跡内	那霸市
		中城王子御上国御船之図（上巻、複製）	1	尚古集成館	鹿児島県
		中山王来朝図（複製）	1	国立公文書館	東京都
		琉球人行列筋賑之図（複製）	1	鹿児島大学附属図書館玉里文庫	鹿児島県
	絵 画	程順則の像（複製）	1		
		豊見城王子像（複製）	1	松浦史料博物館	長崎県
		「花鳥図」 山口宗季（呉師虔、複製）	1	大和文華館	奈良県
		「神猫図」 山口宗季（呉師虔、複製）	1	那霸市歴史博物館	那霸市
		役人の正装（複製）	3		
		琉球鳶真景（模型）	1	名護市博物館	名護市
		『八重山蔵元絵師画稿』にみる農民の姿～貢布の製作風景～（複製）	12		
		首里那霸港図屏風（複製）	1	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
	島津義久	琉球貿易図屏風（複製）	1	滋賀大学経済学部附属史料館	滋賀県
		唐船の図（渡唐船の図、複製）	1	九州国立博物館	福岡県
		マーラン船の図（ヤンバル船、複製）	1	〃	〃
		慶良間船の図（島内輸送船、複製）	1	〃	〃
		楷船の図（薩摩渡りの船、複製）	1	〃	〃
	琉球	『歴代宝案』（複製）	1	沖縄県立図書館	那霸市
		琉球国王宛朝鮮国王李隆書契（複製）	1	都城市教育委員会	宮崎県
		島津義久琉球渡航朱印状（複製）	1	霧島市教育委員会	鹿児島県

歴 史	『聞得大君御殿并御城御規式之御次第』(複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	『聞得大君御新下日記』(複製)	1	"	"
	今帰仁間切の具志川のろ職補任并知行安堵辞令書(複製)	1		
	屋喜内間切の名柄のろ職補任辞令書(複製)	1		
	玉ハベル(複製)	1	東京国立博物館	東京都
	琉球国中山王尚寧起請文(複製)	1	東京大学史料編纂所	"
	『喜安日記』(写本)(複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	進貢船掟(複製)	1	坊津歴史資料センター・輝津館	鹿児島県
	新はんりうきうじん手まりうた(複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	『琉球画誌』(複製)	1	財団法人 東洋文庫	東京都
考 古	『指南広義』(複製)	1	国立公文書館	"
	『貝摺奉行所文書』(複製)	3	京都大学附属博物館	京都府
	『与世山親方八重山鳩農務帳』(複製)	1	石垣市立八重山博物館	石垣市
	『多良間島丑年惣頭帳』(複製)	1	多良間村教育委員会	多良間村
	道光福建布政司咨(複製)	1	沖縄県立図書館	那霸市
	唐人墓碑(拓本)	2	石垣市立八重山博物館	石垣市
	『琉球王国評定所文書』(亜人來着ニ付日記)(複製)	1	東京大学法学院法制史資料室	東京都
	亞米利加合衆国琉球王国政府トノ定約 調印書(複製)	1	外務省外交史料館	"
	『井上外務卿機密文書』(複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	『公文録』(明治12年4月各局)内閣書記官局「琉球藩ヲ廢シ沖縄縣ヲ置ケ」(複製)	1	国立公文書館	東京都
歴 史	米国海軍軍政府布告第1号(ニミツツ布告、複製)	1	沖縄県公文書館	南風原町
	サンフランシスコ講和条約締結文書(複製)	1	外務省	東京都
	琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定 批准書(複製)	1	"	"
	『琉球見聞録』	1		
	『南島風土記』	1		
	『沖縄一千年史』	1		
	『琉大文学』	5		
	『愛唱歌集』	1		
	『沖縄よ何處へ』	1		
	『定本 山之口猿詩集』	1		
考 古	ニューヨークヤンキース琉米親善試合パンフレット	1		
	復帰前の酒類	7		
	沖縄歌手のレコード・雑誌	18		
	米人車両ナンバープレート	1		
	『沖縄大百科事典』第1~3巻、別巻	4		
	『おきなわキーワードコラムブック』	2		
	戦後沖縄に関する音楽CD・雑誌(沖縄民謡・ポップス)	5		
	琉球人墓碑(模型)	1		
	進貢船(縮尺模型)	1		
	サーダーヤー模型	1		
歴 史	ウコン(根)	2		
	ウコン(チップ状)	1		
	芋	4		
	マーラン船(模型)	1		
	軽便鉄道(縮尺再現模型)	1		
	ナマコ(複製)	9		
	ヤマモモの荷札(複製)	1	鹿児島県立石橋記念館	鹿児島県
	『南島雜話』(複製)	1	奄美市立奄美博物館	"
	『琉球館文書』(写本、複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	『那覇船改方規模帳(船改之覧)』(複製)	1	九州大学附属図書館付設記録資料館	福岡県
考 古	中山物産考(複製)	1	西尾市岩瀬文庫	愛知県
	『大島筆記』(複製)	1	琉球大学附属図書館	西原町
	『Scenes in the Luchu Islands about 400 miles south of Japan』	1		
	琉球絵はがき関連資料	1		
	ジオラマ(古我地原貝塚、模型)	1	沖縄県立埋蔵文化財センター	沖縄県
	食料(模型)	110		
歴 史	貝製品(土井ヶ浜遺跡、複製)	4	下関市教育委員会	山口県
	貝輪(大友遺跡、複製)	6	佐賀県立博物館	佐賀県
	貝輪(金隈遺跡、複製)	2	福岡市教育委員会	福岡県
	貝輪(諸岡遺跡、複製)	3	"	"
	貝輪(立岩遺跡、複製)	6	飯塚市歴史資料館	"

考 古	貝輪（有珠モシリ遺跡、複製）	7	伊達市教育委員会	北海道
	貝製品（広田遺跡、複製）	20	鹿児島県歴史資料センター黎明館	鹿児島県
	弥生土器（山之口遺跡、複製）	1	〃	〃
	弥生土器（中町馬場遺跡、複製）	1	薩摩川内市教育委員会	鹿児島県
	貝製品（清水貝塚、複製）	6	久米島自然文化センター	沖縄県
	ジオラマ（座喜味城跡、模型）	1	読谷村教育委員会	〃
	ジオラマ（浦上アリモリ遺跡、模型）	1	奄美市教育委員会	鹿児島県
	ジオラマ（知念城跡、模型）	1	南城市教育委員会	沖縄県
	ジオラマ（下田原城跡、模型）	1	竹富町教育委員会	〃
	石厨子（浦添ようどれ、複製）	1	浦添市教育委員会	〃
	石器（天城遺跡、複製）	26	伊仙町教育委員会	鹿児島県
	石器（ガラ竿遺跡、複製）	2	〃	〃
	石（山下町第一洞穴遺跡、複製）	3	沖縄国際大学	沖縄県
	土器、石器、石製品、木製品、骨製品（伊礼原遺跡、複製）	15	北谷町教育委員会	〃
	縄文土器（曾畠貝塚、複製）	1	熊本県教育委員会	熊本県
	縄文土器（干迫遺跡、複製）	1	鹿児島県立埋蔵文化財センター	鹿児島県
	骨製品（崎樋川貝塚、複製）	2	京都大学総合博物館	京都府
	蝶形骨器（安座間原第一遺跡、複製）	1	宜野湾市教育委員会	沖縄県
	蝶形骨器（山川原第一遺跡、複製）	1	〃	〃
	蝶形骨器（室川貝塚、複製）	3	沖縄国際大学	〃
	蝶形骨器（城間古墓群、複製）	1	浦添市教育委員会	〃
	蝶形骨器（吹出原遺跡、複製）	2	読谷村教育委員会	〃
	蝶形骨器（模型）	3	浦添市教育委員会、沖縄国際大学	〃
	ガラス製品、金属製品（宇堅貝塚、複製）	7	うるま市教育委員会	〃
	金属製品（中川原貝塚、複製）	4	読谷村教育委員会	〃
	土器（ピュウツタ遺跡、複製）	4	石垣市教育委員会	〃
	土器（大田原遺跡、複製）	1	〃	〃
	貝斧の柄（模型）	2		
	焼石料理風景（模型）	1		
	土器（高腰城跡、複製）	1	宮古島市教育委員会	沖縄県
	土器（ビロースク遺跡、複製）	1	石垣市教育委員会	〃
	土器、貝製品（木綿原遺跡、複製）	9	読谷村教育委員会	〃
	石斧（カヤウチバンタ遺跡、複製）	1	国頭村教育委員会	〃
民 俗	神に祈る神女（座位）	1		
	ドゥジンカカン（白）（複製）	1	沖縄県立博物館・美術館	那覇市
	ウフジン（白）（複製）	1	久米島自然文化センター	久米島町
	ミサージ（神鉢巻）（複製）	1	〃	〃
	ガーラ玉（勾玉）（複製）	1	沖縄県立博物館・美術館	那覇市
	ユノーシ（大椀）	1		
	ツヌザラ	1		
	板厨子	1		
	「亀甲墓」模型	1		
	ミルク（歩行中）	1		
	命名札	5		
	ナージキの弓矢との	1		
	トーカチ祝いのトーカチ（斗撃）（女性用）	1		
	祝いの飾り（生米・バーキ）	1		
	結納料理	2		
	魚サンプル	10		
	「畑を耕す人（ヘラ・掘串の使用）」模型	1		
	「クルバシャーを引く水牛」模型	1		
	「摺り白を引く女性」模型	1		
	「頭上運搬をする女性たち」模型	1		
	日本瓦	2		
	沖縄豆腐（一丁）模型	1		
	クルバシャー・ヤチバ（砂掻き具）（複製）	1		
	タガニ（複製）	1		
	チーチーグワー（小槌）（複製）	3		
	タレー（たらい）（複製）	1		
	ウフジチ（大槌）（複製）	1		
	シミカチ（炭掻き）（複製）	1		

民 俗	ヒバーシ(火箸)(複製)	1		
	カナカ(金床)(複製)	1		
	フーチ(ふいご)(複製)	1		
	「フーチの神」掛け軸(複製)	1		
	カキエ(掛け軸)	1		
	各種料理	6		
	イラブー菫製	1		
	タムン(薪)(複製)	1		
	サツマイモ(笊の中身)	1		
	御膳の料理(豚肉煮物、島らっきょう、栗飯、あおさ汁)	1		
	ピーウス(火臼)・ピーイナイキ(火杵)	1	喜宝院蒐集館	竹富町

【寄贈】

2007年4月1日～2008年3月31日

分類	品名	数量	寄贈者
自然史(生物)	アマミノクロウサギ(本剥製)	1	鹿児島県立博物館 鹿児島県
人 類	港川人1号頭骨模型	2	東京大学 東京都
	港川人2号頭骨模型	2	" "
	港川人4号頭骨模型	2	" "
	港川人下顎骨A模型	2	" "
	アファール猿人(ルーシー)復元模型	1	沖縄電力株式会社
	北京原人復元模型	1	株式会社琉球銀行
	ネアンデルタール復元模型	1	株式会社沖縄銀行
	港川人復元模型	1	株式会社金秀本社 沖縄特定免税店株式会社
美術工芸	黒漆銀波金魚模様漆絵ボンボン入	1	財団法人海洋博覧会記念公園管理財団
	透漆水筒	1	
	書籍 賴山陽書漢詩琉球詠詩	1	
民 俗	大城昇氏のサバニづくり写真	1	
	大城昇氏のサバニづくり動画	1	
	大城昇氏のサバニづくり写真一式(デジタル映像)	1	
	墓誌(石扉)一対	1	
	上焼ツノ型厨子甕	1	
	上焼ツノ型厨子甕	1	
	上焼ツノ型厨子甕	1	
	上焼コバルト掛け厨子甕	1	
	マンガン掛け底付き厨子甕	1	
	ガソリントーチランプ(ガスバーナー)	1	

【収集】

2007年4月1日～2008年3月31日

分類	品名	数量	収集先
自然史(地質)	西表石炭層(剥ぎ取り標本)	1	竹富町
歴 史	9・29県民総決起大会関連資料	1	
考 古	沖縄県立博物館・美術館開館イベント関連資料	1	
	剥ぎ取り土層(伊礼原E遺跡)	1	北谷町教育委員会 沖縄県

【移管】

2007年4月1日～2008年3月31日

分類	品名	数量	移管元
自然史(動物)	哺乳類(本剥製)	13	沖縄県教育庁文化課 沖縄県
	鳥類(本剥製)	118	" "
	爬虫類(本剥製)	7	" "
	甲殻類(本剥製)	3	" "

【分担管理】

2007年4月1日～2008年3月31日

分類	品名	数量	分担管理者
人 類	港川人3号	1	東京大学 東京都
	港川人4号	1	" "

4. 所蔵指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

2008年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸品	銅鐘(旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6. 15	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺樓鐘)	〃	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球國中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	〃	〃

県指定文化財（有形文化財）

2008年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1躯1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃	〃
絵画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	〃	〃
〃	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57. 3. 4	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃	〃
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌栗絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧靈応寺鐘)	〃	昭60. 6. 18	〃	〃
〃	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧天尊殿鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧一品権現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1. 12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔繪丸型東道盆	1具	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆繪箔繪角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	〃	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	〃	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	評定所格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	〃	〃
〃	扁額「徳高」鄭元偉書	1面	平元 9. 29	〃	〃
〃	扁額「凌雲」林麟焬書	1面	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠(旧波上官朝鮮鐘)	1口	昭60. 6. 18	〃	〃
〃	安国山樹花木記碑	1基	平元 9. 29	〃	〃

5. 修理事業

【事業概要】

博物館資料は貴重な資料であり、その多くは同じ物を二度と収集することができないものばかりである。収集した資料を当館では温湿度管理し万全の処置を講じているが、中には不幸にも収集した時点での破損、長時間の経過に耐えられず劣化したものもある。本事業はこうした資料の状態を改善し、永く県民の重要な財産として継承し、将来的に展示の質の向上を図ることを目的とする。

【事業内容】

円覚寺関係木彫資料

資料名：白象座および獅子座 2 個

羅漢像 1 個

修理内容：破損部分を別材で補い、剥離止めを行った。

修理業者：財団法人 日本美術院

(代表：西村杏太郎 京都府京都市下京区七条通高倉東入ル 材木町476-1)

執行額：4,800,000円（内3,520,000円は住友財団の助成による。）

美術工芸・歴史資料

資料名：琉球国図・軸装 1 幅

孫億（松鶴の図） 1 幅

冊子類 22 冊

修理内容：軸物は表面の剥離を止め表具を張り直した。冊子類は綴じ紐の綴じ直しを行った。

修理業者：石川堂（代表：当間 博、沖縄県うるま市石川 2738-11-2F）

執行額：1,539,000円

2006年度同様、円覚寺関係の修理にあたっては住友財団の多大なる援助を頂いた。2008年度は住友財団より助成を受けて修理事業を行う4ヵ年計画の最終年度となる。住友財団にはこの場を借りて深く感謝の念をここに記す。

（平川 信幸）

6. 化石資料受入事業

【事業の目的と経過】

群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長より寄贈を受けた沖縄県産化石資料（以下「長谷川コレクション」）の整理作業と、収蔵している岩石・化石資料の整理作業、また、県内各地から資料を収集し、新館展示に向けて収蔵品の充実を図る事を目的として1995年度より継続して資料整理事業が行われてきた。

特に長谷川コレクションについては、化石資料が30,000点を超える膨大な数で、現在までに20,000点余の整理は終えているものの、その後も追加資料が相次いだため未だ整理作業は継続中である。

今までに長谷川コレクションのうち整理作業が終了しているものは、宮古島ピンザアブ洞穴産のノロジカ化石、ハタネズミ化石、港川フィッシャー産トリ類化石、伊江島ゴヘズ洞穴産と久米島下地原洞穴産のシカ・キヨン類化石、宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石で、その内2004年度までに整理作業が終了しているものについては、その年度に中間報告として「長谷川コレクション 琉球列島産化石資料一覧」を編集・発行されている。

今年度については、最重要事業である沖縄県立博物館・美術館への移転作業があつたため、一旦整理作業を中断し、急ピッチで梱包作業及び開梱作業を行つたため計画通り推進できたとは言えないものの、無事すべての資料の移転及び開梱を終えることができた。また、今年度は博物館・美術館開館に合わせて、東京大学総合研究博物館と分担管理することになった「港川人3号及び4号標本」の受入も行われた。

次年度の課題としては、整理作業が終了していない部分があること、作業員数の確保などが挙げられるが、今後も予想される寄贈資料も膨大にあることから、本事業の持つ琉球列島産出の化石群を散逸させないという重要な役割について再認識するとともに、この事業の継続推進の必要性を強く感じている。

【これまでの事業の内容及び実績】

受入資料の整理作業

収蔵資料の台帳整理

未登録資料の分類・整理作業

化石資料の分類、部位同定・修復、登録作業

岩石・鉱物資料の同定、分類
登録後の資料の計測とナンバリング

受入準備

整理容器等の購入・発送

受入資料

長谷川コレクション（シカ類化石を中心とする約30,000点）
ミヤコノロジカ復元骨格のレプリカ作成
下地原洞穴出土乳児人骨のレプリカ作成
港川フィッシャー産トリ化石（約1,000点）
宮古島産ほ乳類化石（約1,000点）
南北大東島産アホウドリ化石（約200点）
知念村ジープ洞シカ化石（約10,000点）
下地原洞穴産シカ類化石（約1,000点）
宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石（約1,000点）
その他県内各地の動物化石（約1,000点）

【2007年度事業実績】

長谷川コレクション化石資料の未整理分整理
宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石

長谷川コレクション受入準備

港川フィッシャー産イノシシ化石及びハブ化石
宮古島ピンザアブ洞穴産ヘビ類化石
宮古島ピンザアブ洞穴産カエル類化石

全受入資料の移転作業

全受入資料の確認作業
全受入資料の梱包・開梱作業

分担管理資料の受入

港川人3号標本及び4号標本

(知念 幸子)



沖縄県立博物館（首里）化石収蔵庫における長谷川コレクション収蔵状況



沖縄県立博物館・美術館（おもろまち）化石収蔵庫における長谷川コレクション収蔵状況



分担管理のための確認作業



港川人3号標本の収蔵状況

7. 資料収集事業 一資料収集一

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上では、欠落している部分があるので、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び自然史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

2007年度は前年度に引き続いて、琉球絵はがき関連資料1件を購入した。琉球絵はがき関連資料は、現在の首里や那覇を中心に、広範囲にわたる沖縄の自然風景・建造物・風俗・街並み等の写真が印刷された琉球絵はがきや、絵はがきと関連する写真・郵便物などであり、戦前の沖縄をうかがえる貴重な資料である。前年度以前の博物館において、琉球絵はがきを30枚程度しか収蔵していなかったため、収集すべき必要性を備えていた。

(稻福 恒子)



琉球絵はがき関連資料（一部）



琉球絵はがき（奥武山公園）

8. 資料収集事業 一基金一

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るために後世に伝えるべき資料である。中でも先の大戦で戦火を潜り抜けてきた琉球王国時代の資料は文化的価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。また、資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金(以下「基金」という)は貴重な琉球資料を購入し、流出させないことを目的の一つとしている。沖縄県立博物館・美術館では、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらわす琉球資料を、今後も基金により収集を継続し、展示会等の活動を活性化させていく。

2007年度は、購入を予定している東京在住の個人宅に残されている着物35件、焼き物34件の調査を行った。いずれの資料も状態および品質が高く、王朝時代から昭和初期にかけての沖縄の染織文化を知る上で大変貴重なものであった。

- 2006. 5. 29. 第1回沖縄県立博物館美術品等収集委員会（以下「収集委員会」）（館長決裁）
- 6. 29. 収集委員会の資料借用A業者（館長決裁）
- 7. 5. 収集委員会の資料借用B業者（館長決裁）
- 7. 7. 第2回収集委員会
- 8. 7. 収集委員会の資料借用C業者（館長決裁）
- 8. 28. 収集委員会審議結果報告（教育長決裁）
- 10. 30. 沖縄県美術品等取得基金による美術品取得計画調書の策定（総務部長決裁）
- 11. 22. 沖縄県美術品等取得基金による美術品等の購入について（教育長決裁）
- 2007. 2. 17. 購入予定資料の調査
- 2. 26. 備品購入（教育長決裁）
- 3. 16. 契約業者より、収集美術品を納品
- 2008. 2. 22. 購入予定資料の調査

9. 資料貸出

事業名：宜野座村立博物館 常設展示
主催：宜野座村立博物館
会場：宜野座村立博物館 常設展示室
貸出期間：2007年4月1日～2008年3月31日
貸出資料：歴史資料／赤羽刀5振

事業名：おきなわワールド 王国歴史博物館 常設展示
主催：おきなわワールド 王国歴史博物館
会場：おきなわワールド 王国歴史博物館
貸出期間：2007年4月1日～2008年3月31日
貸出資料：ニッポンムカシジカ骨格組立標本1点

事業名：日本出土の元代青花瓷資料集成
借用者：亀井明徳（専修大学教授）
目的：研究・調査のため
貸出期間：2007年12月28日～2008年3月31日
貸出資料：考古資料／勝連城跡出土の青花瓷破片1件

事業名：平成20年度アートと歴史の融合事業特別企画展「ちゅら島 琉球－南国沖縄の文化と美－」
主催：財団法人仙台市市民文化事業団
会場：仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）
貸出期間：2008年1月29日～3月22日
貸出資料：考古・民俗・美術工芸資料／鬼瓦他24件

美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 収蔵資料現在高

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

【調査研究内容】

美術全般に関する調査研究

本県及び本県を取り巻くアジア近隣諸国とアメリカを中心とした美術全般に関する調査研究を行い、世界に開かれた館活動の基盤づくりに反映させる。また、国内外の研究者や研究機関との共同研究を積極的に行う。

美術館機能に関する調査研究

美術品の収集方法や展示方法など、美術館機能に関しての調査研究を行う。

- ① 美術品の収集に関する調査研究
- ② 美術品の保存科学に関する調査研究
- ③ 美術品の修復に関する調査研究
- ④ 展示技術に関する調査研究
- ⑤ 教育普及に関する調査研究
- ⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
- ⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
- ⑧ 美術館の振興に関する調査研究等

【調査研究の体制】

より充実した調査研究活動を行うために、館内での研究体制の確立を図る。専門職員の充実や研究環境の整備、また、アジアを中心とする世界各国との人材交流などを行うことによって、よりグローバルな美術館活動を展開する。

国内外の大学や他の学術研究機関との間に客員研究員制度を設けるなど、横断的で幅広い調査研究活動ができるよう配慮する。

(豊見山 愛)

2. 調査・研究等

翁長 直樹（主幹）

- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（比嘉康雄、伊志嶺隆、平良孝七、山田實、東松照明ほか写真関係）
期 間：2007年4月～6月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（基地、アイドルなど表象関係）
期 間：2007年4月～6月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（那覇：与世山澄子、山城政幸ほか沖縄音楽関係、
コザ：知名定男、喜屋武幸雄、ジョージ柴、カッチャンほか音楽関係）
期 間：2007年5月～6月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（絵画、彫刻、工芸、デザイン、建築ほか美術関係）
期 間：2007年7月～8月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（高嶺剛、具志堅剛、トリン・ティー・ミンハほか映像関係）
期 間：2007年7月～8月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調整（ペルー大使館、アルゼンチン大使館、ブラジル大使館）
期 間：2007年8月9日～9月10日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展調査（洲鎌朝夫、親泊仲真、真喜志好一、国場幸房 他建築関係）
期 間：2007年9月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展作品借用（横浜美術館、平塚市美術館、宮内庁三の丸尚蔵館）
期 間：2007年10月17日～19日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展作品借用（京都市美術館）
期 間：2007年12月22日～23日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

前田比呂也（主任学芸員）

- 名 称：収集美術品調査（鹿児島県立霧島アートの森美術館、鹿児島市立美術館他）
期 間：2007年4月9日～4月11日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：収集美術品調査（個人コレクター：川崎市、沼田市）
期 間：2007年4月24日～4月25日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：修復美術品点検（日光市、横浜市）
期 間：2007年6月19日～6月21日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：収集美術品集荷作業立会い（川崎市、沼田市）
期 間：2007年8月6日～8月9日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：「アールブリュット展」事前調整（NOMA：近江八幡市）
期 間：2007年11月28日～11月29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：「南洋群島展」事前調整（東京新聞社：千代田区、町田市国際版画美術館：町田市）
期 間：2008年1月29日～1月31日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

豊見山 愛（主任学芸員）

- 名 称：収集候補美術品調査（ベトナム絵画）（富山栄吉氏ご遺族宅）
期 間：2007年1月29日～31日、3月26日～28日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：美術品収集にかかる調査等（大阪：栗国久直氏アトリエ、森本有泉遺族宅、前田藤四郎）
期 間：2007年5月10日～11日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：2008年度企画展「南洋群島」展担当者会議（東京：東京新聞文化事業部）
期 間：2007年5月24日～25日、10月17日～18日、2008年1月29日～31日
3月26日～28日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室、沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：2007年度収集対象作家調査（沖縄：新垣安之輔、石川真生、真喜志勉）
期 間：2007年5月29日～6月中旬
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：2007年度収集対象作家調査（コミュニケーションワーク）（阪田清子）
期 間：2007年4月～10月
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：開館記念展借用作品調査及び交渉（浦添市美術館、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、那覇市壺屋焼物博物館）
期 間：2007年8月9日～10月12日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：南洋興発株式会社米軍返還フィルム調査等（南洋群島展関連研究）（東京国立近代美術館フィルムセンター、町田市立国際版画美術館、世田谷美術館）
期 間：2007年12月19日～20日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

大城 仁美（主任学芸員）

- 名 称：2007年度収集作家調査（石川真生）
期 間：2007年6月中旬～下旬
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展美術品調査（京都国立近代美術館、大阪府立現代美術センター、大阪市立近代美術館建設準備室、国立国際美術館）
期 間：2007年8月6日～8日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室

- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展美術品借用（料亭一力、福岡市美術館）
期 間：2007年10月11日～12日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展美術品借用（横浜美術館、平塚市美術館、宮内庁三の丸尚蔵館）
期 間：2007年10月17日～19日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展美術品返却（愛知県美術館、宮内庁三の丸尚蔵館、平塚市美術館、横浜美術館）
期 間：2008年3月3日～7日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：沖縄県立美術館開館記念展美術品返却（福岡市美術館、料亭一力、京都市美術館、京都国立近代美術館、大阪府立現代美術センター、大阪市立近代美術館建設準備室）
期 間：2008年3月10日～14日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

3. 講演等

翁長 直樹（主幹）

- 名 称：「開館記念展にあたって」
期 間：2007年12月1日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

前田比呂也（主任学芸員）

- 名 称：「海の日」「道路の日」国画作文コンクール審査
期 間：2007年6月22日
依頼機関：内閣府
- 名 称：「島くとうばの日」ポスターコンペ審査
期 間：2007年7月10日
依頼機関：沖縄県
- 名 称：教職5年経験者研修
期 間：2007年8月8日
依頼機関：沖縄県立総合教育センター
- 名 称：「動物愛護週間」国画作文コンクール審査
期 間：2007年8月31日
依頼機関：沖縄県
- 名 称：小学校図工科研修会
期 間：2007年8月15日
依頼機関：沖縄県立総合教育センター
- 名 称：「ダイキン・オーキッド」ポスター・コンクール審査
期 間：2007年11月22日
依頼機関：琉球放送株式会社
- 名 称：沖縄県造形教育大会（南城市立船越小学校）
期 間：2008年2月23日
依頼機関：沖縄県造形教育連盟
- 名 称：デジタルアーカイブ講演会（沖縄県立博物館・美術館講堂）
期 間：2008年3月19日
依頼機関：内閣府

豊見山 愛（主任学芸員）

- 名 称：「美術館コレクションギャラリー展について（教員対象美術館講座）」
期 間：2007年7月31日～8月3日
依頼機関：沖縄県教育庁文化施設建設室

4. 著作論文等

翁長 直樹（主幹）

- 「開館記念展にあたって」『美術手帳』2008年1月
- 「美を見る（高嶺剛、具志堅剛、ゴヤフリオ、能勢孝二郎）」『琉球新報』2007年11月～2008年3月

前田比呂也（主任学芸員）

- 「美をみる13 「シニカル・リアリズムとポリティカル・ポップ」」『琉球新報』2007年19年4月13日
- 「美をみる14 「シンガポール タブーへの挑戦」」『琉球新報』2007年4月27日
- 「美をみる15 「インドネシアの作家たち」」『琉球新報』2007年5月11日
- 「美をみる16 「ベトナム 漆による絵画表現」」『琉球新報』2007年5月25日
- 「美をみる17 「フィリピン・パキスタン 底辺の叫び」」『琉球新報』2007年6月8日
- 「美をみる18 「目の前に映る自分自身」」『琉球新報』2007年6月22日

豊見山 愛（主任学芸員）

- 「展評 美術が高尚であるために一宮良映子展に寄せて」『Galery Voice』2007年8月 画廊沖縄
- 「“沖縄ポップ”は存在するか—試論—」『沖縄県立博物館美術館 美術館開館記念展 沖縄文化の軌跡1872-2007』2007年11月1日
- 「歴史上の人物 アーティスト・ビレッジの美術家たち～ニシムイ美術村」『全国知事会機関誌』2008年3月号
- 「美を見る」『琉球新報』2008年1月～6月（隔週・担当回数6回）
- 「南風」『琉球新報』2008年1月～6月（隔週全12回）

大城 仁美（主任学芸員）

- 「うちな～・OKINAWA・沖縄（東松照明、比嘉康雄、山田實）」『オキナワグラフ6月号』2007年6月
- 「美を見る（山田實、水島源晃、比嘉康雄、比嘉豊光、岡本太郎、東松照明、石川文洋、石川真生、管洋志、野村恵子：掲載順）」『琉球新報』2007年8月～10月（隔週全6回）

II. 展示活動

1. 展示活動概要

美術館の展覧会活動は、1995年（平成7）策定による「沖縄県立現代美術館（仮称）基本計画」に基づいて、コレクション展示と、年間6本の企画展開催を目標としている。コレクション展示は、計画的、系統的に収集した美術作品を、企画性の高いテーマに沿って展示する。また、来館者の美術理解を充足させ、新たな美的関心を高めるため、展覧会と連動した教育普及活動にも配慮する。

企画展については、年間2本の自主企画展（年2本程度）を開催する。また、指定管理者による独自の企画を4本組み込むこととしている。

自主企画展は、開館記念展として「沖縄文化の軌跡1872-2007」を開催し、廃藩置県後の沖縄及び、ゆかりの作家の近現代美術などを、学芸員の調査研究を基に企画し、展示した。また展示室にこだわらず、広く美術に関わるテーマとして、県民ギャラリーにてエイブル・アートの展覧会を開催した。

（豊見山 愛）

2. コレクション展（常設展）

【コレクションギャラリー1】

タイトル：「山田實コレクション展」

会期：2008年3月25日～6月29日

担当：翁長 直樹

内容：戦後沖縄の写真史を辿る筆頭に、山田實を取り上げた。終戦直前に入隊し、シベリアで過酷な抑留生活を送った経験をもつ山田は、1952年に帰郷、写真店を開業する。50年代後半から沖縄県内を廻り、復興する沖縄の風景及び人物を撮影した。特に、子供たちの無垢な表情が印象的で、生命の尊さが伝わってくる。

【コレクションギャラリー2】

タイトル：「混沌の時代を見つめて—シニカル・リアリズムとポリティカル・ポップ」

会期：平成20年3月25日～6月29日

担当：前田 比呂也

出品作家：WANG Guangyi（王廣義）、ZHANG Xiaogang（張曉剛）、FANG Lijun（方力鈞）、
LIU Wei（劉偉）、YUE Minjun（丘敏君）、WEI Dong（東魏）、FENG Mengbo（馮夢波）

内容：本展では中国文革後の美術家たちを第1世代から第3世代に分けて、第3世代に顕著な傾向である「シニカル・リアリズム」と「ポリティカル・ポップ」に焦点をあてた。第1世代は、文革の悲惨を告発する「傷痕リアリズム」といわれる作品を生みだし、体制批判と人間性の回復を。続いて第2世代は「モダニズム運動の段階」で、無秩序な西洋のモダンアートの大量流入を受け、ダダ風の過激な運動を展開した。

【コレクションギャラリー3】

タイトル：「沖縄の前衛—混沌（カオス）からの出発」

会期：2008年3月25日～2009年5月10日

担当：豊見山 愛

内容：本展では、沖縄美術における近代から現代までの潮流を概観する。テーマは「沖縄の前衛—混沌（カオス）からの出発」として、戦後復興期からの美術作品をコレクションから厳選し時代順に構成した。美術家たちがどのように時代と向き合い、模索したかを作品鑑賞の糸口とした。また新しい試みとしては、資料的価値に終始しがちな小品、あるいは低照度を徹底した上でエスキース・版画などを、絵画作品と並列したことで一次・二次資料を複合した展示づくりを目指した。

1. 「沖縄」を描く — 内と外との眼差し
2. 共同体と変革者たち — ニシムイ美術村
3. 前衛の時代 — グループ耕・グループNON・`76展
4. 精神の自由化—形式への回帰
5. 伝統と回生—モダンクラフトの現在

（豊見山 愛）

3. 特別展 一美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡 1872 - 2007」一

名 称：開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872 - 2007』
会 期：2007年11月1日（木）～2008年2月24日（日）
前期：2007年11月1日（木）～12月24日（月）
後期：2008年1月3日（木）～2月24日（日）
会 場：沖縄県立博物館・美術館 企画展示室1・2／コレクションギャラリー1・2・3
／県民ギャラリー1・2・3
入 館 料：一般1,200円

【開催形式】

主 催：沖縄県教育委員会／沖縄県立博物館・美術館
協 力：琉球物流／日本航空
後 援：在沖米国総領事館／アルゼンチン共和国大使館／ブラジル連邦共和国大使館／ペルー共和国大使館
／社団法人沖縄県美術家連盟／沖縄県文化協会／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／琉球放送／沖縄タイムス社／琉球新報社

【関連催事】

アーティストトーク

日 時：2007年11月2日（金）18:00～20:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂
出 演：大城カズ×島袋道浩×照屋勇賢 コーディネーター／前嵩西一馬

演奏会・公演会・ライブ

○南風原高校郷土芸能

日 時：2007年11月3日（土）14:00～14:40
場 所：エントランスホール
演 奏：沖縄県立南風原高校郷土文化コース

○中城Jr. オーケストラ

日 時：2007年11月4日（日）15:00～15:55
場 所：エントランスホール
演 奏：中城ジュニアオーケストラ（代表：佐渡山安信）

○ミュージックライブ“仲里尚英&國吉政淳”

日 時：2007年11月16日（金）18:00～19:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂
演 奏：仲里尚英（オカリナ）、國吉政淳（キーボード）

○ミュージックライブ“アルベルト城間”

日 時：2007年11月18日（日）18:00～20:00
場 所：那覇市おもろまち新都心公園
演 奏：ディアマンテス

○ミュージックライブ『調和楽の世界～園山民平、宮良長包、金井喜久子作品コンサート&トーク～』

日 時：2007年12月22日（土）15:00～16:30
場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂
講 師：三島わかな（沖縄県立芸術大学非常勤講師）

演 奏：阿波連佳恵子（ピアノ）

演 目：園山民平 ピアノ独奏曲より

『沖縄民謡 口説ヴァリエーション』（1911年・明治44年作曲）

宮良長包 合唱曲・歌曲より（ピアノ編曲：三島わかな）

『鶯の鳥』（1927年・昭和2年作曲）

『コイナユンタ』（1929年・昭和4年作曲）

『琉球木遣歌』（1930年・昭和5年作曲）

『なんた浜』（1930年・昭和5年作曲）

『荒磯の歌』（1935年・昭和10年作曲）

金井喜久子 ピアノ独奏曲より

『龍神祭り序曲』（1974年・昭和49年作曲）

『琉球譯詩曲』（1951年・昭和26年作曲）

○ミュージックライブ『知名定男ライブ』

日 時：2008年1月13日（日） 15：30～16：30

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

演 奏：知名定男、吉田安子、鳩間かなこ

○ミュージックライブ『オキナワロック史の証言—ライブ&シンポジウム』

日 時：2008年1月25日（金） 18：00～20：20

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

出 演：勝ちやんバンド、マリーバンド（以上ライブ演者）

喜屋武幸雄（シンポジウムコーディネーター）、川満勝弘（勝ちやん）、ジョージ紫、
宮永英一（チビ）、マリー（以上パネリスト）

○ミュージックライブ『屋良文雄Jazzライブ』

日 時：2008年1月26日（土） 15：30～17：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

演 奏：屋良文雄（ピアノ）、津嘉山善栄（ドラム）、ベース：与那城勝（ベース）、
岩崎文紀（アルトサックス）

○ミュージックライブ『与世山澄子Jazzライブ』

日 時：2008年1月27日（日） 15：30～17：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

演 奏：与世山澄子（ボーカル）、仲本正國（ピアノ）、香村英史（ピアノ）、西川勲（ベース）、
国場幸孝（ドラム）、アラン・カヒベ（サックス）、城間巧介（ギター）、
新川享樹（トロンボーン）

○ミュージックライブ『比屋定篤子ライブ』

日 時：2008年2月15日（金） 19：00～20：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

演 奏：比屋定篤子、笛子重治（ギター）

○沖縄伝統音楽・舞踊

日 時：2008年1月8日（火） 14：00～15：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

出 演：糸数一雄、座安盛善、前原信喜、国吉正康、ほか（以上三線）、具志堅孝子、山田和子、
喜久村克子（以上筝曲）、石川清二（胡弓）、比嘉聰（太鼓）、知念久光（笛）、
島尻ひさみ、神山典子、高嶺久枝、前川美智子、照屋倫子（以上舞踊）

○演劇公演『お笑い米軍基地』

日 時：2008年2月10日（日） 15：30～17：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

出 演：沖縄お笑い団体・演芸集団FEC

○ダンス&パフォーマンス「沖縄×個×アルゼンチン」

日 時：2008年2月14日（木）～16日（土）

場 所：エントランス

出 演：ミゲル・ガニコ&ワークショップメンバー

○演劇公演『人類館』

日 時：2008年2月23、24日 19：00～20：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

出 演：演劇集団 創造

上江洲朝男（調教師）、花城清長（男）、小嶺和佳子（女）（以上キャスト）

知念正真（作）、幸喜良秀（演出）、西藏盛史子（演出補）、崎浜茂（舞台監督）、

仲宗根満（舞台装置）、稲嶺隆（照明／沖縄舞台）、新垣雄（音楽）、

当間彰（音響／ワークステージラボ）、伊波恵利子（音響補）、矢部久美子（小道具）、

高宮城六江（衣・化粧）、又吉英仁（制作）（以上スタッフ）

トークリレー

○「植民地の文化政治と表象のアポリア」

講 師：仲里効（『EDGE』編集長）

日 時：2007年12月9日（日） 14：00～15：00

場 所：美術館講座室

○「『われわれ』を生み出す装置としての記録・記憶・歴史」

講 師：豊見山和美（沖縄県立公文書館専門員）

- 日 時：2007年12月23日（日）14：00～15：00
 場 所：美術館講座室
- 「近代沖縄像の表象と組み替え」
 講 師：屋嘉比収（沖縄大学准教授）
 日 時：2007年12月25日（日）14：00～15：00
 場 所：美術館講座室
- 「沖縄戦後美術の軌跡」
 講 師：星雅彦（美術評論家）
 日 時：2008年1月12日（土）16：00～16：30
 場 所：美術館講座室
- 「沖縄移民とチャンプルー文化」
 講 師：新垣誠（沖縄キリスト教学院大学助教授）
 日 時：2008年2月10日（日）13：00～14：00
 場 所：美術館講座室

映画&トーク

- 日 時：2007年12月2日（日）17：00～19：30 講堂
 映 画：『南の島琉球』阪毎日新聞／1940年／モノクロ・16mm／11分
 『吉屋チルー物語』金城哲夫／1962年／モノクロ・16mm／90分
 トーク：玉城ゆう子（研究者）、翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館主幹）
- 日 時：2008年1月18日（金）13：30～19：50 講堂
 映 画：『八月十五夜の茶屋』ニエル・マン／1956年／カラー／124分
 『神々の深き欲望』今村昌平／1968年／カラー／175分
 解 説：翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館主幹）
- 日 時：2008年1月19日（土）13：30～18：00 講堂
 映 画：『沖縄列島』東陽一／1969年／モノクロ・35mm／90分
 『やさしいにっぽん人』東陽一／1971年／モノクロ・35mm／118分
 トーク：東陽一（映画監督）×今郁義（）
- 日 時：2008年1月20日（日）13：30～16：50 講堂
 映 画：『たたかう兎』具志堅剛／1989年／カラー・8mm／42分
 『独立少女紅蓮隊』安里麻里2004年／カラー・DVD／72分
 トーク：具志堅剛（映画監督）×安里麻里（映画監督）
- 日 時：2008年2月1日（金）13：00～20：30 講堂
 映 画：高嶺剛映画特集①
 『ウンタマギル』1989年／カラー・35mm／120分
 『オキナワソルダイ』1976年／16mm／69分
 『ワイルド・ウーマク・オキナワン・コンディショングリーン』1979年／βカム／22分
 『夢幻琉球・つるヘンリー』1998年／βカム／86分
 トーク：高嶺剛×名嘉山リサ（映像研究者）
- 日 時：2008年2月2日（土）13：00～20：00 講堂
 映 画：高嶺剛映画特集②
 『パラダイスビュー』1985年／カラー・35mm／113分
 『夢幻琉球・つるヘンリー』1998年／βカム／86分
 『ウンタマギル』1989年／カラー・35mm／120分
 トーク：高嶺剛×仲里効（『EDGE』編集長）
- 日 時：2008年2月3日（日）13：00～18：30 講堂
 映 画：高嶺剛映画特集③
 『夢幻琉球・つるヘンリー』1998年／βカム／86分
 『嘉手苅林昌 唄と語り』1995年／カラー・16mm／60分
 『サシングワー』1992年／8mm／4分
 『オキナワンドリームショー』1975年／8mm／113分
 トーク：高嶺剛×土江真樹子（TVプロデューサー）×親泊伸真（建築家）

国際フォーラム「移動と表現—変容する身体・言語・文化—」

- 基調講演「移動と表現—アルゼンチン1世の足跡を通して」
 講 師：マキシミリアーノ・マタヨシ

○パフォーマンス

出 演：ミゲル・ガニコ

○フォーラム

パネリスト：マキシミリアーノ・マタヨシ（アルゼンチン／作家）、ミゲル・ガニコ（アルゼンチン／舞踏家）ゴヤ・フリオ（アルゼンチン／彫刻家）、アルベルト・シロマ（ペルー／ミュージシャン）、アリエ・マキ（フランス在住／アーティスト）、翁長直樹（沖縄／沖縄県立博物館・美術館主幹）
コーディネーター：山里勝巳（沖縄／琉球大学教授）

（翁長 直樹）

4. 企画展「素朴の大砲～アートキャンプ2008展+マリオ・デル・クルト写真展」

会 期：2008年3月4日（火）～29日（土）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー

入 館 者：6,100人

展示作品：320点

助 成 金：おきぎんふるさと振興基金

【開催形式】

主 催：アートキャンプ2001実行委員会、沖縄県立博物館・美術館

共 催：社会福祉法人 若竹福祉会

後 援：NHK沖縄放送局／沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／琉球放送／沖縄タイムス社
／琉球新報社／沖縄県社会福祉協議会

協 賛：医療法人佐久田脳神経外科・外科／沖縄県高等学校・障害児学校教職員組合
／株式会社アイ・ティ・ネットシステムズ／合資会社学友館／有限会社沖縄科学
／ゆんたく広場居酒屋福ろう／琉球警備保障株式会社

【出品作家】

県 内：喜舎場盛也／上里浩也／狩俣明宏／藤野友衣／玉井ケント／東恩納侑／佐久田祐一

県 外：小幡正雄／舛次崇／辻勇二／野間口桂介／本岡秀則

海 外：マリオ・デルクルト

【関連催事】

○シンポジウム プレ企画：「コミュニケーションの乗り物～アートと福祉からみる地域社会」

（日本学術振興会による「人文・社会科学振興プロジェクト研究事業」）

日 時：2007年11月17日（土） 14:00～15:00

会 場：沖縄県立博物館・美術館 講座室

内 容：第1部 事例報告

「町とアートと人々と～関係製造業としての現代アート」

川浪千鶴（福岡県立美術館学芸課長）

「障がいのある人の創作活動と地域社会の理解」

稲嶺志乃（社会就労センターわかつたけ支援員）

「なぜ乗り物を描くのか？～アートとコミュニケーションの話」

奥平俊六（大阪大学大学院文化研究科教授）

第2部：パネルディスカッション

川浪千鶴、稲嶺志乃、奥平俊六、服部正（兵庫県立美術館学芸員）

朝妻彰（沖縄県立鏡が丘養護学校教諭・アートキャンプ2001実行委員会代表）

○記念講演会

日 時：2008年3月22日（土曜日） 14:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室

内 容：第1部「日本のアウトサイダー・アート」

講師：代島治彦さん（映像プロデューサー）

第2部「アウトサイダーアートってなに？」

講師：はたよしこさん（絵本作家、ボーダレスアートミュージアムNO-MAアートディレクター）

○トークリレー

第2回

内 容：作家の家族や関係者の語りを通して、作品の魅力や作家の制作活動、人柄に触れる。

日 時：2008年3月16日（日） 12：50～13：25

場 所：沖縄県立博物館・美術館（県民ギャラリー）

紹介作家：東恩納侑（本人と母親が参加）、佐久田祐一（本人と両親が参加）

第3回

内 容：作家の家族や関係者の語りを通して、作品の魅力や作家の制作活動、人柄に触れる。

日 時：2008年3月22日（土） 13：00～13：50

場 所：沖縄県立博物館・美術館（県民ギャラリー）

紹介作家：本岡秀則（両親が参加）、舛次崇（本人と両親が参加）

○ワークショップ（製作体験）

日 時：2008年3月16日（日曜日） 13：30～16：30

場 所：沖縄県立博物館・美術館（子どもアトリエ）

内 容：コース1「カットアウトの楽園～はさみでチョキチョキ切って貼ろう」

- ・色紙をはさみで好きな形に切り取り、のりで貼り重ねて色鮮やかなコラージュ作品を共同で作ります。

- ・参加費：300円

- ・定 員：20名

コース2「ワイヤードローイングの玩具箱～はりがねぐるぐるで作る機関車～」

- ・ビニールワイヤーを使って立体を作ります。2008展では機関車トーマス。さて、あなたなら？細い線で作られる立体から面白い空間が生まれます。

- ・参加費：300円

- ・定 員：20名

【関連記事】

「喜舎場さん作品、イスの展覧会へ 障害越え制作」琉球新報 2008.1.22.

「南風／負けない心／豊見山愛」琉球新報 夕刊 2008.2.6.

「アートキャンプ開幕 県立美術館」琉球新報 2008.3.4.

「作家と制作満喫 アートキャンプ展」琉球新報 2008.3.17.

（前田 比呂也）

III. 教育普及活動

1. 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動の支援プログラムでは、展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の推進を図った。また、作品の理解をすすめるために、学芸員によるキュレータートーク、作品制作によるアーティストトークなどを展示室で実施するとともに、美術講座も定期的に実施した。

実技体験の支援プログラムでは、県民アトリエ・こどもアトリエを活用し、各種実技講座を開催した。また、造形だけではなく身体表現ワークショップを定期的に開催した。

発表活動の支援プログラムは、県民ギャラリーを活用し、県内の美術関係者に作品発表の機会を提供した。また、学校と連携し「アールプリュット展」など、外部では発表の機会をなかなか提供されない教育実践の紹介などを行なった。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立の施設という責任に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出前美術館・出前ワークショップなどを実施した。

(翁長 直樹)

2. 鑑賞活動支援

【開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』展示解説ボランティア育成講座】

開館記念展会期中にドーセント・ツアーを行うことを予定しており、ドーセントを育成するための講座を開館目前にした10月の火曜日と木曜日（最終週のみ火・水）に毎週2回、計10回行なった。前年度の講座参加者や美術館支援会happ会員を始め、広く一般から募集をし、FAXで事前受付を行い、20～60代の52名の申込みがあった。

開館記念展の章立てに沿って、スライドで主要展示作品を紹介しながら、展覧会を企画担当した学芸員翁長直樹と前田比呂也が対談を行なった。また開館記念展では美術作品に限らず文化の総体を展示するということで、関連する音楽を聴たり、講座開始前にはその回に関連する映画を上映した。講座の後半はドーセント体験ということで、参加者の中からドーセント希望者を募り、スライドで映し出された作品を前にしながら、本人の感想や意見を述べつつ、他の受講生との対話を通して、ドーセント・ツアーの練習をした。講座の後半からは、展示室内で作品を観ながら行なった。また委託制作をしたアーティストを招き、作品を前にアーティスト・トークも開催した。

○第1回「第1章 戦前期 異文化遭遇から同化へ（前） a. 描かれた沖縄」

日時：2007年10月2日（火）18:00～20:30

場所：美術館講座室

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（日本民藝館『琉球の民藝』）、ドーセント説明・登録

○第2回「第1章 戦前期 異文化遭遇から同化へ（後） b. 作られた主体からの脱却」

日時：2007年10月4日（木）19:00～20:30

場所：美術館講座室

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（金城哲夫『吉屋チルー物語』）、ドーセント体験

○第3回「第2章 独立と帰属（前） a. ニシムイーアーティスト・ヴィッレジの誕生と消滅ー」

日時：2007年10月9日（火）19:00～20:30

場所：美術館講座室

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（ダニエル・マン『八月十五夜の茶屋』）、ドーセント体験

○第4回「第2章 独立と帰属（後） b. 米軍統治下の沖縄」

日時：2007年10月11日（木）19:00～20:30

場所：美術館講座室

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（東陽一『沖縄列島』）、ドーセント体験

○第5回「第3章 自画像を求めて（前） a. 世代わりの譜」

日時：2007年10月16日（火）19:00～20:30

場所：美術館講座室、企画展示室2

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（高嶺剛『オキナワンドリームショー』）、ドーセント体験

○第6回「第3章 自画像を求めて（後） b. 沖縄原風景」

日時：2007年10月18日（木）19:00～20:30

場所：美術館講座室、企画展示室2

内容：対談（翁長直樹VS前田比呂也）、映画（高嶺剛『夢幻琉球つるヘンリー』）、ドーセント体験

- 第7回「第4章 複数の沖縄（前） a. オキナワんりありづむ」
 日時：2007年10月23日（火）19：00～20：30
 場所：美術館講座室、アトリウム、コレクションギャラリー2
 内容：鼎談（宮城明 VS 翁長直樹 VS 前田比呂也）、映画（具志堅剛『たたかう兎』）、ドーセント体験
- 第8回「第4章 複数の沖縄（後） b. オキナワ浪漫」
 日時：2007年10月25日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室、ホワイエ
 内容：対談（翁長直樹 VS 前田比呂也）、映画（トリン・T・ミンハ『姓はヴェト、名はナム』）、アーティスト・トーク（阪田清子）、ドーセント体験
- 第9回「第5章 海外の沖縄アーティスト」
 日時：2007年10月30日（火）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：対談（翁長直樹 VS 前田比呂也）、映像（山城知佳子『オキナワ TOURIST 2004』、『墓庭クラブ』）
- 第10回「展示解説 予行演習」
 日時：2007年10月31日（水）19：00～20：30
 場所：美術館講座室

【コレクション・ギャラリー展ドーセント育成講座】

2008年3月25日からのコレクション・ギャラリー展に向けて、ドーセントを育成するための講座を6回開催した。展覧会の構成に合わせ、写真（山田實）、中国現代美術、沖縄現代美術についてそれぞれ2回づつ、各担当学芸員が画像やインタビュー映像等を用いて講義を行った。

- 第1回「中国現代美術1 「文化大革命とシニカル・リアリズム」」
 日時：2008年1月10日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：
 1. チャイナ・トレード・ペインティング
 2. 写されたチャイナ・イメージ
 3. 憧れの近代生活—モダン・タイムズ—
 4. 社会主義の時代—描かれる理想—
 講師：前田比呂也（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）
- 第2回「中国現代美術2 「天安門事件とポリティカル・ポップ」」
 日時：2008年1月17日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：
 1. 文化大革命から天安門事件へ
 2. シニカル・リアリズム
 3. ポリティカル・ポップ
 講師：前田比呂也（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）
- 第3回「沖縄現代美術1 「沖縄美術の同時代性（1945－1972）」」
 日時：2008年1月24日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：
 1. 洋画の受容～沖縄を訪れた画家たち
 2. 教師との出会い
 3. 戦後の苦境下、どのように絵を描き続けていったのか？
 インタビュー映像：安谷屋節子（安谷屋正義夫人）
 講師：豊見山愛（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）
- 第4回「沖縄現代美術2 「1973－2007 美術からアートへ」」
 日時：2008年1月31日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：展示室ギャラリートーク
 講師：豊見山愛（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）
- 第5回「山田實（1）－子どもへのまなざし－」
 日時：2008年2月7日（木）19：00～20：30
 場所：美術館講座室
 内容：アーティスト・トーク（山田實／写真家）
 映像：TBS - BS 『戦後の沖縄 NEWS アカデミー』
 講師：大城仁美（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）

○第6回「山田實（2）一街と風景一」

日時：2008年2月14日（木）19:00～20:30

場所：美術館講座室

講師：翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）

【開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』ドーセント・ツア】

開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』において、毎週水曜日と土曜日の午後2時からボランティアによるドーセント・ツアを開催した。ツア参加を希望する一般の鑑賞者に、美術館エントランスに集合してもらい、ドーセントと一緒に展示室をまわる。作品1点1点についての情報を伝えるのではなく、それぞれのドーセントが選んだいくつかの作品について、鑑賞者に問い合わせながら、対話を通じて作品と一緒にみていくことに重点をおいて開催した。

「百聞は一見をしのぐ」と題し、目に障がいを持つ人とドーセントがペアやグループになって、作品をみる、ツアも行った。目が見える人は何が描かれているのかを説明し、イメージをふくらませるようにする。質問したり、お互いの感想を言ったりと対話を重ねることによって、みるということ、絵を伝えるということがどういうことなのか、ドーセント自身も自答しながら、楽しんでいる様子がみられた。

2月には金曜の夜8時まで開いていることをを利用して「ナイト・ミュージアム」と題し、仕事帰りの人も来られるような時間に設定し、ドーセント・ツアを行った。

○開館記念展ドーセントツア

日 時：2007年11月7日～2008年1月30日 毎週水・土曜日 14:00～15:30

ドーセント：宮島さおり、下地慶子、松浦雅子、鈴木美智子、鈴木仁、与儀美奈子、前田朝子、名嘉真尚子、比嘉昭夫

○ドーセント・ツア「介護老人保健施設オリブ園見学会」

日 時：2008年1月16日（水）14:00～15:00

ドーセント：下地慶子、与儀美奈子、松浦雅子

○「百聞は一見をしのぐ」視覚障がい者のためのドーセント・ツア

日 時：2008年1月19日（土）14:00～15:30

ドーセント：宮島さおり、前田朝子、鈴木美智子、鈴木仁

○「ナイトミュージアム」夜間ドーセントツア

日 時：2008年2月1日・8日・15日・22日（金）19:00～20:00

※関連記事

「対話深めつつ鑑賞 県立美術館、初の展示解説ツア」琉球新報 2007.11.15.

「イメージ浮かんだ／視覚障がい者、芸術楽しむ」琉球新報 朝刊 2008.1.20.

「南風／頭と心で考える／豊見山愛」琉球新報 夕刊 2008.1.23.

【ボランティア・ハンドブック 開館記念展『文化の軌跡 1872-2007』】

ボランティア向けに開館記念展の主要展示作品を紹介するパンフレット。章ごとに冊子になっており、章の概要、展示作品の画像と作家や作品についての解説等が掲載されている。ボランティアの声も掲載しており、実際に作品と向き合っての感想や思い等を語っている。



第1章 異文化遭遇から同化へ

- 序文 異文化遭遇から同化へ（1872-1945）
美術 描かれた沖縄／琉球絵画／洋画への受容
工芸 民藝による沖縄の発見と工芸の近代
写真 写された沖縄
表象 マルフクレコード／柳田国男／寄留商人／『滅びゆく琉球女の手記』
主な展示作品リスト

1



第2章 独立と帰属

- 序文 独立と帰属（1945-1972）
美術 ニシムイから60年代美術まで
写真 山田實／水島源晃
音楽 米軍統治下の沖縄—アメリカへの抵抗と憧れ
表彰 花プロック／高等弁務官／A サイン／沖縄プロダクト／琉大文学
主な展示作品リスト

2



- 第3章 自画像を求めて**
序文 自画像を求めて（1972—1995）
美術 沖縄の固有性を求めて／社会的現実を表現する
写真・映像 写真・映像時代の出現
建築 戦後の建築
表象 復帰記念三大事業と海洋博覧会／交通方法変更
主な展示作品リスト
- 第4章 複数の沖縄**
序文 複数の沖縄（1995—2007）
美術 戦後第3世代の美術の展開
写真・映像 戦後第3世代の写真の展開
身体表現 踊りに行くぜ！！vol.8 沖縄公演
タイ×日本共同制作ダンス公演「テーパノン」
表象 県民総決起大会／沖縄サミット／沖縄ブーム
主な展示作品リスト
- 第5章 海外の沖縄アーティスト**
序文 海外の沖縄アーティスト
美術 北米の表現者たち／ブラジルの表現者たち／ペルーの表現者たち
／アルゼンチンの表現者たち
フォーラム 移動と表現—変容する身体・言語・文化—
表象 世界のウチナーンチュ大会／WUB／アルベルト城間
主な展示作品リスト

(比嘉 明子)

3. 実技体験支援

【Contemporary Dance Workshop in Museum】

美術館では、従来の美術の枠を超えて、コンテンポラリーダンスなど身体に拠る表現を紹介しており、このワークショップは美術館の開館記念展関連事業として開催。NPO法人 Japan Contemporary Dance Network の協力により、講師に三浦宏之氏を迎えた。参加者がつくる作品を12月に開催する『踊りに行くぜ！！vol.8 沖縄公演』の上演作品のひとつとして発表することも目指し、8日間のワークショップを行った。参加者はダンス経験の有無にかかわらず広く一般から募集したため、高校のダンス部、バレエ、フラメンコ等様々なダンス経験を持つ人と未経験者も含め15歳から60代までの幅広い層で集まった。

日 程：2007年9月12日（水）～19日（水）
(12、13、14、18、19日は午後7～9時、15・16・17日は午後2～6時)
場 所：美術館 県民・子供アトリエ
講 師：三浦宏之（M-laboratory主宰／ダンサー・振付家）
主 催：沖縄県教育委員会
協 力：NPO法人 Japan Contemporary Dance Network
参加数：25名

【踊りに行くぜ！！ Vol.8 沖縄公演】

NPO法人 Japan Contemporary Dance Network による「踊りに行くぜ！！vol.8」の沖縄公演が美術館との連携により、2日間行われた。

美術館屋外展示場で村上和司による『RED MAN 2007』からスタートし、エントランスに入ると Abe “M” ARIA『一』がいきなり大音響、叫び声とともに始まる。美術館ホワイエに移動すると展示室のあちこちから出てくるco.co.yo.の『WILD』。美術館のさらに奥へ進むと、中庭ではガラスを隔てて三浦宏之ワークショップメンバーによる『わたし』が演じられ、最後は県民・こどもアトリエの屋外作業場で外の喧噪とともに砂連尾理による『バーテンダー』で締めくくった。観客も一緒に美術館を移動しながら、5組のダンスを鑑賞した。

日 時：2007年12月7日（金）・8日（土） 18:00～20:30
主 催：沖縄県立博物館・美術館
全体企画・制作・主催：NPO法人 Japan Contemporary Dance Network

アフタートーク

公演終了後興奮冷めやらぬ間に、出演者と観客がダンスについて語り合う場。活発な質問や意見、感想が飛び出していた。

日 時：2007年12月7日（金）・8日（土） 20:00～20:30

会 場：美術館 子供・県民アトリエ

出 演：村上和司・Abe “M” ARIA・co.co.yo・三浦宏之・沖縄WS メンバー・砂連尾理

司 会：前田比呂也

「おもろまちダンス教室」

コンテンポラリーダンスについての様々な映像を見ながら、コンテンポラリーダンスとは何かについて、桜井圭介氏を講師に迎え解説してもらった。

日 時：2007年12月8日（土） 14:00～17:00

会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講 師：桜井圭介（コンポーザー／「吾妻橋ダンスクロッシング」オーガナイザー）

参加費：500円

※関連記事

「高校生から60代、ダンスで一つに／受講生作「わたし」上演へ」琉球新報 2007.12.7.

「あしゃぎ／三浦宏之」琉球新報文化面

【タイ×日本共同制作ダンス公演「テーパノン」（平成19年度文化庁『舞台芸術の魅力発見事業』日タイ修好120周年記念事業）】

タイ古典仮面舞踊「コーン」をベースにコンテンポラリーダンスでも活動するピチエ・クランチェンを迎えて、5日間に亘って様々なプログラムを行った。12月14日の公演に向けてダンスを作っていく過程を公開でみせるオープン稽古場。2日に亘って開催されたトークセッションでは、研究者や学芸員の立場からの身体表現やアジア・沖縄を捉えている話と、ピチエ・クランチェンの古典を通してコンテンポラリーダンスへと展開していく話等があった。フロアとの意見交換もあり、様々な立場からの声が聞かれた。公演では「うどん」をこねる動きから生まれるダイナミックな表現、躍動感あふれる動き等5人のダンサーによって演じられた。最終日にはピチエ・クランチェンによるワークショップが行われ、小学生から大人まで30人程参加した。

○「テーパノン」オープン稽古場

日 時：2007年12月11日（火） 17:00～18:00

場 所：美術館アトリエ

○Talk Session 1 「沖縄で考える、アジア・身体・ダンス」

日 時：2007年12月12日（水） 19:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

スピーカー：武藤大祐、翁長直樹、前田比呂也

コメンテーター：ピチエ・クランチェン、大谷燠

進行：後藤美紀子

○Talk Session 2 「ピチエ・クランチェンに聞く」

日 時：2007年12月13日（木） 19:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

スピーカー：ピチエ・クランチェン、大谷燠

コメンテーター：武藤大祐、翁長直樹、前田比呂也

進行：後藤美紀子

○タイ×日本共同制作ダンス公演「テーパノン」

日 時：2007年12月14日（金） 19:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

振付・演出：ピチエ・クランチェン

出 演：ピチエ・クランチェン（タイ）、イム・ジョンミ（韓国）、ピーター・ゴライトリー（米国）、伊藤恵（日本）、北原倫子（日本）

○ワークショップ「テーパノン」

日 時：2007年12月15日（土） 14:00～17:00

場 所：美術館アトリエ

講 師：ピチエ・クランチェン

※関連記事 「タイ舞踊と共同上演 那覇でテーパノン」琉球新報 2007.12.15.

（比嘉 明子）

4. 見学会

美術館開館前に、施設見学会を行った。対象は美術関係者で、展示室を中心に館内を見てもらった。参加者は1回あたり15人～30人。見学終了後、博物館講座室にて、美術館収集方針や開館記念展の概要説明、質疑応答を行った。

第1回（沖縄美術家連盟）	: 2007年5月11日（金）18:00～20:00
第2回（沖縄県写真協会）	: 2007年5月18日（金）18:00～20:00
第3回（「美術館を語る会」）	: 2007年5月25日（金）18:00～20:00
第4回（沖縄女流美術家協会）	: 2007年6月1日（金）18:00～20:00

(比嘉 明子)

5. 上映会&講演会

2006年にオープンしたケ・プランリー美術館（フランス）にも委託制作作品が設置されている世界的な映像作家、ベトナム系アメリカ人のトリン・T・ミンハを迎えて、作品上映会と講演会を行った。開館記念展でもミンハの作品を制作し展示することもあり、解説ボランティアに美術館施設を見学してもらった後、勉強会も兼ねて上映会を行った。講演会では人類学者の今福龍太氏にも登壇してもらい、ケ・プランリー美術館における作品の解説から、美術館の空間との関係、可能性等について映像作品を交えながら話してもらった。

○トリン・T・ミンハを迎えて 美術館施設見学会及びトリン・T・ミンハ作品上映会
日 時：2007年6月7日（木）18:00～21:10
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
対 象：解説ボランティア
内 容：美術館施設見学会、作品解説、作品上映『姓はヴェト、名はナム』1989年／108分／監督・脚本・編集：トリン・T・ミンハ）
○トリン・T・ミンハ講演会「美術館の展示空間の提案」
日 時：2007年6月9日（土）18:00～20:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映会『もうひとつの歩行（L'autre marche）』
講 師：トリン・T・ミンハ（映像作家／カリフォルニア大学バークレー校教授）
今福龍太（東京外国語大学大学院教授）

(比嘉 明子)

6. 美術館講座－教員向け研修会－

夏休み期間を利用して、小中高校の美術教師を対象に、美術館講座を開催した。2日間で全課程が修了するプログラムとし、4日間行った。開館後に小中高校と美術館とが連携し積極的に利用してもらうために、美術館での活動を大きく、「鑑賞」と「ワークショップ」にわけ、その実践例の紹介と体験をしてもらった。今後どのように美術館を活用していくか、展開していくかを考えるために、美術館の基本的な活動となる展示、収集、保存等についても紹介し、施設をみてももらった。

○鑑賞について（1日目：2007年7月31日、8月2日）
・施設見学
・講座1 「美術館における教育普及について」
講師：前田比呂也
・講座2 「常設展示活動について」
講師：豊見山愛
・実習1 「対話式鑑賞授業」
講師：前田比呂也
場所：コレクションギャラリー3
作品：山元恵一『貴方を愛する時と憎む時』
・講座3 「美術鑑賞の可能性（バリアフリー）」
講師：山田親幸（沖縄県視覚障害者福祉協会会长）、赤嶺知洋（琉球新報社）
司会：前田比呂也

- ・講座4 「美術品の保存と修復」
講師：翁長邦子
- ・講座5 「鑑賞授業の目標（ティチャーズ・キット紹介）」
講師：前田比呂也

○ワークショップ（2日目：2007年8月1、3日）

- ・事業紹介1 「OKINAWA アート&カルチャーコムの紹介」
講師：金城聰（支援会happ）
- ・講座6 「アトリエ活動について」
講師：新名悟
- ・講座7 「実践報告 影絵劇ワヤンワークショップ」
講師：前田紫（伊良波中学校教諭）
- ・講座8 「アーティスト・トーク」
講師：ゴヤ・フリオ（彫刻家）
- ・実習2 「ワークショップ」
講師：ゴヤ・フリオ（彫刻家）
- ・講座9 「開館記念展について」
講師：翁長直樹
- ・事業紹介2 「沖縄県立博物館・美術館ご利用案内」
講師：原裕昭

（比嘉 明子）

7. 講演会

在沖米国総領事館との共催により、スミソニアン・アメリカ国立自然史博物館から沖縄出身の知念淳子氏を招いて、講演会を開催した。知念氏が担当した韓国展についての企画から実施までの内容を軸としながら、アメリカにおけるミュージアムのあり方、地域との関わり方等が見えてくる内容であった。

講演名：「アメリカのミュージアム～アメリカ国立自然史博物館・韓国展を通して～」

日 時：2007年8月15日（水）19：00～21：00

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂

講 師：知念淳子（スミソニアン・アメリカ国立自然史博物館／Public Program Specialist）

主 催：沖縄県教育委員会、在沖米国総領事館

（比嘉 明子）

IV. 収蔵資料現在高

2008年3月31日現在

分類		購入	寄贈	寄託	移管	総計
平面	沖縄	458	1,636	0	8	2,102
	沖縄ゆかり					
	アジア					
	アメリカ					
立体	沖縄	8	22	0	0	30
	沖縄ゆかり					
	アジア					
	アメリカ					
映像	沖縄	16	3	0	0	19
	沖縄ゆかり					
	アジア					
	アメリカ					
その他	沖縄	26	3	0	0	29
	沖縄ゆかり					
	アジア					
	アメリカ					
総計		508	1,664	0	8	2,180

文化の杜共同企業体 (指定管理者)

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 組織
- III 文化の杜共同企業体・美術館
企画アドバイザー会議
- IV 「世界の現代アーティスト 50 人展
-ガルシア・ロルカを顕彰して-」
(展示自主活動)
- V 教育・イベント活動 (自主活動)
- VI 広報・交流事業
- VII 調査・研究等の活動

I. 文化的杜共同企業体概要

沖縄県は県立博物館・美術館の開館にともない、指定管理者制度を導入した。文化の杜共同企業体（以下「文化的杜」）は、その指定管理者として県立博物館・美術館の管理運営を担うため、株式会社沖縄文化の杜（代表取締役社長 平良知二）と株式会社沖縄タイムス社（代表取締役社長 岸本正男）、株式会社国際ビル産業（代表取締役社長 井上宏）の三社から組織された。幹事社の沖縄文化の杜が8割、沖縄タイムス社が1割、沖縄国際ビル産業1割の比率で構成される。

沖縄文化の杜は沖縄タイムス社の100%出資で、文化事業を中心に企画運営し、調査研究機能などシンクタンク的な役割も兼ねる会社として、2007年1月に設立されている。沖縄タイムス社は新聞社として1948年7月に設立され、新聞発行のほか沖縄展を開催するなど、文化事業などを行っている。国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設の管理業務を多く担っている。

文化的杜は沖縄県立博物館・美術館の管理運営にあたって、県の設置目的および基本方針等に基づき、複合施設である利点を生かしながら指定管理者制度の利点を最大限に活用し、県民が愛着をもてる、県民による県民のための博物館・美術館を目指し、下記の方針を掲げている。

沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、かつその情報を離島地域を含めて、県内外に発信する拠点施設とする。

「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化

県民が沖縄・琉球の歴史文化を学び知識と愛着を育み、それらを生かして「沖縄ルネサンス」を創出する人材を育てる場とする。常に県内外の博物館・美術館と交流し、県内の類似施設とも連携を強化してお互いの役割を最大限發揮できるように取り組む。活動のプロセスそのものを人材育成にも結びつける。

アジア地域との交流・連携の促進

かつて交易国家として繁栄し、近代には多くの海外移住者を輩出した本県の歴史を踏まえ、アジア近隣地域や中南米など海外のウチナーンチュとの交流・連携を積極的に進める。「アジアの中の沖縄」の観点に立ち、東京経由ではない独自のネットワークを構築し、地元企業の強みを生かして「沖縄の個性」を発揮することに努める。

沖縄ブランドの確立

各種企画や事業、教育普及活動を通して、沖縄ブランドを育成、発展させる拠点とする。観光立県沖縄の魅力ある観光資源としての役割を担い、最新情報の発信により沖縄の魅力を広く内外にPRする。

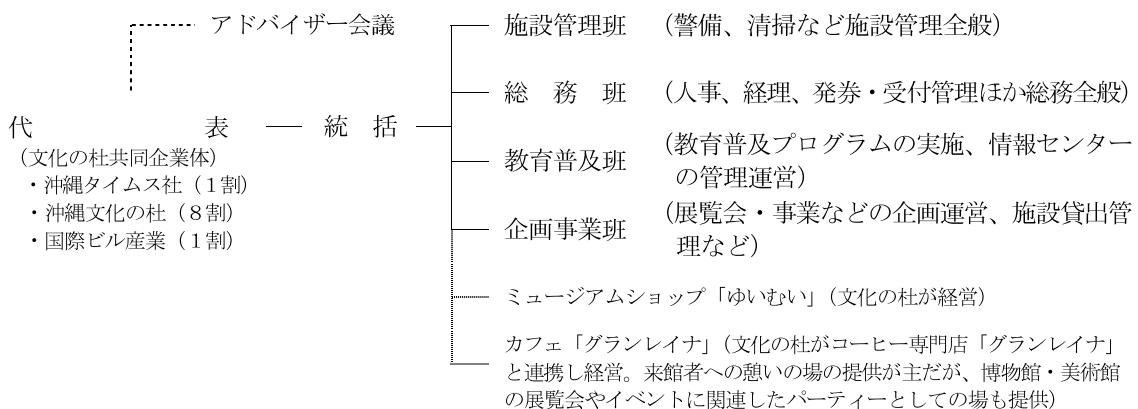
県民ぐるみの取り組み推進

「県民主役」を基本とし、県民による新しい文化創造を目指す。「県民の視点」を基本に「県民ぐるみ」の取り組みで、環境対策にも積極的に対応するほか地域との連携、県民参加のあり方を工夫し教育普及活動を積極的に推進する。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化的杜においてもこの精神に基づき、「県民主体」をモットーとして、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指し、県民に開かれた公正・公平な運営を指針としている。

II. 組織

指定管理者としての業務開始は、2007年11月1日の開館当日（指定期間は2011年3月31日まで）からであったが、業務の混乱を避けるため、8月28日から以下の組織体制で県立博物館・美術館の事務所を使用し業務を開始した。



【職員構成】

2008年4月1日 現在

班	氏名	担当業務
代表	平良 知二	
統括	新里 政次	指定管理業務の統括に関する事。
総務班	海勢頭利江	発券システム管理、月報・年度報告、広報、総務の統括に関する事。
	赤嶺 政信	日報作成、経理、入館者数の管理に関する事。
	安仁屋清美	予算管理、人事、受付窓口管理、その他総務全般に関する事。
	仲里 紗子	総務補助、広報補助、クーポン券や旅行者の対応に関する事。
	平良 昭隆	県民ギャラリーに関する事。
教育普及班	福島 輝一	教育普及の統括に関する事。
	安元佐和子	教育普及、展示交流員の統括に関する事。
	町田 恵美	教育普及に関する事。
	仲程 香野	情報センターに関する事。
	中村 愛	情報センター、県民ギャラリーに関する事。
	玉城 淳子	情報センターに関する事。
企画事業班	後田多 敦	企画事業の統括、月報、発券システム補助に関する事。
	土江真樹子	企画、アドバイザーミーティングに関する事。
	謝花佐和子	企画に関する事。
	屋良 朝秀	企画、施設貸出に関する事。
	岡本美奈子	企画に関する事。
	大城奈里子	企画に関する事。
施設管理班	高良 勝三	施設管理全般の統括に関する事。
	安部 則宏	警備の統括に関する事。
	神谷 幸男	設備の統括に関する事。
	与那嶺裕哉	清掃の統括に関する事。
総合受付・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関する事。 (発券2名、総合受付1~5名、もぎり2~3名を配置)
展示交流員		展示室における監視に関する事。 (博物館開館記念展は常時2名、常設展は7名を配置。美術館開館記念展は本来9名の配置予定であったが、美術館の強い要望を受け特別に増員して14人を配置。10月に事前研修を行い、11月1日の新館開館に備えた)

【人事異動】

2008年4月1日 現在

班	氏名	摘要
総務班	海勢頭利江	沖縄タイムス本社へ異動

III. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザーハイ会議

美術館アドバイザーハイ会議は、指定管理者が美術館で行うことになっている年4本の展覧会やその他の関連事業について、外部からの助言・提案などを受け、企画の立案・実施に反映させることを目的としている。この会議は、文化の杜が指定管理に応募する際に提案したもので、文化の杜の正式な外部アドバイザーとして位置付けている。メンバーは学識経験者、美術館運営経験者、実作者、批評家、市民グループ関係者で構成している。任期は2009年3月までで、月1回会議を開催している。会議意見は、企画運営に積極的に反映させていき、アドバイザーには事業の実施にも積極的にかかわってもらっている。2008年1月からは県の要望を受け、美術館副館長がオブザーバー参加している（美術館副館長は会議において助言・発言することが出来る）。

文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザーハイ名簿（2007年11月1日～2009年3月31日）

氏名	所属	職名
学識経験者 西村貞雄	琉球大学	教授
市民グループ 宮城潤	前島アートセンター	理事
批評家 仲里効	雑誌「EDGE」	編集長
実作者 喜久村徳男	芸術家	画家
美術館運営者 佐喜眞道夫	佐喜眞美術館	館長
オブザーバー 與那原慧	沖縄県立博物館・美術館（美術館）	副館長兼班長

第1回 アドバイザーハイ会議

日 時：2007年10月1日（月）17：30～

場 所：県立博物館・美術館会議室

出席者：西村貞雄、宮城潤、仲里効、喜久村徳男、佐喜眞道夫

議 題：文化の杜共同企業体の概要や指定管理者制度についての説明のあと、文化の杜が企画している企画案について論議

第2回 アドバイザーハイ会議

日 時：2007年10月18日（木）17：30～

場 所：県立博物館・美術館会議室

出席者：西村貞雄、宮城潤、仲里効、喜久村徳男、佐喜眞道夫

議 題：企画案についての論議

第3回 アドバイザーハイ会議

日 時：2007年11月16日（金）17：30～20：30

場 所：博物館講座室

出席者：喜久村徳雄、佐喜眞道夫、仲里効、宮城潤（以上4名はアドバイザーメンバー）

後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、土江真樹子（以上4名は文化の杜職員）

議 題：①11月16日に開かれた県のアドバイザーハイ会議について

②美術館の展示および開館後見えてきた問題点などについて

③「世界の画家50人—ガルシアロルカを顕彰して」の企画について

④「無言館」の内容説明について

⑤「山下清とその仲間たち作品展」の企画について

第4回 アドバイザーハイ会議

日 時：2007年12月13日（木）17：30～19：30

場 所：美術館講座室

出席者：喜久村徳雄、佐喜眞道夫、仲里効、宮城潤（以上4名はアドバイザーメンバー）

後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、土江真樹子（以上4名は文化の杜職員）

與那原慧（美術館副館長）

議 題：①済州島との交流展について

②「世界の画家50人—ガルシアロルカを顕彰して」及び「無言館」の進捗状況の報告

③「嘉手川繁夫展」の企画提案と内容説明について

第5回 アドバイザーハイ会議

日 時：2008年1月18日（金）17：30～19：30

場 所：博物館講座室

出席者：喜久村徳雄、西村貞雄、佐喜眞道夫、仲里功、宮城潤（以上5名はアドバイザーメンバー）

後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、土江真樹子（以上4名は文化の杜職員）

議 題：①「世界の画家50人—ガルシアロルカを顕彰して」の進捗状況について

②「無言館」の内容説明について

③「嘉手川繁夫展」の内容説明および「琉球絵画」企画提案について

④「サウンドアート」の企画内容について

⑤濟州島との交流展について

第6回 アドバイザーミーティング

日 時：2008年2月12日（火）17：30～20：30

場 所：博物館講座室

出席者：喜久村徳雄、西村貞雄、佐喜眞道夫、仲里功、宮城潤（以上5名はアドバイザーメンバー）

後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、土江真樹子（以上4名は文化の杜職員）

與那原慧（美術館副館長、オブザーバー参加）

議 題：①オブザーバーについて

②指定管理制度に関する説明

③「無言館」の企画説明について

④「嘉手川繁夫展」について

第7回 アドバイザーミーティング

日 時：2008年2月17日（日）15：00～17：30

場 所：特別応接室

出席者：西村貞雄、佐喜眞道夫、仲里功、宮城潤（以上4名はアドバイザーメンバー）

新里正次、後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、土江真樹子、平良昭隆（以上6名は文化の杜職員）

與那原慧（美術館副館長、オブザーバー参加）

議 題：「嘉手川繁夫展」について

第8回 アドバイザーミーティング

日 時：2008年3月18日（月）17：30～19：00

場 所：博物館講座室

出席者：喜久村徳雄、佐喜眞道夫、仲里功（以上3名はアドバイザーメンバー）

後田多敦、謝花佐和子、大城奈里子、岡本美奈子、土江真樹子（以上5名は文化の杜職員）

議 題：「情熱と戦争の狭間で」の進捗状況報告

IV. 「世界の現代アーティスト50人展—ガルシア・ロルカを顕彰して—」(展示自主活動)

名 称：「世界の現代アーティスト50人展—ガルシア・ロルカを顕彰して—」
会 期：2008年3月15日（土）～5月11日（日）
会 場：沖縄県立博物館・美術館 美術館企画展示室

【開催趣旨】

スペインの詩人で劇作家の故フェルディコ・ガルシア・ロルカ（スペイン内戦で殺害された）の生涯を称えるために50名の世界の代表的なアーティストが作成した作品の展示会。クロアチア人のトニー・ポリテオ氏がロルカの生誕100年（1998年）を記念して、50名の世界の代表的なアーティストを選び、そのための作品制作を依頼して2003年（1977年に発案、呼びかけし）に完成したものである。

この展示会は2004年にザグレブ（クロアチア）で開催され、2005年にはスペインのマルベラの美術館で、さらに2006年ベルリンのアートセンターでそれらが公開された。日本国内では初めての展示となる。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
後 援：スペイン大使館、クロアチア共和国大使館、財団法人日本スペイン協会
協 賛：株式会社琉球銀行

【内覧会】

日 時：2008年3月14日（金）16:00～18:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館企画ギャラリー1
参加者：トニー・ポリテオ（美術品コレクター）
 ドラゴ・シュタンブク（クロアチア共和国の特命全権大使）
 幸地学（画家、彫刻家）
 博物館・美術館関係者
 文化の杜共同企業体関係者（構成企業代表者等）
 県内マスコミ各社
 その他：内覧会終了後、館内3階のカフェグラントレーナにてパーティーを開催した。

【開会式】

日 時：2008年3月15日（土）10:00～10:30
場 所：沖縄県立博物館・美術館
 美術館企画ギャラリー1前
参加者：トニー・ポリテオ（美術品コレクター）
 ドラゴ・シュタンブク（クロアチア共和国の特命全権大使）
 大城勇夫（琉球銀行 頭取）
 牧野浩隆（沖縄県立博物館・美術館館長）
 平良知二（文化の杜共同企業体 代表）
 ※その他関係者約10名参加



開会式の様子

【関連催事】

○トークショー

日 時：2008年3月16日（日）15:00～16:30
場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室
講 師：トニー・ポリテオ（美術品コレクター）、
 幸地学（画家、彫刻家）
 内 容：本展覧会において紹介した作品をコレクションしたトニー・ポリテオ氏により、その経緯を語ってもらった。また、幸地学氏により「ロルカと現代美術」について語ってもらった。
 参加者：80名

○ギャラリートーク

日 時：2008年3月20日（木）13:30～14:00、15:30～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 企画展示室

講 師：幸地学（画家、彫刻家）

内 容：展示室において作品紹介を行った。

参加者：40名（1回目）、40名（2回目）

【その他】

本企画展の後援にご協力をいただいたクロアチア共和国特命全権大使ドラゴ・シュタンブク氏の来沖に際し、県内主要公的機関への表敬訪問を行った。

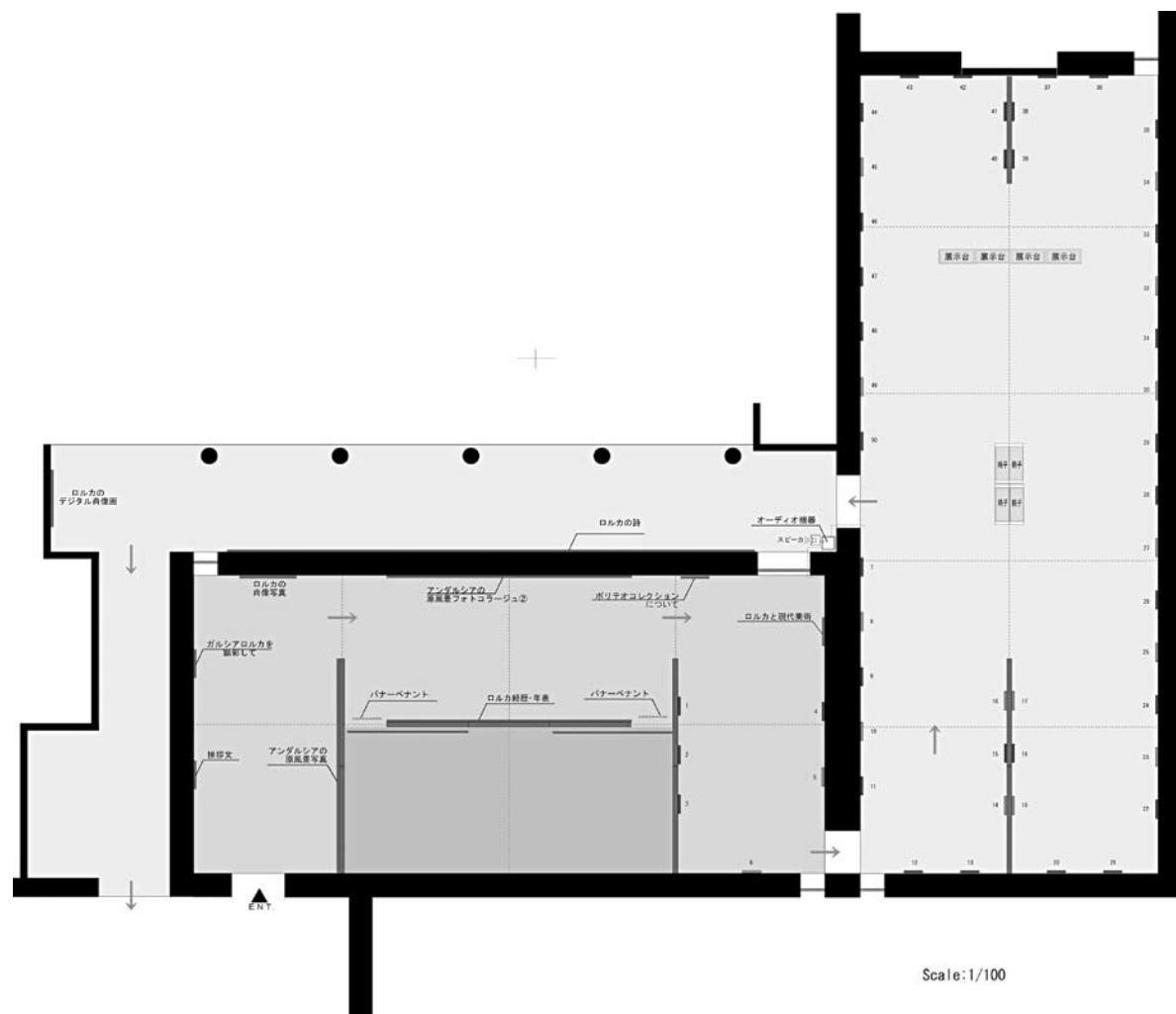
日 時：2008年3月17日（月）13:00～17:30

訪問先：仲井眞弘多（沖縄県知事）

與儀弘子（那覇市副市長）

平良哲（財沖縄観光コンベンションビューロー会長）

【展示配置図】



V. 教育・イベント活動（自主活動）

1. 博物館・美術館開館プレイベント

【『島クトゥバで語る戦世』と若手作家スライドショー】

日 時：2007年9月1日（土）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：文化の杜共同企業体が開館プレ企画として実施した。「琉球弧を記録する会」が記録した島クトゥバによる映像と若手作家である根間智子氏、大屋玲奈氏、仲宗根香織氏、新垣一也氏、山城知佳子氏によるスライドショーを行った。

参加者：200名

2. 美術館開館記念展関連イベント

【「緊急パフォーマンス 11/1プロジェクト】

日 時：2007年11月1日（木）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 エントランスホール、館入口広場

内 容：沖縄県立博物館・美術館の開館にあわせ、アーティストの照屋勇賢氏や大山健治氏らが企画し、文化の杜が実施をサポートした。小禄高等学校のマーチングバンドや保育園児らを先頭にアーティストが作品を持って集まつてくるというパフォーマンスを行った。県内のアーティストや学生などが参加した。

参加者：150名

【「キュレーター奮闘記】

日 時：2007年11月18日（日）16:00～

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講 師：翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）

内 容：美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡」を担当した翁長直樹学芸員に企画趣旨や展覧会の裏話などを話してもらった。

参加者：70数名

【アーティスト・トーク】

日 時：2008年1月14日（月）、26日（土）、27日（日）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 企画展示室

講 師：粟国久直（1/14）、真喜志勉（1/26）、山城知佳子（1/27）

内 容：美術館開館記念展で作品が紹介されたアーティストが、自身の作品を前に作品を語る「アーティスト・トーク」を美術館の協力を得て開催した。参観者がアーティストを囲み、作品が制作された時代背景、作者の思い等に熱心に耳を傾け作品への造詣を深めた。

参加者：各回10数名

【アーティスト・トーク&座談会】

日 時：2008年2月22日（金）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室

講 師：大山健治、仲里安広、比嘉豊光、山城知佳子、阪田清子（以上展覧会出品者）

翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 美術館学芸員）

内 容：美術館開館記念展に作品が紹介されている大山健治氏と仲里安広氏がそれぞれ自身の作品を前に解説を行った。その後、美術館講座室で翁長直樹学芸員が進行役となり、同展への出品者である比嘉豊光氏、山城知佳子氏、阪田清子氏を加え今回の開館記念展や作品について意見を述べた。

参加者：20数名

3. ワークショップ

【クリスマスカードをつくっちゃおう！】

日 時：2007年12月1日（土）、22日（土）
 場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館アトリエ
 講 師：アリカワコウヘイ（12/1）、仲本恭子（12/22）
 製作者：画家、ミュージシャン、デザイナー他
 内 容：クリスマスに関連して親子で参加できるカードづくりのワークショップを開催した。また、県内のアーティストに呼び掛けてオリジナルのクリスマスカードを作成してもらい、エントランスに展示し、来館者のみなさまにもクリスマスの雰囲気を味わってもらつた。
 参加者：24名（12/1）、20名（12/22）、
 41名（エントランス展示参加アーティスト）



創作の様子

【Thank you cardづくり】

日 時：2008年3月9日（日）14：00～15：30
 場 所：沖縄県立博物館・美術館 県民アトリエ
 講 師：アリカワコウヘイ（12/1）、仲本恭子（12/22）
 参加者：16名
 内 容：ゴールデンウィークに行うワークショップ「絵手紙うちわづくり」のプレ企画として「サンキューの日（3月9日）」に実施した。親子連れから年配者まで幅広い年齢層が参加し、わきあいあいとした雰囲気の中思い思いに感謝の気持ちを込めてハガキ大の用紙で絵手紙づくりを楽しんだ。ワラビー（沖縄タイムス日曜紙面）の取材があり、3月16日付朝刊に載った。

4. 上映会

【映画「不都合な真実」上映会&セミナー】

日 時：2007年12月11日（火）14：00～／18：00～
 場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
 参加者：延400名
 内 容：「不都合な真実」の上映会などを地球温暖化防止月間における普及啓発活動の一環として実施した。

5. おもろ夜会

【「絵画との対話】

日 時：2008年2月9日（土）
 場 所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
 朗 読：川満信一（詩人）
 参加者：40名
 内 容：詩人の川満信一氏を招き、絵画にまつわる詩の朗読をとおして絵画と詩を味わつた。画家や作家、文学関係者なども駆けつけ、詩を題材に美術を楽しんだ。



会場の様子

6. エントランスコンサート

【「フルート&ギターデュオ】

日 時：2008年2月3日（日）
 場 所：沖縄県立博物館・美術館 エントランスホール
 奏 者：渡久地圭（フルート）、佐野周作（ギター）
 内 容：フルート奏者の渡久地圭氏とギター奏者の佐野周作氏による演奏をエントランスホールで3回開催した。各回とも多くの来館者が足を止め聴き入っていた。

【「グンデルサンシントリオ】

日 時：2008年2月24日（日）
場 所：沖縄県立博物館・美術館エントランスホール
奏 者：亀島良泉（グンデル）、コウサカワタル（三線）、
坂元健吾（ベース）
内 容：ミニコンサート



会場の様子
(グンデルサンシントリオ)

VI. 広報・交流事業

1. 広報事業

【10月】

館の許可を得て4日、県内のバスやタクシー等の輸送業者や旅行社の観光業者の計20社を集め、開館に向けた事前説明会を開催。「沖縄文化の殿堂」「新名所」誕生をアピールし、スムーズな誘客・集客PRに努めた。説明会の様子は、新聞やラジオ・テレビ各社を呼んで報道してもらい、県民に開館が近いことをアピールした。

館で働くスタッフの研修会を22日に開催するにあたって、報道各社に研修をPR。開館に向け、接遇研修等が行われている様子を取材・報道してもらい、県民に受け入れ態勢が整っていることをアピールした。

開館3日前の27日、博物館・美術館の支援団体等に呼びかけて、館の外周を清掃。那覇市民や買い物客らに、開館直前を強くアピール。新聞報道してもらった。

【11・12月】

開館告知の横断幕（2枚）博物館・美術館前の花風橋に掲示

「ちゅらナビ」JAL機内誌（広告）60万部

「那覇市民便利帳」（広告）那覇市内全世帯

「YASA」クーポン付沖縄詳細マップ（広告）12万部

「人類の旅」及び「沖縄文化の軌跡」チラシ増刷各30,000枚

「開館告知」チラシ一部改訂20,000枚

来館者10万人達成記念イベント（12/24、午後2時頃、10万人目の来館者＝西田ありすさん（7歳））

旅行社とクーポン契約（JTB、沖縄ツーリスト、日本旅行社、トップツアーア）

※そのほか、指定管理者の構成団体が県の広報事業を受託して展開したほか、県の準備したチラシやポスターなどを配布するなど、開館を多方面からPRした。

【1月】

新聞広告（全五段・フルカラー、1/11（金）朝刊・琉球新報、沖縄タイムス掲載。1/18（金）朝刊・沖縄タイムス掲載）

旅行社とのクーポン契約（近畿ツーリスト）

企業共済会との団体契約（パレット共済会）

県内マスコミへの週間リリースの発信（毎週）

沖縄タイムス（情報・案内面）に「沖縄県立博物館・美術館情報」を掲載

【2月】

県外修学旅行誘致活動（2/6（水）に静岡県静岡市において開催された「静岡地区修学旅行説明会（沖縄観光コンベンションビューロー主催）」に参加し、県外修学旅行誘致活動を行った。静岡県内の中学・高校、旅行者より90名が参加）

県内企業へ案内状の送付（県内の企業約140社に館内の貸し施設の案内資料と、施設の観覧利用の案内状を送付）

【3月】

美術館の企画展、コレクション展に関連した広報

全館パンフレットの送付（これまで要望の強かった全館パンフレットは県の方で作成した。要望のあった県内ホ

テル、県内外の公的機関などへ郵送した)

那覇空港内の電照看板の作成（1年間掲出予定）。施設案内パンフレットを置いている。

モノレール内の車内広告の作成（4/14からスタート。6カ月間広告の予定）

「沖縄年金基金だより」の表紙に告知ページを掲載（1年間予定）

貸し施設の案内パンフレットの作成

※その他、定期的なマスコミへのニュースリリースなどを実施しているほか、イベントごとの告知、取材依頼なども行った。

2. 地域イベントへの参加

文化の杜は、博物館・美術館の管理運営にあたり地域との連携を積極的に推進している。特に県立博物館・美術館のある那覇市新都心地区は、新しく開発されている地域でもあり、文化の杜は文化のまちづくりを目指して、地域活動も積極的に支援している。

2007年11月17日（土）、18日（日）には新都心通り会を中心に「第1回 新都心まつり」が新都心中央公園を中心開催された。文化の杜スタッフは事務局を担い、祭りを全面的にサポートするとともに、地域に根差す博物館・美術館を強く印象づけた。

VII. 調査・研究等の活動

1. 調査・研究等

【恐竜展関連打ち合わせ調査】

期 間：2007年12月20日（木）～22日（土）

調査者：後田多敦、屋良朝秀

内 容：群馬県立自然史博物館、神奈川県立生命の星地球博物館、長崎歴史文化博物館の各館を訪問し、恐竜の展示や保管状況などを確認した。

【嘉手川繁夫作品調査】

期 日：2007年12月21日（木）

調査者：後田多敦

内 容：埼玉県飯能市の画家嘉手川繁夫氏のアトリエ兼自宅を訪問し作品の確認を行う。

【山田真山作品写真調査、大嶺政敏アトリエ調査】

期 間：2007年12月21日（木）～23日（日）

調査者：土江真樹子

内 容：山田真山の作品写真の保存状況などについての確認と大嶺政敏作品の残存状況を調査した。

【美術館における教育活動の調査・視察】

期 間：2008年3月5日（水）～6日（木）

調査者：町田恵美

内 容：東京都現代美術館と国立近代美術館における展示解説やギャラリートークなどに参加し、教育普及担当学芸員などから実際にについて聞き取り調査を行った。

2. 著作論文等

後田多 敦

○「幸地朝常（向徳宏）の渡清事件－史料『木梨上申書』を通して－」『日本歴史』
2007年9月号

○「亀川党・黒党・黒頑派－琉球併合に抗する思想と行動－」『歴史評論』第692号
2007年12月

開館に向けた活動

- I . 博物館新館開館に向けた活動
- II . 美術館開館に向けた活動
- III . 開館記念式典
- IV . 博物館・美術館の
開館準備について

I. 博物館新館開館に向けた活動

1. 概要

【展示監修会議について】

博物館新館の常設総合展示については、当館の各学芸員が文化施設建設室博物館班で所管する沖縄県立博物館新館展示監修委員会の委員で構成される分野別調整会議で、展示の構成や展開などについて検討を進めていった。

分野別調整会議は、下記に示すように、各分野ごとに1～4回程度開催された。本年度は展示工事が最終時期であったことから、分野別会議は分野により開催回数にばらつきがあった。この会議には、担当学芸員と学芸課長が出席した。分野別会議では部門展示に関する内容も含む。本年度は展示工事の最終年度であり、各展示内容や仕上げの最終確認が主な議題となった。

2007年度（平成19）展示監修委員会は、開館前の2007年10月27日に開催し、常設総合及び部門展示の内覧を兼ねながら、展示内容の最終確認をおこなった。2003年度（平成15）から総計すると、監修会議や分野別会議は延べ130回を数える。

- 自然史 2007年5月29日、6月1日、7月27日、9月12日
- 考古学 2007年5月23日、7月19日、9月27日
- 歴史 2007年5月25日、6月1日
- 民俗 2007年5月14日
- 教育普及 2007年5月9日

また、こうした会議以外に、担当学芸員と各監修委員との個別調整会議は頻繁に行われるとともに、委託業者である㈱トータルメディア開発研究所の各担当職員とも随時、開館前のぎりぎりまで展示工事仕上げや列品作業にともなう調整が重ねられた。

【展示関連業務について】

2007年度（平成19）は各分野における展示構成要素の確定作業や造作物の具体的検討、展示資料の展示にかかる演示具仕様確定、AVコンテンツにかかる映像素材の確認や音声原稿・テロップなどの校正作業、展示グラフィック・映像等の写真依頼や入手作業、展示グラフィックやPCコンテンツ等の校正作業、ならびに約3,000点の展示資料にかかるキャプションの作成作業をおこなった。

また、「シマの自然とくらし」のコーナーでは映像の説明に地元出身の方々に方言で解説をしていただくため、委託業者においてその録音取りの作業もおこなわれた。

さらに、新館展示の常設展示ガイドブック（図録）については掲載に必要な70件ほどの写真撮影を行うとともに、校正作業をおこない図録の制作をおこなった。

音声ガイドについては、音声解説原稿をもとにした視聴をおこないつつ、校正・点検作業をおこなった。また、博物館のオリエンテーションソフトの制作内容についても確認を行った。

このように最終年度は開館前の展示関連業務であったことから、多岐にわたる業務が集中した。

（萩尾 俊章）

2. 収蔵品移転事業

【事業概要】

沖縄県立博物館は2007年に那覇市おもろまちの新館へ移転し、同年秋に開館した。この移転に先立ち、首里の旧館では収蔵資料の全体量・サイズ・資料状態を把握し、各分野の資料に適した状態で梱包・移転を進めるための資料整理作業を実施した。本事業は、前身となる2003～2004年度に実施した、沖縄県緊急地域雇用創出特別事業「博物館新館移転資料整理事業」に取りまとめたデータを基礎として、2005～2007年度までの3ヵ年事業として各分野で下記の賃金職員を割り当て、収蔵資料の移転整理作業を実施した。

2007年は輸送業者に委託し資料の美術梱包を首里の旧博物館からおもろまちの博物館への移転、配架作業を行った。

【作業内容】

2006年度に専門業者が梱包した資料を首里の旧博物館からおもろまちの新館へ輸送した。輸送後は、開梱作業、資料の件数および不慮の事故により破損等の状態の確認を行った。こうした作業の後は所定の収蔵庫に資料を配架した。

【今後の作業】

本事業は2007年度の移転作業にともない全ての業務を終了した。今後は移転した資料を博物館資料として有效地に活用するための調査を含めた上での整備、資料の保存にとってより好ましい配架、整備・配架後のデータの入力などの作業を継続事業として続けていくことが望まれる。

【輸送委託業者】

琉球物流株式会社（代表取締役 大嶺秀宣 那覇市港町2-17-13）

【賃金職員】

自然史・地学：宮城 直樹
自然史・生物：藤堂 篤
考 古：鶴頭百合子
歴 史：崎間 彩子
民 俗：嵩原 康平
美 術 工 芸：井上 緑
図 書 整 理：名護 千晶

(平川 信幸)

3. 展示準備活動－総合展示－

博物館新館の常設総合展示は、「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」をメインテーマとし、通史を基軸にすえながら、展示を展開するものである。

2007年度は、常設総合展示室及び部門展示室の展示工事が最終的に8月で終わる予定だったことから、9月からは実質的な展示作業に突入した。

ただ、6月から8月にかけて、首里の旧館からの収蔵品移転作業が進められる並行して、展示室に設置される大型の展示物、例えば常設総合の旧円覚寺楼鐘や旧首里城正殿鐘、美術工芸部門展示の「徳高」扁額、民俗部門展示のサバニなどは移送作業と同時に展示室への設置作業をおこなった。

また、グラフィックパネルの搬入やレプリカで制作した資料の搬入・設置作業と並行しながら、実物資料の展示作業を進める状況にあった。

分野によっては、考古・歴史のように、展示資料に他館からの借用資料があるために、借用作業をおこないつつ、展示作業を進めることもあった。

最終的な作業において時間がかったのは各展示資料のキャプション制作であり、9月から10月にかけては展示作業とキャプション制作・展示が中心となっていました。

11月1日開館という最終リミットがあるために、こうした展示作業は日を追うごとに夜遅くまで残業することとなり、開館直前はほとんどの職員が深夜から午前の時間帯にまで及んだ。とくに常設総合が通史の展示であることから展示面積が広い歴史担当、また常設総合展示と部門展示の関連分野展示の総仕上げと開館記念展を兼務した担当者は、かなり業務が過重であったと思われる。

以上のような展示作業を10月31日までに完了し、開館の日を迎えることができた。

(萩尾 俊章)

4. 展示準備活動－部門展示－

【自然史部門展示－地学分野－】

太陽系の第三惑星「地球」には唯一液体としての「水=海」が存在し、地球は宇宙空間の中で閉鎖された一つのシステムを形成している。その中で私たち人類は、地球環境と生物との関わりの中で知的生命体として発達してきた。私たちが「いまここに存在しているということ」を考えるとき、地球上に生命が誕生してから続く、壮大な「命のリレー」を行っていることに感銘を受けずにはいられないであろう。

私たちは、果てしなく広大な宇宙について語ることや、地球誕生から現在に至るまでの歴史について語ることができる反面、環境問題をはじめ、資源・エネルギー問題など様々な問題を抱えている。

自然史分野では過去と現在の琉球列島を理解することで、私たちに残された自然環境を、未来へつなげる布石としている。

地学系展示では、沖縄の島々の成り立ちや生物相の形成について、採取された岩石・化石から、生物の進化や琉球列島のものがたりについての暗号を解読し、それらが辿った変遷について解説している。2007年度は、展示用としてカルカラドンやデスマスチルスの歯、バージェス動物群化石、ダイヤモンドと金を含む堆積岩、螢光鉱物

などを購入し、常設展示に活用した。

(知念 幸子)

【自然史部門展示－生物分野一】

琉球列島の生物は、温帯域である本土の他府県と異なるため、生物関係の展示はほとんどが今回の一連の展示工事で製作したオリジナルなものである。2005・2006年度は、琉球列島各地で資料調査（標本採集・写真およびビデオ撮影）を実施し、展示計画に基づく素材の収集に終始した。2007年度は、採集した標本からのレプリカ製作指導、撮影画像の整理、映像コンテンツの編集等、収集した素材の加工に加えて、文献調査・研究者から提供された情報などに基づき、最新の知見をふまえたグラフィックパネル原稿・情報検索パソコン用原稿・キャプション原稿の作成をおこなった。当館規模の博物館では生物担当一名体制は全国的にみて例外的に少ない。そのため、植物・昆虫・海洋生物関係の展示については、外部の研究者に協力を仰ぎ、多大な支援をいただいた。以下に展示のコンセプト、構成、についてまとめておく。

自然史（生物）部門は、琉球列島の特異な陸上生物相がどのようにして形作られたのかということを軸とした展示構成である。第一室では、特異な生きものたちが暮らしている代表的な自然をジオラマ展示した。沖縄島北部のイタジイ林、宮古島の石灰岩地帯林、西表島の低地林、マングローブ林の夏のようすを再現した。ジオラマでは自然の成り立ちを伝えることを重視したため、目立たないが、重要な働きをしている分解者（キノコ・ミミズ・シロアリなど）も展示するよう努めた。剥製やレプリカは、展示する生物が野外でどのようにしているのかということをふまえて配置したため見つけにくいものもあるが、生きものたちを探すという学習課題になるとを考えている。各ジオラマの傍には、タッチパネル（情報検索パソコン）で合計800種ほどの動植物やキノコ類を調べられるようにした。

第一室の壁面の大きな棚ケースは、「島嶼性」と「多様性」という切り口の展示で、「島嶼性」では、琉球列島が、小さな島々になったからこそ特異な動物たちの子孫が生き残ることができたということや、小さな島に適応した形態や暮らしぶりから、琉球列島を進化の実験場としてみることができる示した。一方、多様性のコーナーでは、分類群ごとに所狭しと配置された剥製やレプリカを見ることによって、琉球列島の動物の多様さを感じもらえるような展示を目指した。

第二室では、地理的分布と種分化というテーマのもと、琉球列島の生きものの分布の見方や、琉球列島に固有あるいは分布北限・南限というキーワードから動植物を検索できるコンテンツ（情報検索パソコン）を製作した。また、ハブ類をはじめとした島々に固有な生物の剥製やレプリカを、陸地の接続と分断というプロセスを経てどのように形づくられてきたのかということを、最新の研究成果に基づいて展示了。

陸上の生物相も、生物のさまざまな移動によってけつて静的なものではないとの認識のもと、いくつかのタイプの移動を取り上げたが、移動を一面的にとらえるのではなく、種の生活史との関わりや保全上の課題についても伝えるよう努めた。

展示を締めくくるコーナーとして、自然環境の保全の問題を取り上げた。世界的に注目されている琉球列島の自然が危機的状況にあることを伝え、今後の保全につながるような展開にした。特に、子供たちにこの問題を伝えるため、クイナくん、サンゴちゃん、イタ爺というキャラクターに沖縄の自然の現状と問題を語らせるビデオ映像を編集した。

自然環境が大切であるという意識は、自然と親しむことで培われる。そのため、展示の別枠として「自然観察コーナー」を設けた。このコーナーでは、身近なものもふくめて、いろいろな標本を手に取ることによって、自然観察への誘いになることを目的とした。また、このコーナーは、設置されている一つひとつの引き出しを独立した展示としてつくることができる、きわめて自由度の高い、大きなポテンシャルを持たせたスペースである。今後、館外の人たちにも呼びかけ、多様な展示をつくっていきたい。

(田中 智)

【自然史部門展示－人類分野一】

人類分野の展示としては、「人類の進化と拡散」と「沖縄の化石人類」というテーマで展示をもうけた。前者では、約700万年前のアフリカから始まる人類の進化史を、頭骨レプリカや復元模型によって展示している。後者では、1万8,000前の港川人や、3万2,000年前の山下町第一洞穴人をはじめ、離島を含む県内各地から発見された更新世人類化石すべての複製を展示している。

これらの展示にあたっては、港川人4体の全身骨格化石や県内の更新世人類化石すべての複製を新たに製作した。また、海外で続々と発見されている新たな人類祖先を含む、さまざまな初期人類化石頭骨レプリカ等を購入した。また、企業6社により寄贈された4体の古代人復元模型は、猿人（アファール猿人）、原人（北京原人）、旧人（ネアンデルタール人）、新人（港川人）という各進化段階における人類祖先の身体的特徴を、最新の学説に基づいて等身大で再現したものである。この模型は、新館開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の開催にあたって当館学芸員の指導によって製作されたものであり、開館記念展終了後より常設展に移動された。研究者が、物言わぬ化石からどのような情報を読み取り、どのような人類祖先の姿を思い描いているかを、来館者に具体的に伝えられる、貴重な展示資料である。

また、博物館では、人類学分野に関わる事業として共同研究事業を展開している。この事業では、港川人をはじ

めとする沖縄出土人類化石の研究や、新たな化石発見を目指した発掘調査を実施している。今後は、その成果を反映させた展示活動を展開していく予定である。

(藤田 祐樹)

【考古部門展示】

考古部門展示は「沖縄考古学の世界」と題し、時代・地域・テーマ別に資料を展示した。2007年度は以下の作業を行った。

- ・展示資料の借用：次の機関から資料を借用した。沖縄県立埋蔵文化財センター、宜野座村教育委員会、西原町教育委員会、那覇市教育委員会、南城市教育委員会、南風原町教育委員会、伊是名村教育委員会、粟国村教育委員会、宮古島市教育委員会、石垣市教育委員会、石垣市立八重山博物館、与那国町教育委員会
- ・複製品の製作：山下町第一洞穴の出土品、カヤウチバンタ遺跡採集の丸ノミ形石斧
- ・グラフィックパネルの製作：パネルに使用する写真の撮影・借用と、解説原稿の執筆。
- ・展示資料の列品



考古部門展示室

(羽方 誠)

【美術工芸部門展示】

部門展示は年に3回から4回のテーマ展示による展示替えを行う予定になっている。新館へ移転する2005年度に実験的にテーマ展示による展示替えを行い、監修委員や来館者の意見を聴取し反応を確認した。新館開館後はこうした意見などを踏まえて展示のテーマや展示する資料の再構成を行った。

なお、美術工芸分野は総合展示の「古琉球の歴史的文物」「近世琉球の文化」「民衆の暮らし（貢布）」「位階と装束」「戦災文化財」などとも関わりを持ち、これらのテーマにおける資料の配置計画やキャプションの作成などを行った。「位階と装束」では衣装復元に必要な織、染、縫それぞれの専門の先生を招き博物館が収蔵する実物資料をもとに調査を行った。

(平川 信幸)

【歴史部門展示】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定した。このなかで、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

2007年11月の博物館開館時には、「那覇港～往来する人とモノ～」と題する展示を行う。琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に取り上げ、3つのテーマに分けて紹介する。「1、王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2、往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き來した様々な人やモノを紹介する。「3、那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々のすがたを展示する。

2007年度は、前年度に引き続き、総合展示の調整や作成を行いながら、部門展示の作業を行った。展示構成は前年度までにはほとんど決まっていたので、特に演示具の調整やグラフィックの作成、資料の展示が中心だった。演示具では、琉球王国時代に行われた那覇港とその周辺の大規模な工事について記された「新濱那覇江碑文」の調整と設置を行った。展示台は、石碑に刻まれた文字が見えやすいように斜台として、底面にキャスターを付けた台上に調整した。台への展示は、石碑の形に合わせた斜面のくぼみにはめ込み、隙間には緩衝材を挟み込んで石碑に負担のかからないよう工夫した。その他、両面に文字が書かれたヤマモモの荷札の展示には、アクリルと鏡面を利用した台を使用した。グラフィックの作成では、テーマの解説文、個々の展示資料キャプション、図版のグラフィック、戦前の那覇に関わる写真グラフィックを作成した。この写真グラフィックは、明治時代から昭和初期にかけての那覇や港、船、市場、久米村、遊郭の写真をバインダーに綴っている。展示作業は、総合展示と並行して行ったが、無事に開館を迎えることができた。

(稻福 恭子)



新瀬那霸江碑文の設置作業



歴史部門展示室（完成後）

【民俗部門展示】

2007年度は、展示については資料（復元資料を含む）の展示室への設置、収蔵資料の移転作業については前年度に梱包した資料の新館への搬入を行った。

展示については開館に向けて展示資料とキャプションの設置作業を中心に行つた。また、2006年度に調査・制作し復元した進貢船模型と高級神女の復元装束の搬入・設置作業も行った（前年度の記述も参照）。

旧館からの収蔵資料の移転作業は、約6,000点を数える民俗資料の中でも大型資料と厨子甕（蔵骨器）が労力と日数を費やした。大型資料ではサバニ（刳り舟）が非常に長い船体のため旧館からの移転で非常に苦労したが、無事に部門展示室に設置ができた。厨子甕についてはその重さに加え点数も相当数あることから、移転の日数がかかったこと、新館における収蔵場所の確保などで非常に苦労をした。これらの中には、旧館では屋外にて収蔵していた資料もあったことから非常に汚れているものもあるため、今後は洗浄などを行う必要がある。

今回開館した新館での民俗部門展示は、従来の鑑賞を中心とした展示構成を改め、「触る・聞く・探す・調べる」といった参加体験型の要素を取り入れ、観覧者が気軽に展示を楽しめるように工夫している。旧館では展示を替えるということはほとんどなかったが、新館での展示室の中にある「諸職のワザ」のコーナーはミニ企画展示の場として位置づけ、年数回の展示替えを行う予定である。

（久場 政彦）

5. 展示準備活動－ふれあい体験室－

ふれあい体験室は、「自然のしくみ」「先人の知恵」をテーマに、ハンズオン展示を主体として県内で初めて博物館常設展示の一室として設けられた教育普及活動の拠点施設である。

ふれあい体験室に並ぶ27種類の体験キットは、ハンズオン展示を基本とし、常設展示資料と関連させながら、見る・触る・嗅ぐ・聞くといった人間の感覚を使って体験できるものとして制作した。また、五感で体験するだけでなく、体験キットで遊ぶことで、発見や疑問、関心、または感動が得られるように、さらに、遊ぶこと＝学ぶこと＝楽しいことを通して、沖縄の歴史や文化に興味、関心が湧くように工夫を凝らした。

2006年度から学芸員と常設展示を補えるキットの構想を練り、研究者や大学、地域の子供会、工芸技術者、ボランティア等の協力を得ながら取りかかっていた。

沖縄県立芸術大学の学生も実技科目授業の一環としてキット制作に参加し、6つのキットを担当した。学生の制作したキットは、5回の全体チェックを行なながら試作品の段階で近隣の小学校、幼稚園で2度モニタリングを行う中で改良を加え、本作製の段階で制作業者に引き継いだ。また、県内子供会から各地の砂採集の協力、染織・紅型関係者からは、反物や着物の寄贈があった。寄贈された反物を着物へと縫製する方々もボランティアで参加し、博物館資料を実際に見ながら時間をかけて学習しながら、よりアリティを求めて作り上げている。

開館後は、沖縄の情報満載の展示室へ、またはフィールドへと促す体験キットの制作、来館者対応を、調査・研究活動をしていく予定である。

（赤嶺 敏）

II. 美術館開館に向けた活動

1. 開館までの美術品の収集

これまで沖縄県には県立美術館がなかったことから、1996年度より基金を設置し、美術品収集が開始された。常設展示室にて展示される予定の、約900点の美術品の収集計画が策定され、沖縄、沖縄ゆかり、アジア（日本を含む）の美術作品が収集された。そのジャンルは平面（絵画・版画・写真・その他）、立体（彫刻・インスタレーション・その他）、映像（映画・ビデオ・その他）などである。2007年度は開館年であり、82点の作品が寄贈され、68点を購入した。

2. 展示アドバイザーミーティングについて

開館後の企画展示のための外部アドバイザーミーティングとして、学芸員の企画を外部の専門家に検討してもらうために設置した。計6回開催する。委員から早期の館長の就任要請があった。

3. 倉庫移転業務

収集した作品は、倉庫会社の仮倉庫と平和祈念資料館の倉庫に保管されており、主にその2か所からの移転と、一部旧博物館から資料類を移動した。

4. プレイメント

【企画展】

- 1995年 8月 沖縄近現代美術家展「沖縄戦後美術の流れ展」シリーズ1 モダニズムの系譜（浦添市美術館）
- 1996年10月 沖縄近現代美術家展「沖縄戦後美術の流れ展」シリーズ2 固有性へのこだわり（浦添市美術館）
- 2000年11月 「小橋川秀男展」（那覇市民ギャラリー、本部町役場ギャラリー）
- 2002年 7月 写真展「東松照明展」（浦添市美術館）、同時開催「フォトネシア展」（那覇市民ギャラリー）
- 2002年10月 沖縄文化祭「展覧会」（コンベンションセンター）
- 2004年 4月 横浜美術館巡回展「中平卓馬展」
- 2007年11月 沖縄県立博物館・美術館開館記念展「沖縄文化の軌跡1872-2007」

【収蔵品展】

- 1998年 8月 リウボウホール（那覇市）
- 1998年11月 ふれあいプラザがじゅまる館（名護市）
- 1999年9月～10月 沖縄県公文書館（南風原町）
 - 10月 平良市中央公民館2階（宮古平良市）
 - 11月 石垣市公設市場2階会議室（石垣市）
 - 11月 宜野湾市立体育館（宜野湾市）
- 2000年12月 那覇市民ギャラリー（那覇市）
- 2001年 8月 ギャラリーめぐり収蔵品展（県庁県民ホール、画廊サロン・ド・ミツ、画廊沖縄ほか）
 - 10月 名護移動展名護博物館ギャラリー（名護市）
- 2002年 3月 県立中部病院1階ロビー（具志川市）
 - 9月 伊江村農業改善センターホール（伊江村）
 - 10月 文化祭「展覧会」（コンベンションセンター第1会議棟：宜野湾市）
 - 12月 「ニシムイ 名渡山愛順と安谷屋正義の戦後」（県立芸術大学附属図書・芸術資料館：那覇市）
- 2003年 1月 沖縄タイムス1階ロビー（那覇市）
 - 1月 久米島自然文化センター（久米島町）
 - 7月 那覇市民ギャラリー（那覇市）
- 2004年10月 リウボウホール（那覇市）
- 2006年 1月 リウボウホール（那覇市）
 - 10月 那覇市民ギャラリー（那覇市）

【講演会・ワークショップ・シンポジウム】

- 1995年 8月 「土曜フォーラム 検証—沖縄モダニズムの系譜」3回開催 浦添市美術館ロビー
- 1996年10月 「土曜フォーラム 検証固有性とは」3回開催
- 1996年11月 「講演会—収集について—」
 - 講師：勅使河原純（世田谷市美術館学芸課長）、安永幸一（福岡市美術館副館長）県庁ホール
 - (翁長 直樹)

III. 開館記念式典

博物館・美術館の開館記念式典は11月1日（木）に関係者を招待し、盛大に執り行われた。式典は文化施設建設室開館支援グループが中心となり、式典の準備をとりまとめた。

式典の次第は掲載のとおりである。開館式典の会場はエントランスホールで設営し、座席数の制約もあり、来賓・招待者は約250名であった。

式典の主要な業務は委託によっておこなった。案内状の発送、式典プログラム作成、司会進行及び管理、祝賀会などにあたった。式典に花を添えるため、那覇高校吹奏楽部ならびに那覇太鼓の皆さんに、ファンファーレや太鼓の演舞について協力していただいた。

テープカットの後、式典招待者の内覧会を実施した。出席者が約250名ということで、5グループに分けて、博物館常設展示室、博物館企画・特別展示室、美術館企画ギャラリー、美術館コレクションギャラリー、県民ギャラリーについて各々順路を設定し、案内した。展示室の案内誘導にあたってはボランティアの協力を得た。

祝賀会は午後に会場を移してホテル・ナハテラスでおこなった。

当日は県教育庁の各課を中心に、人的な応援体制を組み、総務や進行管理、会場設営、来賓案内・誘導、受付及び記念品配布、駐車場・救護対応などにあたった。また、開館初日ということもあり、多くの来館者が予想されたことから、サンエーメインプレイスの駐車場についても協力をしていただいた。

(萩尾 俊章)

開館記念式典次第

日時：平成19年11月1日（木）

場所：那覇市おもろまち3丁目1番1号

1 式典 10:00～10:40 エントランスホール 来賓約250名

(1) 開会のことば 沖縄県教育委員会委員長 中山 熱

(2) 式辞 沖縄県知事 仲井眞 弘多

(3) 事業経過報告 沖縄県教育委員会教育長 仲村 守和

(4) 来賓祝辞 内閣府審議官 東 良信

文化庁長官（文化庁文化財部文化財監査官 亀井伸雄）

県議会議長 仲里 利信

(5) 祝電披露

(6) 閉式のことば 沖縄県立博物館・美術館館長 牧野 浩隆

2 テープカット 11:00～11:10 駐車場（入り口正面）

沖縄県知事 仲井眞 弘多

内閣府審議官 東 良信

文化庁長官（文化庁文化財部文化財監査官 亀井伸雄）

沖縄県教育委員会委員長 中山 熱

沖縄県教育委員会教育長 仲村 守和

沖縄県立博物館・美術館館長 牧野 浩隆

沖縄県議会議長 仲里 利信

那覇市長 翁長 雄志

銘苅小学校児童代表 大盛 志門

安岡中学校生徒代表 上原 幹司

那覇国際高等学校生徒代表 上原 美香

ファンファーレ（那覇高校吹奏楽部）

3 来賓入場 11:10～ ※招待者は12:30に祝賀会へ移動

4 一般公開 13:00～ ※12:30から那覇太鼓演舞

5 祝賀会 13:00～14:00 ※会場：ホテルナハテラス

(1) 開会のことば 沖縄県教育委員会教育長 仲村 守和

(2) かぎやで風（踊り2名、三線2名、太鼓1名、琴1名）

(3) あいさつ 沖縄県知事 仲井眞 弘多

(4) 来賓祝辞 内閣府沖縄総合事務局長（次長） 影山 洋一

(5) 乾杯 那覇市長 翁長 雄志

(6) 太鼓ばやし（踊り8名、三線2名、太鼓1名、琴1名）

(7) 閉会のことば 沖縄県立博物館・美術館館長 牧野 浩隆

※式典参加者への記念品は両館図録の予定（各300部）

※一般公開の待ち時間の演奏（那覇太鼓）

IV. 博物館・美術館の開館準備について

1. 博物館新館建設事業の経緯

博物館新館建設事業の本格的な取り組みは、1990年度（平成2）の「沖縄県立博物館基本構想」の報告を嚆矢とし、1993年度（平成5）の「沖縄県立博物館新館建設基本計画」、1995年度（平成7）の「沖縄県立博物館新館展示計画」の報告によって、建物や機能、展示構成の基本的な方向性が確定された。1995年（平成7）には、これまで個別に業務を行ってきた博物館と美術館の施設を一体化した施設づくりの作業が行われ、1996年度（平成8）に「沖縄県立現代美術館（仮称）・博物館新館公開設計競技」が行われた。その結果、建物はグスクをイメージした作品が最優秀に決まった。1997年（平成9）3月にはこれら建物と展示の整合性を図った「沖縄県立博物館新館展示基本設計（設計説明書）」がまとめられたが、それ以降丸5ヶ年間、県財政状況の悪化により中断されることになった。

この事業の再開の決断は、旧博物館（首里在）の天井等のコンクリート塊の落下など度重なる深刻な老朽化、年々増え続け8万件に上る収蔵資料増加に伴い、足の踏み場のない収蔵庫の狭隘化の抜本的解消、さらに都道府県立美術館をもたない唯一の県という不名誉からの脱出、そして何よりもその建設を求める県民悲願の実現にあった。また、2002年（平成14）が復帰30周年という節目に当たることも幸いし、復帰30周年記念事業の目玉にし、県政の主要施策に位置づけることにより、巨額の予算支出を行うことができたことによる。さらに、国の高率補助事業を研究する中で、地域総合整備事業債を活用することができ、財政的な根拠を得ることができたことも幸いした。それは建設経費の最高5.5%程度の額が地方交付税として償還されることが見込まれるもので、県財政の負担軽減を図る上で極めて有効な補助制度であった。その適用を受けるための条件として、2003年度（平成15）中に建設用地の確保と、建物・展示の実施設計書を完成させることが求められた。それでも当初計画の全体経費400億からおよそ半分の財政的負担が許容の範囲とされた。

この業務の遂行のために文化振興課内に文化施設建設班が2002年（平成14）10月から設置された。この班は、美術館建設業務を担当する文化振興課職員に加え、土木建築部と博物館から集められた兼任・併任職員で構成され、予算圧縮による建物を縮小する作業が手始めに行われ、12月補正予算を得て、本格的に建築基本設計の見直し作業が始まり、翌年から博物館新館・美術館建設事業が本格的に推進されることになった。

2. 事業推進体制

2003年（平成15）4月1日からは、このプロジェクトの推進本部として、教育庁内に文化施設建設室が臨時組織として立ち上げられ、建物及び展示工事が本格的に推進されることになった。文化施設建設室は次長クラスの室長を筆頭に、総括副参事職1名、（のちに条例規則や指定管理業務に関わる協定書等整備担当副参事1名追加）、総務班（4名）、建設班（4名）、博物館班（3名）、美術班（4名）の4つの班で構成され、美術班の臨時及び嘱託職員3名を加えた20名体制で組織された（表1参照）。

博物館常設展示の展示工事を総括する班が博物館班で、班長の主幹を筆頭に博物館に勤務していた学芸員2名が異動し対応した。その主たる業務は、現博物館や建築・展示業者との調整、総括業務をはじめ、展示監修委員会の運営、備品購入調整等であった。一方、博物館では学芸課長を中心とする学芸課の自然史3名、考古1名、美術工芸1名、歴史1名、民俗1名、教育普及課長他3名の普及担当職員の総勢12名が奮闘した（表2参照）。調整のための様々な会議は、文化施設建設室の博物館班学芸担当が博物館へ出向き、学芸課長の議事進行のもと全学芸員出席のもとで様々な検討事項が決定された。その事項とは、まず建築的な展示室や収蔵庫などの各諸室の大きさや位置関係をはじめ、展示工事における展示ストーリーの構成や模型、複製品などの製作仕様の資料を中心に常設展示の総体や些細な備品購入にいたるまで、大小様々な事項が検討、協議された。

3. 展示実施設計

展示基本設計では展示づくりで7つの方針をたてた。すなわち、「発見から学習へ喚起する展示」、「感興・体感展示の導入」、「知的欲求に応えた深化する展示」、「時代に呼応した進化する展示」、「マルチメディアを融合した展示」、「フィールド実体験に誘う展示」、「役割、位置づけを明確にした展示諸施設」である。それらを踏まえ、その方針の実現に向けて、実施設計の課題と個別具体的な設計方針を、施設配置計画、展示計画、資料・情報、事業・運営の4つの視点から設計与件としてまとめた。

1つ目に施設配置計画である。展示基本設計では、総合展示と部門展示は1階と2階による2層構成になっていたが、2002年度の建物見直し作業によって、博物館常設展示室は1階のみが充てられることとなった。そのため、二層式の展示構成の基本設計は変更を余儀なくされた。つまり、総合展示と部門展示室の一体化による諸室配置・動線計画の見直し作業が求められることとなった。そこで実施設計における設計課題では、総合展示を中心と

して、周囲に隣接して部門展示室を配置し、総合展示と部門展示の機能を明快にするため、総合展示をオープンな空間として位置づけ、各部門展示に独立性を持たせる配置とした。また、総合展示は空間全体が見渡せる自由動線を基本においていた配置とし、総合展示の観覧動線を示し、部門展示室との区分を明確にする基幹動線を設けることにした。

2つ目の展示計画においては、総合展示と部門展示の関係性を考慮し、総合展示をストーリー構成する与件を呈示し、大まかな時間軸を総合展示のストーリー構成の基本に据え、各部門展示が総合展示のストーリーと穏やかな関係を持つように部門諸室を配置することとした。総合展示の総覽から部門展示の詳細展示へと来館者を導くことができること、部門展示の専門的な内容を、改めて総合展示の中で確認し、理解することができたり、来館者自らが新たな発見をしたり、資料と資料の関係性を発見できるポテンシャルを持った展示を開展することを目標とした。

3番目の資料・情報の視点からは、「物をして語らしめる」という展示の大原則に基づき、博物館の収蔵資料を最大活用することに加え、実物資料からストーリーを構成する、模型、複製品、映像・情報ソフトのいわゆる補完資料の充実を期すことであった。主役が実物資料であれば、非実物資料の充実した脇役陣によって、主役の重要性や資料の意味性の広がりと深さを開展することができる。そのための設計課題は、展示表現の自由度を持ったスペースと汎用性の高いケースをバランスよく配置すること、可能な限り多くの実物資料の展示を実現するため、部門諸室の面積配分や、従来の常設展示で弱かった近現代を中心とする総合展示のテーマ構成の最適化を図ること、実物資料の背景や意味性を的確に興味深く伝達するための補完資料として、模型・複製品をはじめ、実物資料が内包する事象を伝え、展示ストーリーの繋ぎ、補完ツールとしての映像あるいは情報コンテンツを効果的に活用することにした。

4番目の事業・運営の視点からは、常設展示の宿命であるマンネリ展示を開拓するための展示資料や情報の更新性、バリアフリーの確保、管理運営上のランニングコストの低減を目標に資料・情報の更新を容易にし、かつ収蔵資料のマネージメントを効率的に行うために、情報システムと収蔵資料データベースを構築すること。システムの運用やデータの更新、運営後に必要となるデータの書き換えなど館員が簡単に操作できる容易性を設計の基本とすること、設備や機器の保守管理等ランニングコストに必要以上の負荷をかけないような展示演出を行うこと。また、動線計画や展示具デザイン、解説計画等においてバリアフリーを念頭に置いた設計を行うことにした。

以上の4つの方針に基づきながら、展示設計を行う作業と並行しながら、常設展示室以外の建物の諸室設置とその面積を確定する建築に関わる実施設計を行った。博物館の諸室の機能を拡充する考え方や新設の美術館の機能を確保する諸室配分調整作業は難航した。博物館現場を含め、文化施設建設室内においても議論を重ね、ひとつひとつの部屋の設置目的と機能を確保することのできる部屋の大きさを確定する作業は難渋し、延べ26回余の設計図面の差し替えを行い、決定してきた経緯がある。その結果、博物館の最も大きな面積を占有する博物館常設展示室は2,596m²をあてることができた。その内訳は総合展示室が1,252m²と部門展示室が1,344m²（自然史部門360m²、考古部門263m²、美術工芸部門180m²、歴史部門120m²、民俗部門421m²）であった。また5つの部門展示室の配置は総合展示を取り囲むように自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗と反時計回りに配置する順序を確定した。また屋外展示は1,425m²の展示場の中に、高倉、民家、湧田窯展示棟、植生展示等を配置することにした。

4. 建物工事

予算規模の圧縮の作業の中、建物基本設計の見直し作業では、各諸室の役割の再確認と面積の確定作業から始まった。大きくは博物館と美術館の面積比率、展示室や収蔵庫面積の確認などであった。図面を書いては、建築積算作業をし、予定総額からはみ出たら再度面積を調整する作業を何度も繰り返し行い、県内業者によって建物の施工が行われた。建設工事のうち建築部分では3工区に分けて施工された。1工区が博物館エリア、2工区が共通エリア、3工区が美術館エリアである。その他の工事は電気工事3工区、空調工事4工区、衛生工事1工区、昇降機工事2工区、外構工事2工区でそれぞれ施工された。建設工事に関しては、2004年（平成16）10月から開始され、建物工事の総額は設計ベースで、113億円1千5百万円の建設に係わる総工費（外構工事までを含む）が積算された。2006年（平成18）11月に建物は竣工し、外構工事は翌年3月に完成した。設計監理業務は設計者自身が行った。

5. 展示工事

当館の展示工事は、14の工種でまとめられる。表5では、展示工事の設計ベースの工事経費内訳の割合を示し、以下にその工種ごとの概要について述べる。

総合仮設費とは、仮設動力光熱費、現場経費、仮設運搬費などの経費である。最も割合率が高い展示造作・展示具の工種では、常設展示室、情報センター、ふれあい体験室の造作工事をはじめ展示ステージ、演示具、展示台、壁及び置型ケースの製作に加え、企画・特別展示室の演示具、展示ケースが含まれた。この工種では、建物建設側

からコンクリート壁面丸出しの躯体状態で引き渡された後、天井、壁、床の順に建築的な造作工事が行われた。また壁の造作工事の中には、壁ケースによって総合展示と部門展示を仕切る役割が与えられた。電気・照明の工種は、展示用の演出照明等を含めたケース内外の照明器具及び展示工事で担当した諸室の照明器具など約1,500灯の取付けに要した経費である。

映像・情報システムの工種は、「シマの自然とくらし」の検索システム及びデータベース、サークルホール映像、総合・部門展示の映像・情報機器システム、音声解説ガイドの機器及びソフト製作などを対象とした。施設全体マルチメディア（情報システム）の場合は、ネットワーク機器、サーバー、情報センター機器、券売機システム、収蔵資料データベース、博物館及び美術館のオリエンテーションソフト、館内LAN通線工事などが含まれる。この工種で一番難渋した作業は、収蔵資料データベースの整理作業であった。博物館収蔵資料は多様である。岩石・鉱物、化石、生物、古人骨、考古、美術工芸、民俗、教育普及の8つの分野別メニューを設定した。多様な分野の資料を画一的に論じることは不可能で、資料を特徴づける項目立てが必要である。それぞれの資料は、行政財産としての基本情報を共通項目として組み入れ、資料について意味性や価値づけなどを行うために、「名称」、「所見」、「受理次第」、「写真」、「保存状態」、「保管場所」、「管理情報」、「補修・修理」、「動画」、「音声」の大項目の下に、記入式の小項目がぶらさがってデータを作っている。また、美術館、管理運営のメニューも含まれる。戦後63年間に収蔵された資料全体をデータベース化したのは初めてであり、この情報の一部を情報センターで閲覧することもできる。またWEBで発信する仕組みも作った。8万件余の収蔵資料を資料カードと照合し、データベース作成にあたって、増やした項目を埋めるための作業は、気の遠くなる作業であった。2003年度（平成15）から緊急雇用事業として収蔵資料整理作業が措置され、延べ70名余の資料整理員の労力は事業の推進に不可欠であった（表3参照）。収蔵品及びそのデータ管理は、博物館の恒常的機能にとって常用の生命線である。

模型・ジオラマ、動植物標本の工種は、イノ一展示、自然史展示室のジオラマをはじめ琉球弧地理模型、古我地原貝塚模型、船舶模型、人形模型、料理関係、動植物模型などがある。複製品は、骨格標本、港川人骨、土器類などの考古関係資料、人骨化石など人類学資料、ノロの辞令書、屏風などの歴史資料、鍛冶屋道具資料など民俗資料と大小様々な資料が含まれる。この工種が展示工事の特性を最も現す工事のひとつといえる。一つ一つの展示資料の製作には多くの時間と手間と経費がかかる。資料調査に始まり、仕様調整、詳細設計図作成、製作、確認（校正）、完了、設置の作業プロセスがある。模型に係る製作資料の総件数は、イノ一、ヤンバルのジオラマや進貢船模型のような大規模なものから、サワガニやハマボッスなどの動植物標本類まで114件を数えた。また、複製品は125件を数えた。

ふれあい体験室資料教材とは、「ふれあい体験キット」27件の製作経費である。この体験キットとは、新館における教育普及活動の充実を期して新設した「ふれあい体験室」に装備した製作または実物資料の総称である。自然史、人類学、考古、美術工芸、歴史、民俗の6分野に係わるもので、原則触れる事を禁じる博物館資料を「ふれあう」ことを通して、より身近に感じてもらう主旨で創ったものである。キット製作の原案は、学芸員などに提案してもらったものをベースに展示業者や沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン専攻の教員や学生の協力をいただいた。キット製作で特筆されることは、博物館と大学の初コラボレーションである。芸大パブリックデザインの正規の授業テーマとしてキット製作を取り上げていただき、6グループによる6件のキットが製作された。

グラフィック経費とは、大テーマ、中テーマ、小テーマ、年表グラフィックパネル134枚をはじめ、解説や背景写真パネルを含む。その種類では総合展示で276枚、部門展示322枚（自然史106、考古53、美術工芸3、歴史31、民俗129）の延べ732枚を製作した。さらに注意サイン、動線案内サインなどの運営サイン330枚の製作及び設置費になる。ここで使用するビジュアル的資料の写真や図表、年表の借用申請、許諾協議は映像・コンテンツ類の使用の分を加えると約2千件に及んだ。また、これらすべての日本語原稿は、展示監修者の指導を得て学芸員が執筆した。さらに、3千点もの展示資料を解説する個別の説明札、いわゆる「キャプション」原稿も学芸員が執筆し、その作業量は甚大であった。

映像・情報ソフトの経費は、映像ソフト40（総合28、部門12）情報コンテンツ34（総合22、部門12）の企画・制作経費である。今回の常設展示の特徴のひとつである映像ソフト及び情報コンテンツは、展示資料の歴史的な価値や背景、資料そのものの広がりを示す上で、究めて有効なツールである。映像ソフトは物語仕立てで歴史を読み解いたもので、関連する实物等資料の場所に設置した。基本的にすべての映像は3分程度の長さに構成した。これら映像ソフト及び情報コンテンツは、タッチパネル式の17インチモニターで統一した。限られた実物資料や製作資料を有効に活用しながら、資料の意味や価値を饒舌に語った。そのためか、私たちが求めてきた「わかりやすい展示」、「体系的な展示」に近づくことができた。

屋外展示の経費は、高倉の移設修理、民家・湧田窯の建設、植栽などの経費である。特に湧田窯は、1986年（昭和61）に県庁行政棟の建設時に出土した貴重な資料である。この出土品のおかげで、県庁建設工事は緊急発掘調査のために1年間延びることになった。結局現地保存はあきらめ、2つの窯一部遺構の切り取りと記録保存に落ち着いたのだ。その窯を博物館は新館建築の際は展示の中で位置づける、と保管していたのだ。約30トンの土の塊を屋外展示場に設置するために、敷地の外構整備前に500トンクレーンで吊り上げて配置した。その後建物で覆い展示棟として完成させた。また、土の崩落を防ぐために展示工事とは別途に1千万円をかけて保存処理を行い、開館に間に合わせた。

共通備品は情報センター、ふれあい体験室、常設展示室のベンチなどを対象とした。制作調査経費は模型、複製

品、映像・情報ソフト制作に係る学芸員や監修委員、展示協力者の調査・調整のための旅費で、最後の一般管理費は展示業者の管理業務経費である。

末尾になるが、この展示工事には多くの個人や関係団体のみなさんにご協力をいただいた。表4にその一覧を掲載し感謝を記す。

6. 各種委員会

このような大規模な博物館づくり、特に常設展示づくりに関しては、展示監修者として自然、考古、歴史、美術工芸、民俗、教育普及の研究者に委嘱して、協力いただいた（表6参照）。表7は、時系列的に委員会や構想・計画・設計・工事に移行する作業プロセスを示したものである。これに基づき、博物館づくりに関わった委員会の概要について述べる。

【沖縄県立博物館新館建設検討委員会（1990年7月～1991年3月）】

池原貞雄琉大名誉教授を会長とする10名で構成された委員会で、平成2年7月以来5回の会議を経て、1991年（平成3）3月に県教育長へ「沖縄県立博物館の新館建設について」の答申を行った。

答申書では、開かれた博物館、中国をはじめとするアジア地域の資料の調査研究、収集、展示し、国際的な文化交流及び研究機関としての役割、沖縄県の文化情報ネットワークの中核として、県内博物館等施設の情報センターとしての役割、生涯学習施設としての教育普及活動の積極的推進を行う「総合博物館」としての性格づけをはじめ、設置場所については、「多くの県民が利用しやすい交通の便が良い、那覇市（那覇新都心地区など）またはその近郊」と方向性を示した。また、建築規模については、地下1階、地上2階の延床面積18,000m²程度とし、建築デザインは沖縄を象徴するようなもの、と規定した。

【沖縄県立博物館新館建設委員会（1991年7月～1994年3月）】

基本構想に基づき、新館建設の基本計画を策定するために設置された委員会で、建設についての基本計画や内容・規模、建設推進などを調査審議した。鈴木雅夫琉大教授を会長に委員は15名の範囲内で構成された。委員には、学識経験者9名に加え、那覇市教育長、県総務部・企画開発部振興開発室・土木建築部・教育庁の各次長の行政関係者も参加し、構成された。この委員会では、1991年9月より新館建設基本計画の策定のために全国各县の優れた先進的な博物館などの調査を行い、基本構想の理念に基づき、沖縄の独自性と地域特性を踏まえた新しい展示内容と方法を検討し、施設・設備及び管理・運営のあり方まで審議し、報告された。同委員会の庶務は、博物館においてなされた。

【沖縄県立博物館新館展示委員会（1994年7月～1996年6月）】

新館展示の基本計画を策定するためのもので、その所掌事務は、新館展示に関することと規定され、委員は12名で構成され、県教育長によって委嘱された。その構成メンバーは、新館建設委員会の鈴木委員長をはじめ、自然2名、考古2名、歴史3名、民俗及び民族2名、美術工芸2名の委員が委嘱された。同展示委員会では、1994年7月26日から1995年（平成7）3月16日まで9回を数える委員会会議を開催し、展示計画の概要をまとめた。その際に、展示計画を具象化する作業は、展示の理念、展示の全体構成、各テーマに基づいた展示の構成などの展示の基本的な考え方、展示のテーマ設定項目及び展示シナリオ、ゾーニング、観覧動線、平面配置などのイメージパース、展示鳥瞰図などの製作を行うためには、博物館展示に関する高度な企画能力や豊富な経験を有する展示設計を専門とする業者の参画が不可欠である。展示業者、展示委員会、博物館・事務局との三位一体の共同作業が求められる。その展示設計業者の選定に当たっては、発注者の意向が比較的反映される契約方式に留意し、このプロジェクトに対する計画立案力や経験、能力等を書類により申し込む（プロポーズする）する方式で選定することとした。その業者選定にあたっては、教育次長を筆頭に行政4名、展示委員会委員3名の7名によるプロポーザル審査委員会を設置した。審査では評価基準表を定め、プロポーザルの内容を調査、審議し、選定することとした。プロポーザルの評価項目は、博物館に対する基本姿勢（基礎知識、研究心、技術開発姿勢）、展示計画に対する基本的な考え方（理解力、探求力、技術力）、類似館での実績（実績、話題）、推進組織（対応力、即応力）、その他（企業姿勢、作成資料の内容）を総合的に評価するものであった。

11月に決定した展示業者を含め、歴史、民俗、自然史、考古、美術工芸の各分野の展示委員、博物館の担当学芸員と文化課の専門職員を交えた4名～7名で構成する小委員会の会議が12月12日～翌年1月21日の間に4回ずつ開催され、展示基本計画の策定のための集中的な会議がもたれた。

【沖縄県立博物館新館展示監修委員会（第1次 1996年10月～1999年3月）】

（第2・3次 2003年9月～2007年10月）】

沖縄県立博物館新館展示監修委員会は、設置要綱の目的で、「沖縄県立博物館新館展示基本計画」に基づき、沖縄県立博物館新館の展示に関する監修を行うため」と規定し、展示の基本設計を作成する際に設置された。同委員には、県内で活躍する自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗、教育普及の第一線の研究者を委嘱し、博物館学芸

員はその指導や意見を参考に展示内容の充実を期すことに努めた。この委員会では上江洲均氏を会長に、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗分野の合計13名の委員で構成された。第1次委員会では展示基本計画で調整された展示構成案を基に、展示業者による基本的設計図面が作製され、委員の監修を受けた。その成果品として『展示基本設計書』『展示基本設計報告書』が作製された。

またしばらく中断を経て、展示実施設計をまとめる際、委員を若干入れ替え追加を行い、第2次の展示監修委員会を発足させた。再度、上江洲氏を会長に、自然史3名、考古2名、美術工芸2名、歴史5名、民俗2名、新たに教育普及1名の合計15名の委員構成で再スタートした。同委員会は実施設計に加え、展示工事本体においても展示構成をはじめ模型、複製資料、映像ソフト・情報コンテンツ、さらにはグラフィックパネル原稿等についてもその構成内容や詳細について指導監修をいただいた。単年度につき、少なくとも全体会議を2回、6分野の分野別会議を各4回、さらに個別会議を実施した。2003年度から2007年度の5カ年間で延べ会議数は、少なくとも130回を数える。その他、動物及び人骨化石、イノーモデル等については、それぞれ専門家に監修をいただいた。

(園原 謙)

表1 事業推進構成員

室 長		松田 俊世 新垣 隆雄	2003年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年10月31日
副 参 事		長堂嘉一郎 宮城 武司	2003年4月1日～2007年10月31日 2004年4月1日～2007年3月31日
総 務 班	班 長	中村 三鶴 上運天賢一 岡山 稔	2003年4月1日～2005年3月31日 2005年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年10月31日
	主 査	城間 兼一 伊野波和子 佐和田勇人	2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2007年3月31日 2006年4月1日～2007年10月31日
	主 任	天久 公平 松竹 学	2005年4月1日～2007年3月31日 2007年4月1日～2007年10月31日
	班 長	仲村渠 健	2003年4月1日～2007年3月31日
	主任学芸員	園原 謙 與那嶺一子	2003年4月1日～2007年10月31日 2003年4月1日～2007年10月31日
	班 長	仲本 朝久 池田 克紀 與那原 慧	2003年4月1日～2005年3月31日 2003年4月1日～2007年3月31日 2007年4月1日～2007年10月31日
美 術 班	主 幹	翁長 直樹	2003年4月1日～2007年10月31日
	主 査	前田比呂也	2003年4月1日～2007年10月31日
	主任学芸員	豊見山 愛	2005年4月1日～2007年10月31日
	班 長	仲本 興哲	2003年4月1日～2007年3月31日
建 設 班	主 幹	新里 勝	2003年4月1日～2007年10月31日
	主任技師	玉代勢兼一 池村 博康	2003年4月1日～2004年3月31日 2003年4月1日～2007年3月31日
	主 任	富村 智育	2004年4月1日～2007年3月31日

表2 博物館構成員

館長		當眞 崑一 名嘉 政修 宮城 清志	2003年4月1日～2005年3月31日 2005年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年3月31日
副館長 兼庶務課長		友利 克実 宮城 智子	2003年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年3月31日
学芸課	課長	津波古 聰 萩尾 俊章	2003年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年10月31日
	課員	新里 彩 嵩原 建二 座覇 泰 仲座 久宜 赤嶺 敏 田中 聰 久場 政彦 大城 航 勝連 涼子 稻福 恭子 平川 信幸 知念 幸子 羽方 誠 藤田 祐樹 山崎 真治 宮平真由美 上原 久 新名 悟	2003年4月1日～2004年3月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2007年10月31日 2003年4月1日～2007年10月31日 2003年4月1日～2007年10月31日 2004年4月1日～2004年6月30日 2004年4月1日～2004年6月30日 2004年7月1日～2007年10月31日 2004年7月1日～2007年10月31日 2006年4月1日～2007年10月31日 2006年4月1日～2007年10月31日 2007年4月1日～2007年10月31日 2007年4月1日～2007年10月31日 2007年4月1日～2007年10月31日
教育普及課	課長	上地 弘伸 津波古 聰	2003年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年3月31日
	課員	兼島 吟枝 伊波 一男 玉城 善哲 松川 聖子 比嘉 孝子 宮平真由美	2003年4月1日～2004年3月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2004年4月1日～2005年3月31日 2005年4月1日～2006年3月31日 2006年4月1日～2007年3月31日
庶務課	課員	外間 廣子 當間 正子 金城 博之 平良 盛明 平安山明彦	2003年4月1日～2004年3月31日 2004年4月1日～2007年10月31日 2003年4月1日～2006年3月31日 2003年4月1日～2004年3月31日 2004年4月1日～2007年3月31日

表3 博物館収蔵資料整理員一覧

2003年度 前期	浅川 英美、新城久二代、大上 直美、大城 拓也、喜屋武聰子、佐久川志麻、知念 政樹、 當山 直美、山城 敦子、山城 直子(以上10人)
2003年度 後期	江藤奈穂子、大城 勝枝、大仲利江子、勝連 涼子、熊谷 樹、砂川 正幸、玉城さおり、 渡久地弥生、仲地 涼子、譜久村照代、宮城 友紀、屋嘉比貴文(以上12人)
2004年度 前期	我那覇悠子、川島 一誠、吳屋 和江、高橋佳予子、友利 英子、仲宗根三枝子、比嘉 陽子、 満村 法子、村山 由生、永吉 弘子(10)
2004年度 後期	岡村 綾子、兼島 吟枝、金城 成子、金城 敬子、金城 雅代、実藤ももこ、下地 幸夫、 比嘉 孝子、本田 伸明、前田 梨沙(10)
2005年度	大城 磨美、勝連 涼子、我那覇悠子、金城 雅代、末吉 一史、津波 夏子、徳村笑里子、 友利 英子、比嘉 陽子、前田 梨沙、前之園唯史、山城 敦子(12)
2006年度	北村いくみ、具志堅優子、楠井あんり、後藤 健志、吳屋 和江、城間賀代子、平良 典子、 田中 章子、照屋亜希子、仲原 裕子、真喜志悦子、真玉橋麻衣子、宮城 瑞紀、安崎 文人
2007年度	井上 緑、崎間 彩子、嵩原 康平、藤堂 篤、名護 千晶、宮城 直樹、鷲頭百合子

表4 展示工事関係者一覧（五十音順）

1 愛知県美術館	58 石堂徳一	115 大阪城天守閣
2 赤嶺 光	59 石原昌清	116 大城正栄
3 赤嶺政信	60 伊是名村	117 大城拓也
4 秋田県立博物館	61 伊是名村内花区	118 大城 学
5 秋名アラセツ行事保存会	62 伊是名村教育委員会	119 大城美佐子
6 悪石島関係者	63 伊是名村勢理客区	120 大城逸朗
7 栗国恭子	64 伊是名村諸見区	121 大城栄子
8 阿久根市教育委員会	65 伊是名村役場觀光振興課	122 大城弘明
9 安慶名清	66 板井守利	123 大城 勝
10 安次嶺愛子	67 板里義之	124 大城磨美
11 安次嶺浩	68 一宮市尾西歴史民俗資料館	125 大山盛正
12 芦屋市立美術博物館	69 伊藤勝一	126 大山盛弘
13 芦屋町教育委員会	70 伊藤哲也	127 岡本 卓
14 安谷屋昭	71 糸満市	128 岡山県立博物館
15 アップル・フォトスタジオ	72 糸満市教育委員会文化課	129 沖縄環境分析センター
16 阿波連本尚	73 糸満市商工会	130 沖縄県
17 天城町ユイの里テレビ	74 イノシシ牧場	131 沖縄県衛生環境研究所
18 奄美市	75 伊波 寛	132 沖縄県森林資源研究センター
19 奄美市教育委員会	76 伊波丈志	133 沖縄県高等学校地学教育研究会
20 鹿児島県奄美市住用漁業協同組合	77 伊平屋村	134 沖縄県公文書館
21 奄美市立奄美博物館	78 今泉真也	135 沖縄県史編集室
22 奄美野生生物保護センター	79 伊良部町	136 沖縄県酒造組合連合会
23 奄美野鳥の会	80 伊良部町教育委員会	137 沖縄県知事公室広報課
24 あまわり浪漫の会	81 伊良部町漁業協同組合	138 沖縄県土木部中部土木事務所
25 新城俊昭	82 西表島・祖納のみなさん	139 沖縄県南部林業事務所
26 新城康弘	83 西表野生生物保護センター	140 沖縄県平和祈念資料館
27 新嵩喜八郎	84 入里照男	141 沖縄県立大平養護学校
28 アラフ遺跡発掘調査団	85 岩永節子	142 沖縄県立沖縄盲学校
29 有川誠司	86 岩村 哲	143 沖縄県立沖縄ろう学校
30 有川和則	87 植木ちか子	144 沖縄県立芸術大学デザイン専攻
31 飯塚市歴史資料館	88 上里賢一	145 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
32 伊江村教育委員会	89 上門清春	146 沖縄県立総合教育センター
33 池原盛浩	90 上江洲均	147 沖縄県立図書館
34 池間 苗	91 上杉邦憲	148 沖縄県立那覇養護学校
35 池間章郎	92 上江洲睦	149 沖縄県立埋蔵文化財センター
36 池村鍛冶屋	93 上江洲智隆	150 沖縄国際大学
37 伊澤雅子	94 上地利夫	151 沖縄国際大学南島文化研究所
38 石井礼子	95 上原 実	152 沖縄昆虫同好会
39 石垣博孝	96 内間 豊	153 沖縄市教育委員会
40 石垣金星	97 宇土市教育委員会	154 沖縄市立郷土博物館
41 石垣市新川字会	98 浦添市教育委員会	155 沖縄市総務課市史編集担当
42 石垣市新川字会青年会	99 浦添市美術館	156 沖縄市園田自治会
43 石垣市石垣字会	100 浦添市立図書館沖縄学研究室	157 沖縄市園田青年会
44 石垣市石垣青年会	101 うるま市石川歴史民俗資料館	158 沖縄市秘書広報課
45 石垣市大川字会	102 うるま市勝連南風原公民館	159 沖縄森林管理署
46 石垣市大川青年会	103 うるま市教育委員会	160 沖縄森林管理署白浜森林事務所
47 石垣市川平公民館	104 うるま市教育委員会市史編さん課	161 沖縄戦記録フィルム1フート運動の会
48 石垣市教育委員会	105 うるま市平敷屋自治会	162 沖縄全島エバーマツリ実行委員会
49 石垣市広報広聴課	106 うるま市平敷屋青年会	163 沖縄タイムス社
50 石垣市総務部市史編集課	107 うるま市平安座自治会	164 沖縄地学会
51 石垣市登野城字会	108 うるま市屋慶名青年会	165 沖縄テニアン会
52 石垣市立図書館	109 うるま市立城前小学校	166 沖縄テレビ
53 石垣市立八重山博物館	110 N P O法人どうぶつたちの病院	167 沖縄都市モノレール株式会社
54 石神安弘	111 N P O法人日本ウミガメ協議会	168 おきなわワールド～文化王国・玉泉洞～
55 石川苗貞	112 N P O八重山星の会通事安信	169 奥田未吉
56 石川友紀	113 大河原博美	170 奥原崇典
57 石黒直隆	114 大宜味村田港区	171 小熊 誠

172	奥間 敏	230	株式会社沖縄映像センター	288	久貝勝盛
173	尾崎清明	231	株式会社ゼネラルサイエンスコ-ボ レーション	289	後間正輝
174	長田 勇	232	株式会社武村石材建設	290	楠井善久
175	小野田正欣	233	株式会社トータルメディア開発研究所	291	久高島宿泊交流館
176	小野まさ子	234	株式会社ペレオサイエンス	292	国頭村安田公民館
177	親富祖永吉	235	株式会社プラザハウス	293	国頭村奥間区
178	N. Orlov	236	株式会社有斐閣	294	国頭村教育委員会
179	恩納村教育委員会	237	株式会社りゅうせき	295	国頭村森林組合
180	外務省外交史料館	238	鎌倉秀雄	296	国頭村比地区
181	外務省大臣官房総務課移管文書班	239	神谷厚昭	297	国頭村役場
182	芳賀日出夫	240	神谷保江	298	久保源一郎
183	加川 徹	241	川上 真	299	熊谷次郎
184	垣花譲二	242	川口 敏	300	熊本県教育委員会
185	垣花久美子	243	川満勝弘	301	熊本県立装飾古墳館
186	鹿児島県天城町教育委員会	244	環境省沖縄奄美地区自然保護事務所	302	熊本県立図書館
187	鹿児島県伊仙町教育委員会	245	環境省那覇自然環境事務所	303	熊本市立熊本博物館
188	鹿児島県伊仙町立歴史民俗資料館	246	環境省漫湖水鳥・湿地センター	304	久米島自然文化センター
189	鹿児島県宇検村教育委員会	247	環境省やんばる野生動物保護センター	305	久米島町教育委員会
190	鹿児島県沖永良部町教育委員会	248	菊川 章	306	L. Lee Grismer
191	鹿児島県喜界町	249	木崎甲子郎	307	栗田文子
192	鹿児島県喜界町教育委員会	250	喜舎場朝敬	308	栗原達男
193	鹿児島県教育委員会	251	喜如嘉芭蕉布事業協同組合	309	黒住耐二
194	鹿児島県霧島市教育委員会	252	北大東村	310	黒田登美雄
195	鹿児島県薩摩川内市教育委員会	253	北中城村平和文化課	311	群馬県立自然史博物館
196	鹿児島県瀬戸内町教育委員会	254	木寺法子	312	慶田八郎
197	鹿児島県瀬戸内町立図書館・郷土館	255	宜野座村企画課	313	幸喜徳善
198	鹿児島県龍郷町教育委員会	256	宜野座村教育委員会	314	幸喜行有
199	鹿児島県知名町教育委員会	257	宜野座村立博物館	315	幸地良仁氏遺族
200	鹿児島県徳之島町教育委員会	258	木下尚子	316	高知県立歴史民俗資料館
201	鹿児島県徳之島町歴史民俗資料館	259	宜野湾市基地政策部	317	幸地良仁
202	鹿児島県十島村教育委員会	260	宜野湾市教育委員会市史編集	318	河野裕美
203	鹿児島県十島村役場経済課	261	宜野湾市教育委員会文化課	319	神戸市立博物館
204	鹿児島県土木部都市計画課	262	喜宝院蒐集館	320	神戸大学海事科学部海事博物館
205	鹿児島県中種子町教育委員会	263	儀間朝治	321	合名会社中馬工房
206	鹿児島県南種子町教育委員会	264	キャラ OKINAWA	322	肥塚隆保
207	鹿児島県与論町	265	喜屋武幸雄	323	国際通り通り会
208	鹿児島県与論町教育委員会	266	喜屋武敏彦	324	北京故宮博物院
209	鹿児島県立石橋記念館	267	九州国立博物館	325	国営沖縄記念公園首里城公園
210	鹿児島県立図書館	268	九州大学総合研究博物館	326	国際協力機構沖縄国際センター
211	鹿児島県立博物館	269	九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門	327	国立科学博物館
212	鹿児島県立埋蔵文化財センター	270	九州歴史資料館	328	国立科学博物館附属自然教育園
213	鹿児島県歴史資料センター黎明館	271	京都国立博物館	329	国立公文書館
214	鹿児島県和泊町教育委員会	272	京都大学総合博物館	330	国立天文台石垣島天文台宮地竹史
215	鹿児島県和泊町歴史民俗資料館	273	京都大学大学院文学研究科	331	国立民族学博物館
216	鹿児島市美術館	274	京都大学附属博物館	332	国立歴史民俗博物館
217	鹿児島大学附属図書館	275	京都府京都文化博物館	333	小高信彦
218	加島由美子	276	桐野秀信	334	後藤健志
219	加田芳英	277	桐野秀信	335	小波則夫
220	勝連盛輝	278	金城 厚	336	小橋川みさこ
221	嘉手納町教育委員会	279	金城裕幸	337	小濱継雄
222	嘉手納町千原郷友会	280	金城 善	338	小松 寺
223	我那覇慎英	281	金城 功	339	サイオニア
224	金子之史	282	金城和三	340	財団法人美術院
225	金城 厚	283	金城 忍	341	財団法人アジア会館・アジア太平洋資料室
226	株式会社愛知県郷土刊行会	284	金城政勝	342	財団法人上杉文化振興財團
227	株式会社エス・ピー・ピー	285	金城道男	343	財団法人沖縄県文化振興会公文書管理部
228	株式会社教育画劇	286	金城光男	344	財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財團
229	株式会社人文社	287	金武町教育委員会	345	財団法人海洋博覧会記念公園管理財團

346	財団法人東洋文庫	404	瀬戸内町立図書館・郷土館	462	東京大学史料編纂所
347	財団法人徳川黎明会	405	瀬戸戸浩彰	463	東京大学総合研究博物館
348	財団法人松浦史料博物館	406	瀬名波 任	464	東京大学法学部法制史資料室
349	財団法人大和文華館	407	台北駐日経済文化代表処那覇分処	465	東京都江戸東京博物館
350	栄 唯一	408	第4回世界のカーチュ大会実行委員会	466	東京文化財研究所
351	坂口総一郎氏遺族	409	平良敏子	467	當眞嗣一
352	佐賀県教育委員会	410	高里良政	468	當山 忠
353	佐賀県立名護屋城博物館	411	高美喜男	469	当山昌直
354	佐賀県立博物館	412	高橋 健	470	通事安夫
355	崎原綾乃	413	高橋裕博	471	渡嘉敷村教育委員会
356	崎原恒新	414	高橋亮雄	472	渡嘉敷村商工会
357	佐々木健志	415	高 秀子	473	時田賢一
358	佐々木基樹	416	高嶺久枝	474	得能壽美
359	佐次田次男	417	高嶺美和子	475	独立行政法人林木育種センター
360	薩摩川内市教育委員会	418	高良正輝	476	戸田 守
361	佐藤寛之	419	竹富町教育委員会	477	杣木県立博物館
362	佐藤文保	420	竹富町黒島公民館	478	渡名喜村教育委員会
363	座波 泰	421	竹富町小浜公民館	479	登野城武
364	座間味村	422	竹富町小浜民俗芸能保存会	480	豊見城市教育委員会
365	座間味村教育委員会	423	竹富町商工観光課	481	豊見城市真嘉部コミュニティセンター
366	座間味玲子	424	竹富町祖納公民館	482	友利哲夫
367	滋賀県立琵琶湖博物館	425	竹富町竹富公民館	483	友利敏彦
368	滋賀大学経済学部付属史料館	426	竹富町干立公民館	484	豊永盛人
369	七田房子	427	嵩原建二	485	豊橋市二川宿本陣資料館
370	勢理客獅子保存会	428	田中稜郎	486	永井織物株式会社
371	柴田光子	429	棚原章夫	487	中城村教育委員会
372	島よりのり	430	田吹亮一	488	中城城跡共同管理協議会
373	島津忠廣	431	WWF サンゴ 碓保護研究センター・白保サンゴ村	489	中城城跡共同管理協議会
374	島田知彦	432	玉城 肇	490	仲座栄三
375	島田隆久	433	玉城直美	491	仲宗根和則
376	島根県立博物館	434	玉那覇有公	492	中田祐二
377	島袋守成	435	玉寄ウト	493	仲嵩貫一
378	島村賢正	436	田村常雄	494	中西希
379	下川俚貴子	437	田村拓也	495	長野県立歴史館
380	下地 靖	438	多良間村教育委員会	496	中部義隆
381	下関市教育委員会	439	多良間村塩川字会	497	仲間章朗
382	謝敷真起子	440	多良間村仲筋字会	498	長間安彦
383	祝嶺恭子	441	多良間村ふるさと民俗資料館	499	長嶺邦雄
384	首里城公園	442	多和田真助	500	長嶺 隆
385	尚古集成館	443	千木良芳範	501	中村一枝
386	翔南製糖株式会社	444	知名定順	502	仲村信彦
387	ジョージ紫	445	知名定福	503	中村真理子
388	諸喜田茂充	446	知念正永	504	中村家
389	T. Johnson	447	知念イチエ	505	仲村貞男
390	城間恒宏	448	知念利子	506	仲村 昇
391	新垣有美子	449	知念秀樹	507	中本市三郎
392	新城康弘	450	千葉県立房総のむら	508	今帰仁村教育委員会
393	新城栄徳	451	北谷町教育委員会	509	今帰仁村歴史文化センター
394	新城サバニ造船所・新城サバニ館	452	中尊寺	510	名護弘一
395	新城弘志	453	津嘉山酒造所	511	名護市幸喜区
396	杉尾幸司	454	津嘉山寛喜	512	名護市教育委員会
397	瑞慶村實	455	津波高志	513	名護市教育委員会文化課市史編さん
398	砂川博秋	456	寺田考紀	514	名護市天仁屋区
399	諏訪 元	457	伝統組踊保存会	515	名護博物館
400	清見寺	458	天理大学附属天理参考館	516	名古屋市鶴舞中央図書館
401	関 伸一	459	土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム	517	那覇大綱挽保存会
402	関 ツヤ	460	土肥直美	518	那覇市教育委員会
403	関地久治	461	東京国立博物館	519	那覇市久米自治会

520	那覇市国際通り商店街振興組合連合会	578	福島駿介	636	宮里朝光
521	那覇市役所（環境保全課・花とみどり課）	579	福地 進	637	宮永英一
522	那覇出版社	580	藤田一裕	638	宮平初子
523	那覇市歴史博物館	581	藤田喜久	639	村松 稔
524	奈良文化財研究所	582	藤本治彦	640	村山 望
525	成瀬 貫	583	ブラジル沖縄県人会	641	銘苅春政
526	南城市教育委員会	584	プロジェクトスタジオ HIT	642	本部町教育委員会
527	南城市久高区	585	文化庁	643	本部町立博物館
528	NANSEI	586	Margie P. Babon	644	森山写真館
529	南都ワールド株式会社	587	平安名のがゆを記録保存する会	645	安川雄一郎
530	新島義龍	588	坊津歴史資料センター輝津館	646	柳沢牧央
531	新名一仁	589	外間康洋	647	山内平三郎
532	西 和美	590	北海道伊達市教育委員会文化財課	648	山内正子
533	西尾市岩瀬文庫	591	北海道伊達市噴火湾文化研究所	649	山口県文書館
534	西浜良修	592	北海道礼文町教育委員会	650	山口富美男
535	西平守孝	593	堀切シマ	651	山下 亮
536	西銘政秀	594	本郷一美	652	山城謙一
537	日本科学未来館	595	毎日新聞社	653	山城照久
538	日本はきもの博物館	596	眞榮平房敬	654	山城正邦
539	日本民藝館	597	眞榮平康広	655	山田高男
540	布村 昇	598	増永 元	656	山田 實
541	農業生物資源研究所	599	又吉盛清	657	山田文雄
542	野田浩司	600	又吉健次郎	658	有限会社榕樹書林
543	野々村孝男	601	真玉橋長紀	659	有限会社キャンバスレコード
544	野林千枝	602	町健次郎	660	有限会社ティガネー
545	野原朝秀	603	松井正隆	661	有限会社北辰光器製作所
546	登川誠仁	604	松岡 啓	662	与座朝惟
547	登川仁志	605	松岡 茂	663	吉久文雄
548	南風原町教育委員会	606	松岡廣繁	664	吉久文治
549	南風原町立南風原文化センター	607	松川聖子	665	与那国町役場
550	芳賀日出男	608	Max Sparreboom	666	与那国町教育委員会
551	萩原左人	609	松田長祥	667	与那国町久部自治公民館
552	函館市中央図書館	610	松村俊一	668	与那国町史編纂委員会
553	長谷川善和	611	松村久美	669	与那国町祖納家
554	波照間永吉	612	松村雅史	670	与那国町泊家
555	波照間星空観測タワー	613	松本 貢	671	与那国町西公民館
556	馬場悠男	614	松本千枝子	672	与那国町東自治公民館
557	濱口寿夫	615	みちのく北方漁船博物館	673	与那国町比川自治公民館
558	早瀬絹枝	616	南大東島まるごとミュージアム	674	与那国民俗資料館
559	原戸鉄二郎	617	南大東村教育委員会	675	与那原美和子
560	比嘉悦子	618	南大東中学校	676	与那原町教育委員会
561	比嘉信子	619	みのる荘	677	米村 恵
562	比嘉政夫	620	宮城一夫	678	読谷村
563	比嘉やよい	621	宮城信勇	679	読谷村教育委員会
564	比嘉恵一	622	宮城 清	680	読谷村立歴史民俗資料館
565	東村教育委員会	623	宮城欣也	681	ライブスペース鼓饗館
566	比嘉清文	624	宮城国太郎	682	ライブハウス Jack Nasty's
567	比嘉正一	625	宮城秀一	683	ライブハウス 7th Heaven KOZA
568	樋口朋代	626	宮城朝章	684	琉球新報社
569	日越國昭	627	宮城 勉	685	琉球大学附属図書館
570	ひめゆり平和祈念資料館	628	宮城宏之	686	琉球大学理学部海洋自然学科・哺乳類生態研究室
571	平田徳雄	629	宮城 誠	687	琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター
572	平良市役所	630	宮古島市伊良部水産観光課	688	琉球物流中央倉庫
573	広島県福山鞍小松寺	631	宮古島市教育委員会	689	琉球村
574	広島市水産振興センター	632	宮古島市水道局	690	琉米歴史研究会
575	福岡市教育委員会	633	宮古島市総合博物館	691	早稲田大学図書館
576	福岡市博物館	634	都城市教育委員会	692	渡辺 登
577	福岡市埋蔵文化財センター	635	宮里実雄	693	渡辺賢一

表5 展示工事の工種別の経費割合

工 種		割 合
1	総合仮設費	1. 4 %
2	展示造作・展示具	24. 2 %
3	電気・照明	6. 9 %
4	映像・情報システム	9. 4 %
5	施設全体マルチメディア(情報システム)	5. 5 %
6	模型・ジオラマ・動植物標本	16. 8 %
7	複製品	4. 7 %
8	ふれあい体験室資料教材	1. 7 %
9	グラフィック・サイン	4. 6 %
10	映像・情報ソフト	7. 2 %
11	屋外展示	4. 7 %
12	共通備品	0. 7 %
13	製作調査経費	0. 4 %
14	一般管理費	11. 8 %
合 計		101. 0 %

表6 博物館新館に係わった委員会名簿一覧

沖縄県立博物館新館建設検討委員会(池原貞雄 会長、他委員9名)

No.	氏 名	備考(当時の役職)
1	池原 貞雄	琉球大学名誉教授
2	高宮 廣衛	沖縄国際大学教授
3	安次富長昭	琉球大学教授
4	鈴木 雅夫	琉球大学教授
5	屋田 直勝	沖縄県P.T.A連合会会长
6	新城 紀秀	沖縄県社会教育委員の議長
7	大山千恵子	沖縄県婦人連合会会长
8	石川 元康	沖縄県小学校校長会会长
9	国場幸一郎	沖縄県観光連盟副会長
10	崎間 晃	沖縄県銀行協会会长

沖縄県立博物館新館建設委員会(鈴木雅夫 会長、他委員13名)

No.	氏 名	備考(当時の役職)
1	鈴木 雅夫	琉球大学教授
2	比嘉 政夫	琉球大学教授
3	福島 駿介	琉球大学教授
4	土屋 誠	琉球大学教授
5	池田 栄史	琉球大学助教授
6	渡名 喜明	琉球大学助教授
7	仲地 哲夫	沖縄国際大学教授
8	大村 重信	沖縄県建築士会会長
9	嘉手納是敏	那霸市教育委員会教育長
10	屋田 直勝	県立博物館協議会委員(H3)
	玉那霸有紀	沖縄県建築士事務所協会会长(H4・5)
11	安村 哲三	沖縄県総務部次長(H3)
	又吉 辰雄	沖縄県総務部次長(H4・5)
12	仲田 秋一	沖縄県企画開発部振興開発室次長(H3)
	城間 正栄	沖縄県企画開発部振興開発室次長(H4・5)
13	渡嘉敷 勇	沖縄県土木建築部次長(H3)
	山城 佑啓	沖縄県土木建築部施設建築室室長(H4・5)
14	長嶺 義光	沖縄県教育庁教育次長(H3・4)
	仲宗根朝研	沖縄県教育庁教育次長(H5)

沖縄県立博物館新館展示委員会（委鈴木雅夫 員長、他委員11名）

No.	氏名	備考（当時の役職）
1	鈴木 雅夫	琉球大学名誉教授
2	横田 昌嗣	琉球大学理学部教授
3	土屋 誠	琉球大学理学部教授
4	池田 栄史	琉球大学法文学部教授
5	嵩元 政秀	考古学研究家
6	渡名 喜明	元那覇市立壺屋焼物博物館長
7	豊見山和行	琉球大学教育学部教授
8	田名 真之	那覇市歴史資料室長
9	小熊 誠	沖縄国際大学総合文化学部教授
10	崎原 恒新	元県立高校校長
11	翁長 自修	元琉球大学教育学部教授
12	祝嶺 恭子	元沖縄県立芸術大学教授

沖縄県立美術館・博物館新館公開設計競技審査委員会（近江栄 委員長、他委員12名）

No.	氏名	備考（当時の役職）
1	近江 栄	日本大学教授
2	内井 昭蔵	京都大学教授
3	大島 清次	世田谷美術館長
4	鷺塚 泰光	東京国立博物館学芸課長
5	福島 駿介	琉球大学工学部教授
6	備瀬ヒロ子	建築コンサルタント
7	渡久地克子	建築会社
8	鈴木 雅夫	琉球大学教育学部教授
9	我那覇 升	沖縄県建築審査会長
10	大嶺 實清	沖縄県立芸術大学教授
11	城間 喜宏	沖縄県美術家連盟会長
12	祝嶺 恭子	沖縄県立芸術大学教授
13	吉元 政矩	沖縄県副知事

沖縄県立博物館新館展示監修委員会（上江洲均 会長、他委員14名）

No.	氏名	備考（当時の役職）
1	新城 和治	元琉球大学教授
2	太田 英利	琉球大学熱帯生物圏研究センター教授
3	大城 逸朗	元県立高等学校校長
4	池田 栄史	琉球大学法文学部教授
5	知念 勇	恩納村博物館館長
6	高良 倉吉	琉球大学法文学部教授
7	豊見山和行	琉球大学教育学部教授
8	池宮 正治	琉球大学法文学部教授
9	金城 正篤	沖縄大学人文学部教授
10	比屋根照夫	琉球大学法文学部教授
11	小熊 誠	沖縄国際大学総合文化学部教授
12	上江 洲均	久米島自然文化センター館長
13	翁長 自修	元琉球大学教授
14	祝嶺 恭子	元沖縄県立芸術大学教授
15	前田 真之	西原町立坂田小学校校長

表7 年度別博物館新館に關わる委員会と作業プロセスの相関図

年 度	新館展示基本計画		博物館新館・美術館建設工事基本設計		展示基本設計		展示実施設計		展示工事 建物工事		11月開館	
	アール方式による展示業者選定		公開設計競技による展示設計者選定		アール方式による展示業者選定		公開設計競技による展示設計者選定		アール方式による展示業者選定		アール方式による展示業者選定	
2008(平成20)												
2007(平成19)												
2006(平成18)												
2005(平成17)												
2004(平成16)												
2003(平成15)												
2002(平成14)												
2001(平成13)												
2000(平成12)												
1999(平成11)												
1998(平成10)												
1997(平成9)												
1996(平成8)												
1995(平成7)												
1994(平成6)												
1993(平成5)												
1992(平成4)												
1991(平成3)												
1990(平成2)												
1989(平成1)												
1988(昭和63)												
1987(昭和62)												
1986(昭和61)												
1985(昭和60)												
1984(昭和59)												
1983(昭和58)												
1982(昭和57)												
1981(昭和56)	総合文化センター 基本計画											
委員会			新館建設検討委員会	新館建設委員会	新館展示監修委員会	新館展示審査委員会	新館展示監修委員会	新館展示監修委員会	新館展示監修委員会	新館展示監修委員会	新館展示監修委員会	新館展示監修委員会
事務局	教育庁文化課	沖縄県立博物館	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	教育庁文化課	沖縄県立博物館 ・美術館

その他の活動

- I. 沖縄県博物館協会
- II. 県外との関わり
(日本博物館協会、
九州博物館協議会)
- III. 沖縄県博物館友の会
- IV. h a p p (美術館支援会)
- V. 燻蒸・消毒処理
- VI. 刊行物

I. 沖縄県博物館協会

【春期研修会】

平成19年度沖縄県博物館協会の理事会・総会・春期研修会は、2007年（平成19）5月24日（木）に文化王国・玉泉洞おきなわワールドを会場として開催された。理事会は同室にて11：00より執り行われ、18年度事業及び決算報告、18年度事業計画案及び予算案についての審議、沖博協頤彰者及び総会資料の確認を行った。理事会終了後13：00より、平成19年度総会・春期研修会が開催された。総会においては事務局より提案した議題が、承認されて終了した。118名の多くの参加者があった。

研修会では、喜宝院蒐集館館長上勢頭芳徳氏が特別報告として「喜宝院蒐集館所蔵資料の登録文化財指定について」と題して報告をおこなった。有形民俗文化財の国登録文化財は県内では初めての登録である。また、後半の研修会では「これから燻蒸処理について」をテーマとして、沖縄サニタリー株式会社及びイカリ消毒株式会社の担当者から、今後の動向やモニタリングのあり方について説明がおこなわれ、会場からの質疑が交わされた。

現地学習としてガンガラーの谷の風葬跡や珍々洞などをおきなわワールドの大岡素平主任の案内で見学した。

当館からは萩尾俊章、田中聰、久場政彦、赤嶺敏、知念幸子、藤田祐樹、山崎真治、稻福恭子の8名が参加した。

【秋期研修会】

平成19年度沖縄県博物館協会の秋期研修会は、2007年（平成19）10月25日（木）～26日（金）に今帰仁村コミュニティセンターを会場として開催された。当博物館・美術館は11月1日が開館式典であったことから、開館準備業務のため、職員は参加することができなかつた。

初日25日の午後は、今帰仁村歴史文化センター館長の仲原弘哲氏が「山原の歴史と文化」と題して講演をおこなつた。その後、「博物館と地域のかかわり」をテーマとして研修会をおこない、久米島自然文化センターの山城勇人氏とうるま市立海の文化資料館の前田一舟氏がそれぞれ事例発表会をおこなつた。

翌26日は古宇利島視察研修が行われ、島内の文化財を視察している。

（萩尾 俊章）

II. 県外との関わり（日本博物館協会、九州博物館協議会）

【日本博物館協会】

第55回日本博物館協会大会は2007年（平成19）11月15日（木）～16日（金）の両日に新潟県長岡市で開催された。当博物館・美術館からは、牧野浩隆館長と平川信幸学芸員が出席した。当大会のシンポジウムとパネルディスカッションは文部科学省において検討が進められている博物館法改正上の諸課題と、3年前と本年の2度の大震災に見舞われた新潟県の経験に基づいて、震災に対する危機管理の2つをテーマにおこなわれた。

○シンポジウム「新しい時代における博物館制度のあり方」

司会：水嶋 英治（常磐大学大学院教授）

講師：嶋崎 丞（石川県立美術館長）

佐久間 豊（千葉県立中央博物館長）

原 俊夫（原美術館長）

○パネルディスカッション「博物館における地震等の災害への対応と対策」

司会：水野敬三郎（新潟県立近代美術館長）

講師：中島 太郎（新潟県立歴史博物館長）

山屋 茂人（長岡市立科学博物館長）

三井田忠明（柏崎市立博物館長）

【九州博物館協議会】

九州博物館協議会主催の平成19年度九州博物館協議会総会は2007年（平成19）5月17日（木）～18日（金）の日程で宮崎県宮崎市にて、また第37回学芸員・事務員職員研修会は2007年（平成19）10月11日（木）～12日（金）の日程で佐賀県佐賀市にて開催された。

春の総会では総会の後、講演会として西都原考古博物館・北郷泰道氏が「西都原古墳群の謎を解く」と題して講演をおこなっている。秋の研修会では、特別講演会は佐賀城本丸歴史館長・杉谷昭氏が「佐賀城本丸歴史館と鍋島閑叟の時代」と題して講演し、研修会では佐賀女子短期大学学長・高島忠平氏が「博物館・美術館に望むもの」として講演をおこなっている。

当博物館・美術館は11月1日が開館ならびに開館式典であったことから、開館準備業務のため、職員は春の総会及び秋の研修会に参加することができなかつた。

（萩尾 俊章）

III. 沖縄県博物館友の会

沖縄県博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55）1月に発足してから27年目を迎えた。本年度の会員の内訳は、普通会員293人、賛助会員5社及び1人、家族会員56家族（116人）、会員総数415人となっており、年度前半の沖縄県立博物館新館・美術館建設へ向けた動きと連動したのか、友の会の若干の活動低下と会員の減少が目立っている。

11月からは新館内（支援会室）に事務所を移し、年度後半の事業推進と新しい体制（環境の変化に伴う）への取り組みをすすめている。事務局員の池宮城啓子さんは、2008年（平成20）3月31日付で退職された。2007年度の事業内容は次のとおりであった。

1. 事業

【海外研修】

○アメリカ海外研修

場 所：アメリカ・ニューヨーク、ワシントンDC

日 時：2007年7月7日（土）～14日（土）

内 容：「ニューヨークとワシントンDCの博物館・美術館めぐり」を実施した。

参加者：17名

【展示解説会】

○特別展「人類の旅－港川人の来た道－」展示解説会

日 時：2007年12月2日（日）

内 容：特別展「人類の旅」の展示解説会を山崎真治専門員の解説で実施した。

参加者：11名

○企画展「新收藏品展」の解説会

日 時：2008年2月22日（金）

内 容：企画展「新收藏品展」の解説会を稻福・知念・久場学芸員の解説で実施した。

参加者：14名

【自然観察会】

○野鳥観察会

場 所：沖縄県那覇市 漫湖

日 時：2008年3月22日（土）

内 容：「漫湖の野鳥観察会」を会員の嵩原建二氏の解説で実施した。

参加者：20名

【グスクめぐり】

○首里グスクめぐり

場 所：首里城

日 時：2008年3月8日（土）

内 容：「首里グスクめぐり」をテーマにグスク研究所主宰當眞嗣一氏の解説で実施した。

参加者：33名

【散策会】

○新館周辺散策会

場 所：沖縄県那覇市新都心地域（沖縄県立博物館・美術館周辺）

日 時：2007年6月30日（土）

内 容：銘苅古墳群を中心に新館周辺の文化財を今帰仁村発掘調査アドバイザーの金武正紀氏の解説で実施した。

参加者：32名

【鑑賞会】

○組踊鑑賞会

場 所：国立劇場おきなわ

日 時：2007年9月15日（土）
内 容：組踊「義臣物語」を鑑賞した。
参加者：18名

○歌舞伎鑑賞会

場 所：国立劇場おきなわ
日 時：2008年3月16日（土）
内 容：「歌舞伎鑑賞会」を首里城友の会との共催で鑑賞した。
参加者：60名

【特別講演会】

○特別講演会

日 時：2008年2月6日（水）
内 容：「これからのおきなわと博物館・美術館」をテーマに沖縄県立博物館・美術館館長牧野浩隆氏を迎えた実施した。
参加者：108名

【その他】

○新館見学会及び周辺清掃作業
日 時：2007年10月27日（土）
内 容：新館見学会と博物館周辺の清掃作業を実施した。
参加者：25名

2. 会員への情報提供事業

- ・博物館事業及び催し物の案内状発送
- ・友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

3. サークル活動

- ・家譜サークル

4. その他

- ・新館オープンに向けてのポスター等の発送作業
- ・特別展「人類の旅」絵画募集への共催
- ・ボランティア養成講座の受付業務の補助

(友の会事務局)

IV. h a p p (美術館支援会)

h a p p は2005年(平成17)に沖縄県立美術館の活動をサポートする組織として誕生した。その年の9月には、特定非営利法人としての認証を受けている。h a p p とは、h a p p y やh a p p e n の語源となるスカンジナビア語の「h a p p (幸運)」からきている。h =h a p p i n e s s (しあわせ)、h a p p e n i n g (できごと)、a=a r t (アート)、p=p e o p l e (人々)、p=p l a c e (場所)の意味を込めてい る。アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「h a p p =しあわせ」をみつけられる場を作っていくと考え、主に美術館の教育普及活動をサポートしていく。

2007年度は2006年度から引き続き美術館の開館に向け、鑑賞活動を支援するための「ドーセント」の育成に力を入れてきた。2006年10月～2007年3月と2007年10月の2期にわたり、美術館開館記念展『文化の軌跡1872－2007』で活動するドーセントの育成講座を美術館とともに開講した。会期中はドーセントツアーを毎週水曜日と土曜日に行った。その中で視覚に障がいを持つ人とペアもしくはグループで作品を見る「百聞は一見をしのぐ」ツアー、介護施設の方々とまわるツアー、金曜日の夜には「ナイトミュージアム」も開催した。

また2007年6月にはベトナム系アメリカ人の映像作家トリン・T・ミンハ氏の作品上映と講演会への協力や、12月のダンス公演「踊りに行くな！」、タイ×日本共同制作ダンス公演「テーパノン」の開催でも運営や公演記録などでも協力している。2007年7、8月に開催された夏休みの教員向け研修会においても協力した。

2008年3月には2号となる広報誌『h a p p news』を発行し、美術館の各施設の紹介と美術館の活動内容、開館前に行ってきましたワークショップや出前美術館、もうすぐ美術館展などのh a p p の活動内容も紹介しながら、知事インタビュー、収蔵作家のアトリエ訪問、収蔵品紹介など、美術館を知り美術館を楽しむための記事を掲載している。また開館してからは毎月「h a p p newspaper」を発行している。美術館の展覧会やイベント、h a p p のイベントについて情報を掲載し、会員へ配布するとともに、館内に設置し、来館者にも自由に取ってもらえるようにしている。

2008年3月には、東京国立近代美術館と東京都現代美術館を訪ねる研修旅行も実施した。東京国立近代美術館では、展示解説ツアーに参加し、ボランティアの方々や担当学芸員の方とも交流し、今後の参考になるヒントを得ることができ、有意義な研修となった。

(比嘉 明子)

V. 燻蒸・消毒処理

前出であるが2007年度は、首里の沖縄県立博物館から国・県指定の文化財や購入・寄贈資料を含めた87,000点余りの資料と、平和祈念資料館にて保管されていた800点の購入・寄贈資料の移転が完了した。博物館・美術館のすべての収蔵資料を、害虫その他の有害菌から防除し、保存環境の適正化を計るため、施設としては初めての燻蒸・消毒処理となった。

実施日程は、全館一斉消毒処理をピレスロイド系殺虫剤シフェノトリンによるドライミスト法にて9月22日から9月24日までの3日間、湧田窓跡展示棟のヨウ化メチルによる密閉くん蒸を9月21日から9月27日までの7日間行った。その結果すべての作業について、安全かつ円滑に行うことができ、密閉燻蒸については、文化財虫害研究所より合格の判定を戴いた。(表1・2)

これと並行して沖縄県内では初めて導入した、総合的防害虫管理(=Integrated Pest Management 以下略称: I PM)の本格的な運用をするため、今後は消毒処理を中心とした内容へと変更していく予定である。そのため今年度はI PMを行うための指標となる保存環境調査(以下:I PMモニタリング)を9月より毎月行っており現在も継続中である。

I PMモニタリングは全館的に、粘着トラップ・フェロモントラップを、一部にライトトラップを設置することで、状況把握・発生源・虫の種類・数・進入経路の解明に寄与できる。また、エアーサンプラーを用いることでカビの種類・状況の確認ができる。今年度I PMモニタリングを行った9~3月までの7ヶ月間の状況は、次のとおりである。

博物館エリアは、屋外展示では高倉内でキクイムシ、シバンムシが、博物館実習準備室・旧液浸標本室ではチャタムシの発生が確認されており、継続して観察・清掃の徹底が必要である。

美術館エリアは、全体的に良好ではあるが、県民ギャラリー搬入口からゴキブリ、コオロギなどのバッタ類が捕獲されシャッターからの進入についてさらなる防御が必要である。また、廊下の結露が懸念されるため、徹底的な温湿度管理が求められる。

共用エリアでは、ハエ類の捕獲数が増加傾向であるため、さらなる防御が必要である。また、平均値以下ではあるものの全体的に真菌類「ゲオトリクム」の報告がされており、更なる温湿度管理の必要性がある。

これらの結果を踏まえ、次年度以降も沖縄の風土にあったI PMを検討しつつ、継続して取り組みたい。

(知念 幸子)

表1 : シフェノトリン使用総量

消毒処理	容積 (m³)	単位量 (g/m³)	使用量 (kg)	投入時間 (h)	備考
全館合計	83,540	※0.5~5	140.65	48	※平均: 1.68 (g/m³)

※部屋によって異なるが全体として平均単位を算出した。

表2 : ヨウ化メチル使用総量

密閉燻蒸処理	容積 (m³)	単位量 (g/m³)	使用量 (kg)	投入時間 (h)	備考
湧田窓跡展示棟	315	120	37.80	48	供試虫全死 文化財虫害研究所判定合格

VI. 刊行物

	刊行物名	種類	部数	規格（頁）	内容
1	博物館展示ガイド	不定期	10,000	A4 (155)	博物館常設展示図録
2	人類の旅 －沖縄県立博物館新館開館記念展－	不定期	2,000	A4 (63)	博物館新館開館記念展図録
3	沖縄文化の軌跡 1872－2007 －美術館開館記念展－	不定期	2,000	A4 (407)	美術館開館記念展図録
4	新収蔵品展 －平成 17・18 年度収蔵資料－	定期	1,000	A4 (26)	平成 17・18 年度に収蔵した資料を紹介した企画展図録
5	ウチナー探検 －博物館学習ノート（中学生版）－	不定期	600	A4 (26)	博物館新館開館に伴う常設展示室のワークブック
6	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要 第1号	定期	1,000	A4 (104)	学芸員の調査研究報告
7	沖縄県立博物館年報 第40号	定期	1,000	A4 (79)	前年度の博物館活動の状況や概要
8	平成 19 年度博物館教育普及活動	定期	1,000	A4 (89)	平成 19 年度教育普及活動報告

関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取り扱い要領
- 博物館法施行令
- 沖縄県立教育機関組織規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程

関係法規抄録

○博物館法

昭和 26 年 12 月 1 日 法律第 285 号
〔最終改正〕平成 19 年 6 月 27 日 法律第 96 号

第 1 章 総 則

(この法律の目的)

第 1 条 この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 34 条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。第 29 条において同じ。）を除く。）が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第 34 条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第 4 条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第 5 条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目的単位を修得したもの。
 - (2) 大学に 2 年以上在学し、前号の博物館に関する科目的単位を含めて 62 単位以上を修得した者で、3 年以上学芸員補の職にあつたもの。
 - (3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。
- 2 前項第 2 号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第 6 条 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 90 条第 1 項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第 7 条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第 8 条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第 9 条 削除

第 2 章 登録

(登録)

第 10 条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所。
- (2) 名称。
- (3) 所在地。

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜 則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則 (平成19年6月27日法律第96号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号

〔最近改正〕昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社。
- 2 日本放送協会。

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号

〔最終改正〕平成18年3月31日 文部科学省令第11号

第1章 大学において修得すべき博物館に関する科目的単位

(博物館に関する科目的単位)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第5条第1項第1号の規定により大学において修得すべき博物館に関する科目的単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	1
博物館概論	2
博物館経営論	1
博物館資料論	2
博物館情報論	1
博物館実習	3
視聴覚教育メディア論	1
教育学概論	1

備考

- 1 博物館概論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目的内容を統合した科目である博物館学の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学の単位数は、6を下ることはできないものとする。
- 2 博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目的内容を統合した科目である博物館学各論の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学各論の単位数は、四を下ることはできないものとする。
- 3 博物館実習は、博物館(法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。)又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。)における実習により修得するものとする。
- 4 博物館実習の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導の一単位を含むものとする。

第2条 削除

第2章 学芸員の資格認定

(資格認定)

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は無試験認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

第4条 資格認定は、毎年少くとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で告示する。

（試験認定の受験資格）

第5条 左の各号の一に該当する者は、試験認定を受けることができる。

- 1 学士の学位を有する者
- 2 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者で3年以上学芸員補の職（学芸員補に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含む。以下同じ。）にあつた者
- 3 教育職員の普通免許状を有し、3年以上教育職員の職にあつた者
- 4 5年以上学芸員補の職にあつた者
- 5 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（試験認定の方法及び試験科目）

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記及び口述の方法により行う。

		第一欄	第二欄
試験科目		試験認定の必要科目	試験の方法
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目	筆記
	博物館学		筆記及び口述
	視聴覚メディア論		筆記
	教育学概論		筆記
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する二科目	筆記
	美術史		筆記
	考古学		筆記
	民俗学		筆記
	自然科学史		筆記
	物理		筆記
	化学		筆記
	生物学		筆記
	地学		筆記

2 試験科目及び各試験科目についての試験の方法は、次表第一欄及び第二欄に定めるとおりとする。

（試験科目の免除）

第7条 大学又は文部科学大臣の指定する講習等において、前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を1単位（博物館学にあつては6単位）以上修得した者又は講習等を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

2 前項の文部科学大臣の指定する講習等における単位の計算方法は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第2項に定める基準によるものとする。

（2回以上の受験）

第8条 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。

（無試験認定の受験資格）

第9条 左の各号の一に該当する者は、無試験認定を受けることができる。

- 1 学位規則（昭和28年文部省令第9号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者
- 2 大学において博物館に関する科目に関し二年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者
- 3 十年以上学芸員補の職にあつた者で都道府県の教育委員会の推薦する者
- 4 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（無試験認定の方法）

第10条 無試験認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

（受験の手続）

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書（別記第1号様式により作成したもの）に左の各号に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の7第3項の規定により同法第30条の5第1項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- 1 受験資格を証明する書類
- 2 履歴書（別記第2号様式により作成したもの）
- 3 住民票の写し（出願前6月以内に交付を受けたもの）
- 4 写真（出願前1年以内に脱帽して撮影した手札形の写真を葉書大の厚紙にはり付け、裏面に住所、氏名（ふりがなをつける。）及び生年月日を記載したもの）
- 5 試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類
- 6 無試験認定を願い出る者については、博物館に関する学識及び業績を明示する書類及び資料

（試験認定合格者及び試験認定科目合格者）

第12条 試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）のすべてについて合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。）を試験認定合格者とする。ただし、第5条第1号の規定に該当する者については、1年間学芸員補の職の職務に従事した後に、試験認定合格者となるものとする。

2 試験認定合格者ではないが、1以上の試験科目について合格点を得た者を試験認定科目合格者とする。

（無試験認定合格者）

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を無試験認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第14条 試験認定合格者（第12条第1項ただし書に規定する者を含む。）及び無試験認定合格者に対しては、合格証書（別記第3号様式によるもの）を授与する。

2 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

(合格証明書の交付等)

第15条 試験認定合格者又は無試験認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第4号様式によるもの）を交付する。

2 試験認定科目合格者がその科目合格の証明を願い出たときは、科目合格証明書（別記第5号様式によるもの）を交付する。

(手数料)

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
2 無試験認定を願い出る者	3,800円
3 合格証書の書換又は再交付を願い出る者	700円
4 合格証書の交付を願い出る者	700円
5 科目合格証明書の交付を願い出る者	700円

2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第3条第1項の規定により申請等を行つた場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3 納付した手数料は、どういう事由があつても返還しない。

(不正の行為を行つた者等に対する処分)

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2 試験認定合格者、無試験認定合格者又は試験認定科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3 前二項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第3章 博物館に相当する施設の指定

(申請の手続)

第18条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第6号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

- 1 当該施設の有する資料の目録
- 2 直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- 3 当該年度における事業計画書及び予算の收支の見積に関する書類
- 4 当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

(指定要件の審査)

第19条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- 1 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- 2 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- 3 学芸員に相当する職員がいること。
- 4 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- 5 一年を通じて百日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第20条 削除

第21条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第19条第1項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第19条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

(指定の取消)

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第19条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第四章 雜則

(従前の規程による学校の卒業者等)

第25条 第5条第1号に規定する学士の学位を有する者には、旧大学令（大正7年勅令第388号）による学士の称号を有する者を含むものとする。

第26条 第5五条第2号に規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、旧大学令、旧高等学校令（大正7年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者を含むものとする。

第27条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、旧学位令（大正9年勅令第200号）による博士の称号を有する者を含むものとする。

附則（平成18年3月31日文部科学省令第11号）

（施行期日）

第1条 この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第2条 この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、准教授としての在職とみなす。

- 1 学校教育法施行規則第8条第1号ロ
- 2 博物館法施行規則第8条第2号
- 3 大学設置基準第14条第4号
- 4 高等専門学校設置基準第11条第3号
- 5 短期大学設置基準第23条第5号

○沖縄県立教育機関組織規則（抄）

昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号

[最終改正] 平成19年10月30日 教育委員会規則第15号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）及び沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館・美術館）

第4条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に、次の班を置く。

博物館班

美術館班

2 博物館・美術館の所掌事務は、次のとおりとする。

博物館班

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適當であると認められるものを除く。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適當であると認められるものを除く。）。
- (9) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (10) 公印の管守に関すること。
- (11) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (12) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (13) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (14) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

美術館班

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適當であると認められるものに限る。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適當であると認められるものに限る。）。

（職制等）

第7条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館、埋蔵文化財センター、青年の家及び少年自然の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

2 所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第9条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、副所長又は副館長（以下「副所長等」という。）を置く。

2 副所長等は、上司の命を受け、所長等を補佐し、当該教育機関の事務を整理する。

第9条の2 博物館・美術館の班に、班長を置く。

2 班長は、上司の命を受け、班の分掌事務を処理する。

第12条 図書館及び博物館・美術館に、特に必要があるときは、副参事を置くことができる。

2 副参事は、上司の命を受け、特定重要事項を処理する。

第12条の3 図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、特に必要があるときは、主任専門員を置くことができる。

- 2 主任専門員は、上司の命を受け、専門的事務を処理する。
第13条 博物館・美術館に、特に必要のあるときは、主任学芸員を置くことができる。
2 主任学芸員は、上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務を処理する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日 条例第72号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

(位置及び施設)

第2条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち3丁目1番1号とする。
2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 博物館施設
- (2) 美術館施設
- (3) その他施設

(事業)

第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。
(1) 博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
(2) 博物館・美術館資料の利用に関すること。
(3) 博物館・美術館の施設の利用に関すること。
(4) 博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
(5) 博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
(6) 博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
(7) 他の博物館等との相互協力に関すること。
(8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
(9) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(博物館・美術館の管理)

第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

(指定管理者の業務)

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。
(1) 博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
(2) 第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
(3) 第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
(4) 第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
(5) 博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
(6) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

(指定管理者の指定の申請)

第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

(指定管理者の指定)

第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。
(1) 事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
(2) 事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に發揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
(3) 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
(4) 前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

(指定管理者の指定等の告示)

第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。
2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

(休館日)

第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
(1) 月曜日
(2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は沖縄県慰靈の日を定める条例（昭和49年沖縄県条例第42号）第2条に規定する慰靈の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

(開館時間)

第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあっては、午後8時）までとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

(観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。

4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

(観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めたときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。

(3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

(利用期間)

第15条 施設等を引き続いで利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

(1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

(2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。

(3) 許可に付した条件に違反したとき。

(4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

(利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

(事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

(博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。(平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行)

(準備行為)

2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

(沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

3 沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)の一部を次のように改正する。

第1条中「図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条」を削り、「必要な事項」を「必要な事項」に改める。

第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。

第8条中「第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

(沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年沖縄県条例第37号)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。

別表第1を削り、別表第2を別表とする。

別表第1(第11条関係)

区分	基準額(1人につき)	
	個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円
	大学生及び高校生	250円
	中学生及び小学生	150円(県外の中学生及び小学生に限る)
美術館施設	一般	300円
	大学生及び高校生	200円
	中学生及び小学生	100円(県外の中学生及び小学生に限る)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者(小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
- 「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第2(第11条関係)

区分	基準額(1人につき)		
	一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円
美術館施設	常設展	900円	600円
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者(小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第3(第14条、第19条関係)

1 施設利用料金

(1) 博物館施設利用料金

区分	基準額(1日につき)
企画展示室	入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合
特別展示室	入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合
実習室	入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合
講座室	入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合

(2) 美術館施設利用料金

区分		基準額（1日につき）
県民ギャラリー1		8,100円
県民ギャラリー2		7,500円
県民ギャラリー3		7,500円
県民ギャラリースタジオ		8,200円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

(3) その他施設利用料金

区分		基準額（1時間につき）
講堂	入場料を徴収しない場合	3,400円
	入場料を徴収する場合	10,200円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	1時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める付属設備	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 1 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 2 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
 - (1) 午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあっては、午後8時）までの間は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
 - (2) 午後6時（金曜日及び土曜日にあっては、午後8時）後は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第1号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

- 第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第1号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。
- 2 受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書（第3号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第4号様式）を交付するものとする。
 - 3 寄贈又は寄託を要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。
 - 4 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
 - 5 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

- 第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。
- 2 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

- 第4条 条例第6条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第5号様式）によるものとする。
- 2 条例第6条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
 - (1) 法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
 - (2) 法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）
 - (3) 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

- (4) 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）
- (5) 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

（観覧券の交付）

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

（観覧料の免除）

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第6号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

2 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (2) 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (3) 70歳以上の者が常設展を観覧する場合
- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介助員が常設展を観覧する場合

（入館の禁止等）

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) その他指定管理者が適当でないと認める者

（施設利用の許可等）

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第7号様式）を提出しなければならない。

（利用期間）

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

- (1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月
- (2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

（利用料金の免除）

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

（事業報告書の内容等）

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
- (2) 業務に係る収支状況
- (3) 博物館・美術館の利用状況
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（博物館・美術館協議会の組織等）

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

- 2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聞くことができる。
- 8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。
- 9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。
- 10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

（観覧料の割引）

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

（附属設備の利用料金の基準額）

第14条 条例別表第3第2項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

（補 則）

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な申請書等)

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)

3 次に掲げる規則は、廃止する。

(1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）

(2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD・MDプレーヤー	1台	400円
	HD/DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ボーダーライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパー・ホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

区分	単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに
	特別展示室	1時間までごとに
	実習室	1時間までごとに
	講座室	1時間までごとに
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに
	県民ギャラリー2	1時間までごとに
	県民ギャラリー3	1時間までごとに
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに
	県民アトリエ	1時間までごとに
	子供アトリエ	1時間までごとに
	企画展示室	1時間までごとに
	企画展示室2	1時間までごとに
	講座室	1時間までごとに
その他施設	講堂	1時間までごとに

第1号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書	
年 月 日	印
沖縄県立博物館・美術館長 殿	
申込者 住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種 別	2 作 者 名
3 作 品 名	4 製作年月日
5 附 屬 品	6 資料所在地
7 寄 託 期 間	年 月 日 から 年 月 日 まで
8 寄贈の理由	

第2号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書	
年 月 日	印
沖縄県立博物館・美術館長 殿	
申請者 住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。	
記	
1 種 別	2 作 者 名
3 作 品 名	4 製作年月日
5 附 屬 品	6 資料所在地
7 寄 託 期 間	年 月 日 から 年 月 日 まで
8 寄贈の理由	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4判とする。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4判とする。

第3号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受贈文書	年 月 日	沖縄県立博物館・美術館長 印
記		
す。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第2条第4項の規定により返却されません。		
1 種 別	2 作 者 名	3 作 品 名
4 製作年月日	5 附 属 品	6 受託期間
7 時価見積額	8 寄贈の理由	備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第4号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受託承認書	年 月 日	沖縄県立博物館・美術館長 印
記		
す。	1 種 別	2 作 者 名
3 作 品 名	4 製作年月日	5 附 属 品
6 受託期間	7 備 考	8 寄贈の理由
備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。		

第5号様式
(第4条関係)

第6号様式 (第6条開(系))

沖縄県教育委員会 殿	年 月 日
申請者 所 在 地	印
団体の名称	
代表者の氏名	
<p>指定管理者指定申請書</p> <p>沖縄県立博物館・美術館に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第6条の規定により申請します。</p>	
<p>添付書類</p> <p>1 事業計画書</p> <p>2 法人である団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び登記事項証明書</p> <p>3 法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る）</p> <p>4 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類</p> <p>5 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経営的基本を有することを明らかにする書類（申請の日に属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時ににおける財産目録）</p> <p>6 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類</p> <p>7 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類</p>	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第6号様式(第6条開(系))

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	年　月　日	印
観覧料免除申請書		
殿		
申請者　住所	申請者　住所	
氏名	氏名	
電話	電話	
下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第6条第1項の規定により申請します。		
記		
1　観覧者　団体名		
引率者名		
2　観覧者数	人	
3　観覧日時	年　月　日（　曜日）	時～　時
4　申請理由		
承認証		
殿		
年　月　日　付申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。		
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者		
印		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第7号様式(第8条関係)

第8号様式 (第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館		年 月 日		
指定管理者	殿	印		
申請者 氏名	申請者 氏名	印		
電話	電話	印		
記				
下記により貴館施設を利用したいので、申請します。				
1 利用者 団体名 印 職業()				
代表者名 電話				
住所 所				
2 利用目的				
3 利用する施設				
4 利用する日時及び期間				
自：	年 月 日 時 分	至：	年 月 日 時 分	() 日間
5 予定参加人数 人			許可証	
年 月 日付 申請の() 使用の件、申請どおり許可します。			印	
年 月 日			沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	

参考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

参考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願	年 月 日	印
申請者 住 所		
団体名		
代表者氏名		
電話番号		
申請者 殿		
沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願い出ます。		
記		
1 借物の名称		
2 利用する日時及び期間		
自：	年 月 日	時 分
至：	年 月 日	時 分
() 日間		
3 利用期間の変更を願い出る理由		
4 備考		

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年 月 日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者

年 月 日

申請者 住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話 番 号

印

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

1 催物の名称

2 利用目的

3 催物の内容

4 利用する日時及び期間

自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分

() 日間
自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分

() 日間

4 利用する日時及び期間

自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分

() 日間

5 減額・免除を申請する理由

6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年 月 日

申請者 住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話 番 号

印

沖縄県立博物館・美術館

指定管理者

記

1 催物の名称

2 利用目的

3 催物の内容

4 利用する日時及び期間

自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分

() 日間

5 利用料金免除額

6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程

平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会訓令第 13 号

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関するものと定めるものとする。

(任命及び任期)

第2条 館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

2 館長の任期は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、教育庁文化課長は、教育庁総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第3条 館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第4条 館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 館長の1月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は教育長が別に定める。

3 館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第5条 館長は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解任)

第6条 教育委員会は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、任期内でも解任することができる。

(1) 館長の職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 館長として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(5) 任命の必要がなくなったとき。

(補則)

第7条 この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関する必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 19 年 11 月 1 日から施行する。

○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程

平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会教育長訓令第 26 号

(設置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務等)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 資料の調査、収集及び整理に関すること。

(2) 資料の保存、修復等に関すること。

(3) 展示に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条に規定する学芸員資格を有する者

(2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解雇)

- 第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解雇することができる。
- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
 - (2) 前条の規定に違反したとき。
 - (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
 - (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
 - (5) 委嘱の必要がなくなったとき。

(補則)

- 第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程

平成19年10月30日 教育委員会教育長訓令第27号

(設置)

- 第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

- 第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務等)

- 第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。
- (2) 教育関係機関への学習支援に関すること。
- (3) ボランティア活動に関すること。
- (4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

- 第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条に規定する学芸員資格を有する者
- (2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかるわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

- 第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

- 第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

- 第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解雇)

- 第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解雇することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
- (5) 委嘱の必要がなくなったとき。

(補則)

- 第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○美術品調査嘱託員設置規程

平成18年3月10日 教育委員会教育長訓令第1号
改正 平成19年10月30日 教育委員会教育長訓令22号

(趣旨)

- 第1条 この訓令は、県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに關し必要な事項を定めるものとする。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第3条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の調査に関すること。
- (2) 県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
- (3) その他美術品の調査に関すること。

(委嘱等)

第4条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件等)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解雇)

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解雇することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行ふに適しなくなったとき。

(補則)

第9条 この訓令の施行に關し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第22号）

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成18年3月10 教育委員会教育長訓令第2号

改正 平成19年10月30日 教育委員会教育長訓令23号

(趣旨)

第1条 この訓令は、県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに關し必要な事項を定めるものとする。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第3条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
- (2) 県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

(委嘱等)

第4条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

- 2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

- 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件等)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の1月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。

- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に當たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解嘱)

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(補則)

第9条 この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第23号)

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号
〔最終改正〕平成6年3月31日教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

(登録原簿等の様式)

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

(博物館登録申請書の添付書類)

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿（第4号様式）を添付するものとする。

(登録要件の審査)

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

(登録事項等の変更)

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第5号様式）によつて行うものとする。
ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

(博物館の廃止)

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第6号様式）により行うものとする。

(公示)

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附 則

(平成6年3月31日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第1号様式 (第2条關係)

第2号様式 (第2条關係)

博物館登録申請書

No.

(※公立の場舎は設置者の名称のみ記入)

事項	登録		登録		登録	
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
	記号番号	第号				

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

(1) 公立博物館にあっては設置条例の写し、私立博物館にあっては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し

(2) 館則の写し

(3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面

(4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあっては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあっては収支の見積もりに関する書類

(5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面

(6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第3号様式(管2条累係)

博物館資料目録

第4号様式(第3条關係)

博物館名

附錄二

第5号様式
(第5条関係)

博物館登録事項変更届出書

文 書 番 号 日
年 月

施 設 名
届出者氏名

印

沖縄県教育委員会 殿

博物館法第13条第1項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変 更 年 月 日	年 月 日
変 更 の 理 由	
変 更 事 項 の 種 類	
変 更 事 項 の 内 容	日 新

第6号様式
(第6条関係)

博物館廃止届

文 書 番 号 日
年 月

施 設 名
届出者氏名

印

沖縄県教育委員会 殿

博物館法第15条第1項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃 止 年 月 日	年 月 日
廃 止 し た 理 由	
廃 止 後 の 財 産 处 分	
そ の 他 参 考 と な る べ き 事 項	

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成 14 年 3 月 14 日 教育長決裁

(目的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用。
- (2) 同資料の撮影。
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。
- (4) 撮影等による複製品の製作。
- (5) 原資料等の閲覧。
- (6) 教育普及資料の借用。

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合。
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合。
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合。

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始 14 日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第 1 号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第 2 号様式）
- (3) 複製品の製作（第 3 号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第 4 号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第 5 号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容。
- (2) 事業の主体者。
- (3) 事業計画。
- (4) その他必要な事項。

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第 1-1 号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第 2-1 号様式）
- (3) 複製品の製作（第 3-1 号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第 4-1 号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第 5-1 号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成 14 年 4 月 1 日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	資 料 利 用 の 許 可 条 件
利 用 申 請 の 内 容 (各申請様式)	共 通 条 件
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p> <p>・写真撮影、原板 印画の借用 (第2号様式)</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後にを行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後にを行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①展示資料の閲覧は休館日の午後にを行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。 ③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p> <p>①与期間は1週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>
複製品の製作 (第3号様式)	
原資料等の閲覧 (第4号様式)	
教育普及資料 の借用 (第5号様式)	

第1号様式（第4条関係）

第1-1号様式（第6条関係）

資料利用申請書 (原資料等の借用)			
沖縄県立博物館・美術館長 殿	代表者名 団体名 : (担当者氏名) 住所:〒 TEL: FAX:	平成 年 月 日 印	
下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。 記			
事業名 借用希望期間 目的 展示等場所	資料名 資料名 員数 備考	資料名 員数 備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項
 ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保管管理については申請者が一切の責任を負うこと。
 ⑦資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
 ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書 (原資料等の借用)			
平成 年 月 日 印	博 美 第 号	年 月 日	号
申請者 団体名 : (担当者氏名) 住所:〒 TEL: FAX:	沖縄県立博物館・美術館長 殿		
下記により原資料の館外利用について、下記により許可します。			
事業名 借用期間 目的 展示等場所	資料名 資料名 員数 備考	資料名 員数 備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件
 ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保管管理については申請者が一切の責任を負うこと。
 ⑦資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
 ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式（第4条関係）

第2-1号様式（第6条関係）

資料利用申請書 (写真撮影、原版・印画の借用)		資料利用許可書 (写真撮影、原版・印画の借用)																																									
沖縄県立博物館・美術館長 殿	申請者 代表者名：	平成 年 月 日	印																																								
沖縄県立博物館・美術館長 殿	団体名：(担当者氏名) 住所：〒 TEL： FAX：	平成 年 月 日付まで申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。																																									
<p>下記により資料の写真撮影、原版・印画の利用を許可くださるようお願いします。</p> <p>記</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">利 用 区 分</th> <th colspan="2">1 写真原板使用</th> <th colspan="2">2 撮 影</th> <th colspan="2">3 揭 載</th> <th colspan="2">※○で囲む</th> </tr> <tr> <th colspan="2">希望日時・期間</th> <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>～</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>～</th> <th>月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事 項</td> <td>名 称</td> <td>部 数</td> <td>部 数</td> <td>制作予定日</td> <td>備 考</td> <td>事 項</td> <td>名 称</td> <td>部 数</td> <td>制作予定日</td> </tr> <tr> <td>出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※留意事項</p> <p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。 ⑥撮影は原則として休館日の午後にすること。 ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑨郵送費は申請者が負担すること。 ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。</p>				利 用 区 分		1 写真原板使用		2 撮 影		3 揭 載		※○で囲む		希望日時・期間		年	月	日	～	月	日	～	月	事 項	名 称	部 数	部 数	制作予定日	備 考	事 項	名 称	部 数	制作予定日	出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の						出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他			
利 用 区 分		1 写真原板使用		2 撮 影		3 揭 載		※○で囲む																																			
希望日時・期間		年	月	日	～	月	日	～	月																																		
事 項	名 称	部 数	部 数	制作予定日	備 考	事 項	名 称	部 数	制作予定日																																		
出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の						出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他																																					

資料利用申請書 (写真撮影、原版・印画の借用)		資料利用許可書 (写真撮影、原版・印画の借用)																																									
沖縄県立博物館・美術館長 殿	申請者 代表者名：	平成 年 月 日	印																																								
沖縄県立博物館・美術館長 殿	団体名：(担当者氏名) 住所：〒 TEL： FAX：	平成 年 月 日付まで申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。																																									
<p>記</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">利 用 区 分</th> <th colspan="2">1 写真原板使用</th> <th colspan="2">2 撮 影</th> <th colspan="2">3 揭 載</th> <th colspan="2">※○で囲む</th> </tr> <tr> <th colspan="2">希望日時・期間</th> <th>年</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>～</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>～</th> <th>月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事 項</td> <td>名 称</td> <td>部 数</td> <td>部 数</td> <td>制作予定日</td> <td>備 考</td> <td>事 項</td> <td>名 称</td> <td>部 数</td> <td>制作予定日</td> </tr> <tr> <td>出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※許可条件</p> <p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。 ⑥撮影は原則として休館日の午後にすること。 ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑨郵送費は申請者が負担すること。 ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。</p>				利 用 区 分		1 写真原板使用		2 撮 影		3 揭 載		※○で囲む		希望日時・期間		年	月	日	～	月	日	～	月	事 項	名 称	部 数	部 数	制作予定日	備 考	事 項	名 称	部 数	制作予定日	出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の						出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他			
利 用 区 分		1 写真原板使用		2 撮 影		3 揭 載		※○で囲む																																			
希望日時・期間		年	月	日	～	月	日	～	月																																		
事 項	名 称	部 数	部 数	制作予定日	備 考	事 項	名 称	部 数	制作予定日																																		
出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他の						出版物 映 画 テレビ 的 DVD C D その他																																					

第3号様式(第4条関係)

第3-1号様式(第6条関係)

資料利用申請書 (複製品の製作)		平成 年 月 日	
申請者 沖縄県立博物館・美術館長 殿	代表者名: 団体名: 住 所:〒 TEL: FAX:	印 (担当者氏名))	
下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。			
記			
利 用 区 分 希望日時・期間 目的	1 写真原板使用 年 月 日 ~ 月 日	2 摄影 時 ~ 時	※○で囲む ※○で囲む
製 作 仕 様 製作予定日	年 月 日	製作点数 点	
資 料 名	数 量	仕 様	販売価格 円
1.			
2.			
3.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後にすること。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープラビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書 (複製品の製作)			
申請者 沖縄県立博物館・美術館長 殿	博 美 第 号 平成 年 月 日		
平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。			
記			
利 用 区 分 日 時・期 間 目 的	1 写真原板使用 年 月 日 ~ 月 日	2 摄影 時 ~ 時	※○で囲む ※○で囲む
製 作 仕 様 製作予定日	年 月 日	製作点数 点	
資 料 名	数 量	仕 様	販売価格 円
1.			
2.			
3.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後にすること。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープラビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式（第4条関係）

第4-1号様式（第6条関係）

資料利用申請書 (原資料等の閲覧)		資料利用許可書 (原資料等の閲覧)	
申請者 沖縄県立博物館・美術館長	希望日時 年月日	代表者名 団体名：(担当者氏名) 住所：〒	印
TEL： FAX：	下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。		
記			
目的	的	目的	的
閲覧希望日時 資料名	平成 年 月 日 員数	閲覧日時 資料名	平成 年 月 日 時～ 時 員数
1. 2. 3. 4. 5.		1. 2. 3. 4. 5.	

※留意事項
 ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書 (原資料等の閲覧)	資料利用許可書 (原資料等の閲覧)		
印	印		
申請者 沖縄県立博物館・美術館長	希望日時 年月日		
代表者名 団体名：(担当者氏名) 住所：〒	印		
TEL： FAX：	下記により原資料等の閲覧については、下記により許可します。		
記			
目的	目的		
閲覧希望日時 資料名	平成 年 月 日 員数	閲覧日時 資料名	平成 年 月 日 時～ 時 員数
1. 2. 3. 4. 5.		1. 2. 3. 4. 5.	

※許可条件
 ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式（第4条関係）

第5－1号様式（第6条関係）

資料利用申請書 (教育普及資料の借用)		印																
沖縄県立博物館・美術館長 殿	申請者 代表者名： 団体名：(担当者氏名) 住所：〒 TEL： FAX：	希望日時・期間 年 月 日 (時) ~ 年 月 日 (時)	利用区分 1学校(学年・学級)行事 2地域・団体行事 3その他 行 事 名 参加人員 目 的															
下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願ひします。																		
記																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資料名	数量	備考	1.			2.			3.			4.		
資料名	数量	備考																
1.																		
2.																		
3.																		
4.																		

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料や運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用に当たっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)

印	年 月 日	年 月 日	年 月 日														
申請者 代表者名： 団体名：(担当者氏名) 住所：〒 TEL： FAX：	利用区分 1学校(学年・学級)行事 2地域・団体行事 3その他 行 事 名 参加人員 目 的	利用区分 1学校(学年・学級)行事 2地域・団体行事 3その他 日時・期間 年 月 日 (時) ~ 年 月 日 (時)															
下記により申請のあつた資料利用については、下記により許可します。																	
記																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資料名	数量	備考	1.			2.			3.			4.		
資料名	数量	備考															
1.																	
2.																	
3.																	
4.																	

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料や運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用に当たっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

利用区分	1学校(学年・学級)行事	2地域・団体行事	3その他
希望日時・期間	年 月 日 (時) ~ 年 月 日 (時)		
行 事 名	参加人員	参加人員	参加人員
目的			

沖縄県立博物館・美術館年報 No.1

2009年（平成21）2月25日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
住 所：〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号
T E L：098-941-8200（代表）
F A X：098-941-3530（代表）
ホームページ：<http://www.museums.pref.okinawa.jp>
（沖縄県立博物館・美術館ホームページ）
印 刷：株式会社 沖産業
住 所：〒901-2221
沖縄県宜野湾市伊佐2-1-1（TEL：098-898-2191）

- この刊行物は、417,900円の経費により1,000部作成しました。
- 再生紙を100%使用しております。